設

530-104

9.5.21

五
7

法學博士　戸田海市著

工業經濟論

京都　弘文堂發兌

法學博士 戸田海市著

工業經濟論

〔著作集第二卷〕

京都 弘文堂發兌

大正
14. 2. 2
內交

分は一般的社會的なるに反し、工業には固定資本を要するには市況を觀測する社會的智識の外に專門の技術商業の如く機敏の活動を爲し、市況の變動に應じて其業を他業に轉ずること難し。

此の如き兩者の性質上の差異は其從業者の心理狀態は勿論なりと雖、元來此兩者は共に社會の需用供給の狀ことを勉め、相共に都會を構成して生活境遇を同ふするし、特に其相互の關係は非常に親密なるものあり。蓋し

530-104

例言

茲に戸田博士著作集の第二卷として公にせる『工業經濟論』は、神戸正雄博士の編輯に係る『經濟全書』中の一冊として、明治四十三年十月に、嘗て一たび公にされたことのあるものである。今當時の關係者の承諾を得て之を本集に收め得たことは、吾々の本懷とするところである。

博士が最後まで手許に保存されてゐた版本を見ると、餘白に幾多の書入れがしてあり、場所によつては附箋が施されてゐた。しかし其の文字は、六號活字よりも更に小さく、且つ甚しく文字の劃が省略されて居る上に、文章も非常に簡單で殆ど博士自身のこゝろ覺えに止まつてゐるために、これを盡く其のまゝに採錄することは、或る場合には困難であり、また或る場合には無意味であつた。それで約三分の二だけのものには、僅かばかりの文字を補うて、之を採錄したが、殘りの部分は之を棄てゝ仕まつた。

是等博士の手書に基づいて追加した部分は、適當と思はれる本文のそれ〳〵の個所に、六號活字を以て割註として挿入した。從つて章節の區分の上には、何等の變化も加へられてない。

たゞその唯一の例外をなすものは、第六章第三節の第三欵であつて、之は新たに追加された項目に屬する。しかし其處には、記述すべき內容の目錄が列擧してあるだけで、それは獨立した欵としての體裁を成してゐないから、やはり六號活字で印刷するに止めておいた。

是等博士の手書を取捨したものは、本著作集編纂者の一人たる河上である。しかし之が最初の淸書ならびに本書の全體に亘る植字の校正は、弘文堂店員上野法學士の手によつて行はれた。少からざる點において原版の誤植を訂正し得たるは、全く同學士の綿密なる注意に因る。

卷頭に揭載せる肖像は、明治三十六年博士が三十二歲の時の撮影に係る。また筆蹟は、本書の原との版本に加へられた博士の手書の一部（本書二三頁參照）を、其のまゝに複寫せるものである。

大正十四年一月二十日

著作集編纂者　河上肇
　　河田嗣郎

工業經濟論目次

第一章　總論……一
第一節　工業の意義……一
第二節　工業の大都會集中の傾向……三
第三節　工業の地方的分化……八
第四節　工業の分業……一一
第五節　工業發達の條件……一三
第六節　工業と農業及商業との關係及比較……一六
第二章　工業の種類……二六
第一節　手工業……二八
一　手工業の性質……二八
二　手工業の發達……三一
三　手工業の衰退……三六

四　手工業の前途……四〇
第二節　家内工業……四四
一　家内工業の性質……四四
二　家内工業の從業者……四六
三　商業的及技術的從業者の關係……四九
四　家内工業の利害……五一
第三節　工場工業……六二
一　工場工業の性質……六二
二　工場工業發達の條件……六五
三　工場工業の利害……六八
第四節　美術工業……八八
一　美術工業の性質……八八
二　美術工業の盛衰……九六
三　美術工業の經營……一〇二

四　美術工業の前途……一一七
第三章　工業の企業組織……一二〇
第一節　單獨企業と共同企業の長短……一二〇
一　單獨企業の長所……一二〇
二　共同企業の長所……一二二
第二節　共同企業の種類……一二七
第一款　組合企業……一二七
第二款　法人企業……一二九
第一項　會社……一三〇
第一　合名會社　第二　株式會社　第三　合資會社
第四　株式合資會社　第五　其他の會社
第二項　産業組合……一五七
第四章　合同……一六四
第一節　合同の性質……一六四

第一款　合同の起因……一六四
第二款　合同の意義……一七〇
第三款　合同成立の條件……一八四
第二節　合同の種類……一八九
第一款　カーテル……一八九
第一　販賣條件合同　第二　價格合同　第三　販路分割合同
第四　生産制限合同　第五　販賣合同　第六　購買合同　第七　雇主合同
第二款　トラスト……二三二
第三節　合同の利害……二六〇
第一款　合同の利……二六〇
第二款　合同の害……二六六
第五章　工業の資本……二八三
第一節　株式及社債の發行……二八四
第一款　新株の發行……二八七

第二款　社債の發行……二九四
第二節　株式社債發行の媒介……三〇四
第一款　媒介方法……三〇四
第一項　直接媒介方法……三〇五
第二項　間接媒介方法……三一二
第二款　媒介機關……三二一
第一項　間接媒介機關……三二一
第一　不動産銀行　第二　動産銀行
第二項　直接媒介機關……三二九
第一　信託會社　第二　個人金融業　第三　兼營銀行
第三節　媒介の效果……三四九
第六章　工業勞働者……三五六
第一節　總論……三五六
第二節　給料支拂の基本的標準……三五八

第一款　個人拂……三五九
第一項　時間拂及出來高拂……三五九
第一　其性質　第二　其效果
第二項　時間拂及出來高拂の折衷法……三九〇
第一　不足生產減給法　第二　超過生產增給法　第三　擇擇法
第二款　團體拂……三九八
第三款　個人拂及團體拂の折衷法……四〇三
第三節　給料支拂の附隨的標準……四一一
第一款　企業利潤に由る給料の增減……四一一
第一項　生產物價格に由る昇降率……四一二
第二項　利潤分配法……四一七
第二款　生活費に由る給料の增減……四二六
第三款　勞働市場の景況に由る給料增減……四二九
第七章　工業政策概論……四三〇

第一節　中世の同業組合政策……四三〇
第二節　重商主義……四四一
第三節　自由放任主義……四四四
第四節　現時の工業政策……四五一
第八章　工業所有權……四五八
第一節　工業所有權の性質……四五八
第二節　工業所有權發生の手續……四六七
第三節　工業所有權の國際的保護……四七一
第九章　工業教育……四七五
第一節　總論……四七五
第二節　工業學校……四七七
第一款　工業學校の性質……四七七
第二款　工業學校の種類……四八四
第十章　各種工業に對する政策……四九四

第一節　手工業政策……四九四
第一款　教育……四九六
第一　徒弟教育　第二　親方教育
第二款　小機械……五〇三
第三款　產業組合……五〇九
一　組合の性質……五〇九
二　組合の種類……五一二
第一　信用組合　第二　購買組合　第三　販賣組合
第四　生產組合
三　組合の聯合……五一九
四　組合政策……五二〇
第四款　競爭の制限……五二一
第一　不公平なる競爭の制限　第二　從業者の資格制限
第五款　復古的中等社會政策の價値……五三一

第二節　工場工業政策……五三九
第一款　工場工業奬勵策……五四〇
第二款　合同政策……五五〇
第一項　合同禁止策……五五一
第二項　合同事業公有策……五五五
第三項　合同改良策……五五九
第一　合同に反對する勢力の利用策　第二　直接に合同に對する政策

法學博士 戸田海市遺著

工業經濟論

第一章　總論

第一節　工業の意義

工業なる詞には一樣の意義あり、之を技術上の詞としては外界の物體に加工し、卽ち其形體又は內質に變化を加へて之が効用を增大する行爲を云ふ。然るに工業なる詞を農業商業に對立せしめて經濟上の意義に用ゆる時は、如上の技術的行爲を以て獨立の企業とする場合を云ふ。抑も技術上の意義に於ける工業は古へ自給經濟の專ぱら行はれし時代より存在し、加工的勞働の主なる部分を占むる被服の製造は勿論、其他の加工的勞働も多くは婦女の手に由て行はれたり。社會の發達するに從ひ、特に大家族制度成りて家長の統御の下に家族內の分業行はるゝに及び、工業の技術は大に進步して其精巧なるものは漸次男子の手に移るに至れり。故に此時代には旣に技術上工人なるもの存在すれども、獨立の企業としての工業は未だ存在せざるなり。古へ希臘羅馬に於ては汎く奴隷制度行はれ、工業勞働も亦一般の經濟的勞働と共に凡て各家族の有せし奴隷に由て行はれしが故に、工業の技術は後世及び難き程度の進步を爲せしもの尠な

からざりしに係はらず、其の獨立の企業として稍〻盛となりしは兩國共に其隆盛期以後奴隷制度の漸次廢頽せし時代に在り。（獨立の徑路。——一、小家族制度の下に、——大家族制度の下における例外。——二、交通の發達、——消費方面における例外、その變遷。）又中世歐洲諸國に於て工業の技術は夙に大地主又は寺院の自家經濟に於て頗る發達したるものありしも、其の獨立の企業として著しき社會現象となりしは暗黑時代を經過して社會の秩序稍〻回復し、各地方に於て封建的政府確立して其領内に於ける交通經濟盛となり、其結果地方都會の成立するに至りし十一世紀末以後に在り。蓋し工業の獨立企業として盛となるには獨り其技術の進歩を要するのみならず、交通經濟發達し、且つ大家族崩壞して小家族制度起り、從て各家族が其工業品の需用を自から充足するを得ざる場合屢々起ると同時に、土地の所有不平均となり、農業のみに由り生活を立つる能はざる階級生じて工業に從事するに至ることを要す。（自給制の消滅と農民。——小農の生活難。——大農の勞働者不足。）（農民の間における自給制の減退と其救濟。——營利的なる、即ち自給的ならざる、副業。——）此等の條件備はりて各家族の自給經濟の領域より分離獨立するに至れる工業は、各家族にて容易に行ふを得ざる技術上の困難ある作業特に鍛冶工業にして、又其經營の方法は得意の注文に應じ作業を爲す所の手工業なるを常とす。（獨立企業としての工業の他企業との類似度。——他企業が工業に類する點。——鑛業、園藝的農業——園藝的農業は半工半商の手工業に類す。）

第二節　工業の大都會集中の傾向

工業の初めて獨立するや手工業の形に於てし、之に從事する者は村落に居を構へ又は地方を巡歴して營業することありと雖も、稍〻發達するに至れば其大部分は商人と共に交通の中心地に住居して地方都會を組織するものとす。此地方交通の中心を生ずるに至るは或は政治上、宗教上の原因に由るあり、或は水陸自然の地勢上交通に適するが爲めなるあり、特に從來附近の住民が定期に集合して市場を開き交換賣買を行ひたる土地が、商工業者の定住に由り都會となれる場合少なからず。而して此都會は商工業の發達に伴ふて膨脹するものなるが、政治上割據分立の制度行はれし封建時代には勿論、統一集權的國家の成立するに及びても鐵道の如き交通機關の便備はらざる間は、各地方の需用を充たすが爲めには主として地方都會に由らざるを得ず、從つて此時代には一般の地方都會は平均に發達するを常とせり。（歐米の都市と日本の都市との差異。——起源。——經濟上政治上の起源を異にす、日本にては領主は地主たらず、早く一所に集まり、部下も亦た土地を離れ、城下生活を爲せり。外形。——城壁を繞らすと、城壁なきとの差異、日本にては領主の城のみ城壁を有す。——その原因。自主自治の精神の有無。）然るに鐵道の敷設盛となり、其他水陸交通機關の大なる進歩を爲すに至りてより商工業は益々大都會に集合し、從つて大都會ほど人口膨脹の程度大なるの結果を生ずるに至れり。蓋し大都

會は消費の大中心點として商工業を誘ひ來るの力あるのみならず、大都會に於ては工業を營むに付き必要なる各種の商業機關、金融機關等は最も發達し、又自由に多數の勞働者就中高度の教育を有する技術者、事務家を見出し得るの利益あると同時に、交通機關發達すれば僅かの費用に由り廣く他地方に其生産物を販賣するを得るのみならず、各地の消費慣習も交通生活の進歩に伴ふて次第に同化するより、大都會に生産せられたる工業品は汎く之を各地に販賣することと容易となるものとす。此等の事實は工業の大都會集中を來たせし原因なり。（日本における大都市集中の傾向。——集中的國民、——政治の過大勢力、——財政の消費力。——地理的原因。）

工業の都會就中大都會に集中するの傾向は特に近時に於て著しと雖も、今日尚ほ開明國に於ても工業の地方都會及田舍に散在する例外なきにあらず。此例外の第一は地方消費者の需用する工業品にして、或は一々其注文に從ひ作業することを要する場合、例へば或被服の製造又は各種の修繕作業の如き、或は個々の需用者の住所に於て作業することを要するもの、例へば建築に關する作業の大部分の如き、或は容量重量の大にして價格の低廉なるが爲め都會より遠く之を地方に運搬するを得ざるもの、例へば粗造の木工品の如き、若くは腐敗變質の危險大なるより之を都會に仰ぐを得ざるものゝ如き、凡て地方消費者と接觸して存在することを要する工業なり。第二の例外は農民の工業を兼ね行ふ場合なり。元來一般の農民特に氣候寒冷なる地方の農民が冬季に於て農業の餘暇を利用し、自家の消費に供するの外か市場に販賣するの目的を以て工業品を生産することは久しく一般に行はれし所にして、最近に至り先進國に於ては偉大なる工業の發達と交通の進歩とに由り、專業的なる大工場が廉價にして美觀を有する工業品の供給を爲すに至りてより、此の如き副業的生産の範圍は次第に減少せりと雖も、尚ほ耕地の割合に人口多くして農業のみに由り生活を立つること困難なる地方に於ては、農業の副産として工業を營むこと少なからず。或は工業を主として農業を副とするが如き地方あり。我國の如く工業の幼稚なる國に於ては農民の副業的工業は今日益々擴張せられつゝあり、總て此等の副業的工業は後に論ずるが如く家内工業の形を以て行はるゝものとす。第三の例外は貨物の生産上或は粗大なる若くは腐敗し易き原料補助品にして運搬に不便なるものを多く使用する場合、或は廉價なる自然の動力就中水力を使用して工業を營む場合には、其原料補助品の産出地又は動力の所在地に分散して作業すること多し。英國に於て工場を水車場（mill）と稱ふるは工場工業發達の初期に於て山間の溪流を利用し工場を設くること一般に行はれしに由るものなるが、其後蒸汽機械の使用盛となるに從ひて工業は前に述べしが如く生産上種々の便宜を有する都會に

移るに至れり。只輓近良好の水力多くして一面石炭の高價なる國に於ては水力電氣を使用すること盛となりしが、其都會に送電するを不利とする場合には工業を水力所在地に移すことなきにあらず。尙ほ工業の種類に由ては其作業が公衆に有害危險なるより都會の中に之を營むことを得ざる場合あり、例へば或種の化學工業又は爆發物製造の如きは通例都會を少しく離れたる地卽ち郊外に於て工場を設立すること多く、又我國最大の新式工業たる綿絲紡績業も歐米と異なりて市外に工場を設くるもの少なからず。是れ歐米に於ては勞働者を自宅より通勤する所の市內住民の中より取るに反し、我國に於ては地方より募集し來れる女工を寄宿舍に收容するが故に、地價の低廉なる市外に工場寄宿舍を設くるを利益とするのみならず、女工を取締りて其逃亡を防ぐにも市外にあるを便とすればなり。（第四の例外としての職工關係。——女工は家族より離るゝも遠方に行き難し、——女工募集上の必要より各地に工場を分散すること。）（大都會內の各區別。——工業區、商業區、住居區の別。——工業區別設の必要、——衞生の取締上、——原料製品運搬の交通上。）

工業の都會に集中し、特に近時の如く益々大都會に集中することは大に其發達を助くるの利ありと雖も、一面には國民の健康上、風紀上、社會上種々の重大なる弊害を生ずるを免れず。是を以て近時工業を地方に分散せしむべしとの論起り、旣に著名なる田園都市の二三設立せらるゝを見るに至れり。（田園都市。その原因、——住居問題。——その構成。）然れども工業を地方に分散せしむるには非常の困難ありて到底盛に之を行ふことを得ず、他なし、工業が地方に孤立するときは其經營に必要なる交通商業及金融機關等の便利を失はざるべからず、又勞働者の供給に就ても大なる不便を感ずればなり。蓋し勞働者にして都會に住するときは其家族をして相當の職を求め一家の收入を補足せしむること難からずと雖も、田舍に移るときは此の如き利益を失はざるべからず、又一朝業を失ひ又は其地位を拋ちたる場合に、都會に於ては容易に他に就業することを得と雖も、田舍に於ては新たに就業すること難く、從つて勞働者は特定の雇主に依賴し服從するの度大とならざるを得ず、是れ獨立自由を貴ぶ所の開明國の勞働者階級の最も不快とする所なり。彼の田園都市の如きは健康上、娛樂上若くは修養上の設備理想的のものなきにあらずと雖も、此等の設備たる特定の雇主の家長的恩惠の結果に成るものなるが故に、開明國の勞働者は概して之を重要視せず、寧ろ大都會に於ける清潔及不潔なる種々の娛樂其他の生活上の利便と其自由の空氣とを慕ふの情强く、從つて地方の工業は勞働者を誘引するの力乏しきを免れず。加之雇主も生存競爭の激烈なる今日の實業界に於ては、事業の繁閑に從つて自由に勞働者を雇入れ又は解雇して生產高を需用に適合せしむることを要すと雖も、地方に於ては急に多數の勞働者を雇入るゝの困難なるのみならず、一旦地方に誘ひ來りたる勞働者を突然解雇して路頭に迷はしむる

ことは人情の忍びざる所にして、又此の如き酷薄なる態度を取るときは到底勞働者の入用を生じたるとき容易に之を誘ひ來ることを得ざるなり。此等種々の事情に由り田園都市の如き手段を以て汎く工業を地方に分散せしむることは甚だ困難にして、一般の工業は都會を本據とするは已むを得ざるの勢なり。（手工業の田舍中心の傾向）故に工業の都會集中の弊を防ぐが爲には都會に於ける諸般の設備を改善し、特に其交通機關を整備して、勞働者の住居を成るべく健康にして且つ家賃の低廉なる郊外に移すことを得策とす。

第三節　工業の地方的分化

斯くの如く工業は原始產業より離れて獨立し、且つ地方消費者の間に雜居せしものが都會に集中するに至りしが、舊時交通機關の幼稚にして且つ政治上各地方の分立せし時代には、各地方都會の工業は其地方住民の需用に應ずることを目的とし、從つて各都會には殆んど一切の工業成立し、之が爲め各地方は全國の縮寫圖たるの狀を呈したり。然るに封建制度倒れて政治上の統一行はれ、又交通機關の發達するに從ひ、工業品の販路は大に擴張せられて各地方の間に競爭盛に行はるゝの結果、各地方は其生產上最も便利を有する貨物を生產して汎く之を全國に供給するのみならず世界各地にも供給し、爲めに工業の地方的分化を生ずるに至れり。例へば石炭の豐富なる地方には冶金業、硝子製造業其他の窯業盛となり、酒精及砂糖製造業が其原料たる馬鈴薯及甘菜耕作の大中心地に移り、被服及裝飾品の製造が流行の變遷を觀察するの便を有し、且つ此等の工業に適當の能力を有して而も其給料の低廉なる婦女の勞働を得易き大都會に盛となれるが如き是れなり。

交通の進步せる結果一般の工業は消費者と接近して存在するの必要減じ、其生產上の便の大なる地方に引き寄せらるゝに至りしは上述の如くなるが、生產上の便宜と云へば主として資金、原料及勞働者を得るの便宜に外ならず。此三者は場合に由ては同地に並存することなきにあらずと雖も、又存在の地を異にする場合甚だ多し。若し存在の地を異にする場合には三者の何れが最も多く工業を引き寄する力を有するやは一概に斷定するを得ず。舊時小規模の個人企業盛なりし時代には資本家の所在地が工業所在地なりし場合多かりしも、大規模の會社企業盛となれる今日に在ては、資本は汎く之を世間より集合することゝなりしが故に、資本の移動性大となりて原料又は勞働の便の大なる地に向ふの傾を生じたり。然らば原料と勞働とは何れが工業を吸引するの力大なるやと云ふに、是れ亦兩者の比較的移動力の强弱に反比例に定まるも

のなり、即ち自から移るの力強きに從つて工業を吸引するの力小なるものとす。而して此兩者の移動力は各場合に由て同じからず、原料にして保存、運搬し難き場合は勿論、加工の程度小にして生産物の中原料費が主なる部分を占むる場合には、概して原料所在地に工業の發達を見るべく、勞働が重要なる生産要素を爲す場合には其勞働の所在地に工業を吸引すべし。前に述べしが如く大都會に一般工業の吸引せらるゝは勞働供給上の便宜が其一大原因を爲すものとす。只我國の紡績業の如く勞働者を他地方より募集し來りて之を寄宿舍に收容するが如き場合には、勞働の移動力大なるが故に、假令へ勞働は主要なる生産要素を爲すも工業地の撰定は勞働以外の要素に由て決せらるゝこと多く、又米國に於ては歐洲諸國と異なりて原料の吸引力が概して勞働の夫れよりも大なり、是れ米國の工業は今日尙ほ加工の程度低き粗製品が多きを占むるより、原料が主要の地位を有するのみならず、極度まで機械を應用して勞働を節約することは益々原料をして重要ならしめ、加ふるに其勞働者の一大部分は新たに外國より移住し來れる者なるより、水草を追ふて移る遊牧民の如く大なる移動力を有すればなり。左れば歐洲に於ては工業は大都會に集中せらるゝの傾あること前に述べたるが如くなるに反し、米國に於ては輓近諸般の工業は原料を追ふて地方に分散するの傾向あり。（治革的なる各地工業の分化。――地方産業の調査。京都、灘、富山、瀬戸、大阪江戸金澤、福井金澤。――其漸次の堆積。技術、市場、消費中心との接觸）

第四節　工業の分業

工業も他の産業と齊しく分業に由て發達するものなるが、手工業の盛なりし時代には製作品の種類を益々細分して各之を專門の職業とし、之が爲め工業は所謂職業的分業の方法に由りて發達せしも、各個の企業に於ける種々の作業は全く一人にて之を行ふを常とし、所謂技術的分業の行はるゝこと稀れなりき。然るに大規模の工場工業起るに從ひて技術的分業益々盛となり、一の生産作業を數多の部分に細別し、各個勞働者の能力に應じて之を分擔せしめ、又其作業の細分に由り各部分を成るべく簡單のものとして之に特別の機械を應用し、爲めに生産力の偉大なる發達を見るに至りたり。彼のアダム・スミスが分業の利益の偉大なることを說明する爲めに擧げし有名なる留針製造の例に於ては其技術的分業は十八種なりしも、今日は既に八九十種に分業せらるゝに至り、從つてアダム・スミスの例に於ける各勞働者一日の留針生産高は一日四千八百本の割合なりしも、今日は其割合三千倍以上に增加して一人一日の出産高千五百萬本となるに至れりと云ふ。勿論此留針製造の進歩の如きは他に比類稀れなるものにして、之

に由り直ちに一般工業上の分業の進歩を推すことを得ずと雖も、要するに技術的分業の特に著大なることは工業進歩の大原因を爲すものとす。

此の如く技術的分業は益々盛に行はるゝも、近時大企業に於ては職業的分業に反對の方向を採り、互に相關聯する種々の貨物を併せ生産するの傾向次第に盛となれり、其著しき例を擧ぐれば紡績業が同時に織布業を兼營し、或は製鐵所が一方には鐵材機械其他の鐵製品を生産し、他方には石炭及鑛石採掘を營みて原料補助品の自給を爲すが如き之なり。此の如き合業は工場設備の共同使用に由て費用を減じ、或は廢物を利用し、或は自産の原料を使用して其市價變動より起る損失を免れ、或は種々の生産物の中其一部分の價格下落に由て起る損失を他の部分の價格騰貴に由て補償するの機會を作り、以て企業の危險を減少せんとするの目的に出づることは、百貨商店及後章に論ずる所の合同の說明に由て明かなるべし。（集中の行はるゝ理由。——(一)危險減少、固定資本增加に伴うて危險甚だ大となる故、之を減少するの方法必要なり。——(二)技術的分業を一層精細に實行するの必要、集中企業と之が實行可能との關係。——(三)大企業としての經費節減の必要。生産要素の完全利用。——(四)勢力の增大、特に商業に對しての優勢。——集中の行はるゝ前提。——(一)大企業の可能なること、——數量生産、規則的管理。——(二)資本の非人格化、企業の物的化、——株式會社組織、債務は特に債券の形式にて發行。）斯く合業は企業の規模の膨脹に伴ふて起る輓近の一大特色なりと雖も、元來經濟の進歩に伴ひて日に月に新なる貨物の生産起り、其一大部分は之を專門の職業とするを利益とするものなるが故に、前述の如き大企業に於ける合業の傾向は將來職業的分業の數を著しく減少することなかるべし、例へば獨逸の職業調査の統計に由るに一八八二年に在ては職業數六千百七十九種なりしに、一八九五年の調査に由れば其數一萬二百九十五種に達せりと云ふ。同國に於ける職業的合業の傾向特に盛となりしは一九〇〇年以後に在るが故に、此例を以て直ちに將來を推すことを得ずと雖も、職業的合業の爲め將來職業的分業の數年々減少するが如き結果を見ることなかるべし。

第五節　工業發達の條件

工業發達の條件は工業品の種類及其經營方法に由りて各異なりと雖も、今一般工業に通じて其發達條件の重なるものを擧ぐれば、第一交通の發達せることを要す。工業は原始産業より原料を仰ぎて之に加工し、汎く之を消費者に分配するものなるが故に、交通の發達が工業の進歩に重要なるは明かなり。而して交通の發達は國土の形勢、河川及沿海の狀態と外國に對する地位の如何に由て最も大なる影響を受くるは言を待たず。第二には原料補助品の供給の豐富なるを要す。古へ交通の不便なりし時代には各地工業の盛衰は其地方に於ける原料の多少に係はること大なりしが、交通の發達せる現今に在ても石炭及鐵、就中前者の供給の多少は一國の工業

の盛否に大關係を有するものとす。蓋し今日開明國の技術界は所謂蒸汽機械の時代に在るものにして、工業と交通業とは最も多く此利器を應用するものなり。而して之が應用には石炭と鐵を最も緊要とするものなるが、此二者就中石炭は容量大なるより他の一般原料品の如く之を外國より輸入して使用すること頗る困難なり。彼の英、獨、米、白の佛、伊等に比して工業の盛大なるは、此二者就中石炭の供給の豊かなるに原因すること大なりとす。又我國は國土狹少にして一般に原料の產出少なく、特に鐵の缺乏せるは我工業の發達上甚だ不利なりと雖も、一方には石炭の供給相當に存在し、（水力の點。――その利用は今日未だ盛ならざること。）且つ世界交通上便利の地位に立てることは、我工業の進歩を助くる自然的原因の大なるものなり。第三に工業の發達に必要とする國民の性質に就ては舊時盛に行はれし手工業と、現今盛なる大規模の工場工業とに由りて同じからず。手工業の進歩には國民の嗜味の發達と手腕の妙用を有することゝは大なる關係ありと雖も、大規模の工場工業に在ては國民の體質强健にして耐久力に富み、且つ大なる團體に加はりて規律に服從し、各自擔任の仕事に專心從事するの能力、卽ち分業的能力の大なることを要す。今日羅甸人種が工場工業に於て日耳曼人種に敗を取れるは此能力の缺乏に原因する所少なからざるが如し。（手工業にあつては、感情作用、社交的關係が重きをなすも、工場工業にあつては、カと自然征服が重きをなし、從つて發明をなすの素質、勞働の强力等が重きをなす。）第四には生產要素の中勞働及資本の供給比較的に大なることを要す。蓋し人口稀薄にして土地餘りあるときは農業を營むこと最も利益あり、從つて一國の勞働及資本は多く工業に向ふことを得ざるなり。此の如き場合には假令へ國民の工業的技術の進歩大なるも尙ほ工業品は農產物に比して高價となり、從つて農產物を輸出して工業品を輸入するを利とすべし。彼の米國が國內工業を保護するが爲めに高率の輸入稅を必要とする所以は、必しも米國の工業技術が歐洲諸國に比して一般に劣り又は資本の一般に缺乏せるが爲めにあらず、或種の工業技術に於ては米國は世界最高の發達を爲せりと雖も、歐洲舊國に比すれば土地の供給多くして農業を營むことが更に大なる利益あるが爲めなり。今日統計の示す所に由れば少くとも一平方キロメートルに付き人口五十乃至六十に達せざれば工業を盛にすること難きが如し。又人口の稠密なることは一方には工業を營むに必要なる勞働の供給を豊かにし、他方には工業品に對して大なる市場を構成するが爲めにも必要なり。工業にして高度の發達を爲すときは汎く世界に販路を擴張するを得べしと雖も、其幼稚なるに當りては先づ其販路を近くして安全なる國內市場に求むることを要し、又其の大に發達したる後に於ても尙ほ、市況を明にすること困難にして且つ貿易政策に如何なる變動を生ずるやも測り難き外國市場のみを相手とせずして、此外に安固なる廣大の國內市場を有する

ことは工業の發達上大なる利益なり。尚ほ工業にして大に發達するときは資本の力を要することと大なるが、今日資本を外國より輸入することは勞働を輸入するよりも遙かに容易なり。輓近我國に於て工業の進歩著しきは人口大にして土地少なること其一大原因を爲すものとす。尚ほ以上の諸條件の外一國の政策が工業の盛衰に大なる關係を有することは後に至りて説明すべし。

第六節　工業と農業及商業との關係及比較

工業者は農業者より原料と食物とを仰ぎ、其生産物の一大部分をば更に之を農業者の需用に充つるものなるが故に、工業の發達には農業の發達を要すること明かなり。又農業が生産する食物原料は工業發達して初めて大なる需用を見出すことを得べく、且つ工業の發達に由て農具肥料等の農用品の進歩を來たすものなるが故に、農業の發達も亦工業の進歩に依賴せざるを得ず。實に農と工とは國民經濟の兩翼と云ふべきものにして其關係極めて密接なりと雖も、二者の利害は必しも常に相一致するものにあらず、例へば工業の大に發達するときは田舍の人口都會に集中して小作人及農業勞働者の缺乏を來たし、農民の貯蓄せる資本は多く都會に吸收せらるゝが如き結果を生ずべく、又農業保護の爲めには食物原料の輸入を制限するの必要を見ることなきにあらずと雖も、（農企業の政府指導。——內地植民、——低利資金の貸付。）是れ工業に對しては大なる打擊を與ふるを免れず。此の如き農工業の利害の衝突は如何なる點に於て調和を求むべきやは商業政策の研究に讓り、茲に農と工との性質の相異なる點に就て研究すべし。

農工二業の生産物に對する社會の需用に就て見るに、農業の主として生産する穀物、蔬菜、肉類の如き必要品に對する世人の欲望は生理上の限度ありと雖も、一般工業品に對する欲望は無限に增進するが故に、社會の進むに從ひ工業の發達は農業に比して益々大となるものなり。特に個々の國に就て見れば國際間に分業の行はるゝ結果、人口稠密にして資本の豐かなる先進國は主として工業に力を注ぎ、農産物の供給は之を後進國より仰ぐが故に、先進國に於ける農工二者發達の程度は益々大なる懸隔を示さゞるを得ず。更に之を生産の方面より觀察するに農業は動植物の自然の生育を保護助長するに在るを以て天然に支配せらるゝこと甚だ多く、特に其作業は四時の順を追ふて行ふを要し、又其從業者は廣大なる地域に分散して勞働することを要するが故に、其作業に機械を使用し又は分業を採用すること容易ならず、然るに工業は人力を以て天然を支配することを主とし、其作業は多數の勞働者を一所に集合して行はるゝこと多く、作業の場所を移動すること少なく、又時候の如何に由りて作業を中止するの必要を生ずる

こと少なく、必要の場合には晝夜を通じて作業を繼續することを得るが故に、分業を行ひ又は機械を應用すること頗る容易なり。是を以て智識の進歩と資本の增加との結果たる諸般の改良發明は主に工業に應用せらるゝものとす。又農業は生產を增加するに從ひて收獲漸減の法則に支配せらるゝに反し、工業は其生產の規模を擴張するに從ひ生產費の減少を來たすを常とするが故に、農業に比して其發達の度益々大となるものとす。（マルサス人口論と工業の進歩との關係、――汎く世界を通じて。）而して農業には收獲漸減の法則行はるゝ結果、極めて生產に適當なる土地を有し、且つ農業經營の能力と資本とを充分に有する者と雖も、無限に其生產を擴張して競爭上他の同業者を壓迫することを得ず、之が爲め同地方內の農民の間には概して競爭關係存せざるが故に、事業の改良を刺戟せらるゝこと少なきに反し、工業に於ては同業者の競爭極めて激烈に行はれ、各從業者は少しく怠るときは忽ち其販路を侵略せらるゝの危險あり。是れ亦後に說明する農工民の間に保守と進歩との氣質の差異を生じて二者發達の程度を異ならしむる一大原因なり。

要するに一國の人口增加し經濟の進歩するに從ひ、工業は農業に比して經濟上益々重要の地位を占むるに至るものとす。而して一國の工業進歩するに從ひて國際貿易額大に增加し、其貿易關係は勿論輸入には原料食物の比例增加し、輸出には工業品の比例增加するものとす。又工業の中手工業の如きは主として勞働に由るに反し、今日の如き大規模の工場工業發達するに從ひ資本が勞働よりも益々重要となると雖も、尙ほ英國、白耳義、獨逸の如き工業の進歩したる國に於ては農業に從事する者よりも工業に從事する者の數多く、其他の開明國に於ても工業に從事する者は次第に增加するに反し、農民の數は增加すること少なく、或は其減少を見るに至れる國も少なからず。今各國に於て生產に從事する人口の中工業及鑛業に從事する人口の百分比例を擧ぐれば凡そ左の如し。

英國	五三・七	瑞西	四〇・七	白耳議	三八・四
獨逸	三七・四	和蘭	三三・七	佛蘭西	三三・六
伊太利	二七・六	北米合衆國	二四・一	丁抹	二三・九
諾威	二二・九	墺太利	二一・九	瑞典	一五・〇
匈牙利	一二・六	西班牙	一二・三	歐羅巴露西亞	六・四

此表は工業及鑛業に從事する人口の總生產人口に對する割合なるが、商業及交通業に從事する人口を之に加へて農民と對立せしむるときは、各國民經濟に於ける商工業對農業の關係の一端を窺ふことを得べし、通例商業及交通業に從事する人口は總生產人口に比し、開明國に於ては一割一步乃至一割三步にして、經濟の幼稚なる國は三步乃至五步の間に在るべし。而して右の

表に於ける獨逸以上の諸國は所謂商工業國、又瑞典以下の諸國は純農國と稱せられ、其他の諸國は農工商併立國と稱せらるゝものとす。

農工兩業の從業者の性質を見るに、第一此兩者は心理的狀態に於て大差あり。抑も農民は地方に分散して廣く世間と接觸せず、其作業は主に天然に服從し人爲を以て之を左右すること難し。故に商工民は機敏にして自由を愛し進取の氣象に富むに反し、農民は從順遲緩にして忍耐保守の力に富むものとす。（工は農と商との中間的なること、その變遷、大企業。）又農業の性質上資本を巧みに運用して商機を利用すること難きのみならず、其生産物の一大部分は直ちに之を自家の消費に供するものなるが故に、商工民の如く其業を以て全然收益手段と見做し、損益の打算に機敏なるものと異なりて、營業と家事經濟とは判然分離せられず、損益の計算を離れて土地を愛重し、其行動は經濟主義に反すること多し。（海外移民と食物生産。）又農民が一家族相扶けて勞働に從事し、日常他人と交際するの少なきことは其家族思想を强からしめ、弘く世間と接觸せずして鄉土に定着し、隣人と相交るの深きことは其の愛鄉心を盛ならしむる所以なりと雖も、商工民に在ては日常弘く世間に接觸するより自然に其思想濶大にして廣汎なる社交性の發達强きと同時に、其自我意識の發達も强く、所謂世界主義なると同時に個人主義なりとす。尙ほ農民と商工民とは其住居及職業の關係よりして體質健康の上にも大差あり。最も商工民の內小賣商人及手工業者の如きは其心理狀態は頗る保守的にして農民に相似たる性質を有するものとす。

次に農工從業者中の各階級間の關係を見るに、第一大小企業の關係に於て兩者の間に大差あり、農業に於ても土地の私有行はれて後次第に兼併の傾を生じ、其極遂に封建制度の發生を見るに至れりと雖も、此制度の下に於ては所謂農民の間には土地の分配平均して地位の懸隔少なく、封建制度倒れて土地の賣買自由となりしより再び兼併の勢を生じたりと雖も、元と農業に於ては同地方又は同國の內には競爭殆んど存立せず、且つ農業は進步して集約となるに從ひ勞働を要すること多くして小規模の經營を有利とするが故に、中小農民を維持すること必しも難からず、（我國農業の變遷、小作企業。）然るに工業に於ては競爭の行はるゝこと激烈にして中小企業は大企業に敵すること益々困難となるものとす。是れ工業界に於ては大小企業の反目甚しきに反し、農業界に於ては大小企業者相團結して商工業に對立し、能く其共同の利益增進に勉め、特に政治界に於て農民黨の勢力割合に强大なる一原因なり。第二に企業者と勞働者との關係に就ても農工の二者は頗る異なれり。農業に於ては一般に小企業多きのみならず、大農制度の行はるゝ場合にも企業者と勞働者の間には主從の關係尙ほ存立して社會問題を生ずること少なきに反し、

工業に於ては大企業多く行はれて企業者と勞働者の間に多く人的關係存せず、加ふるに工業勞働者は都會に住居して自由の空氣を呼吸し、且つ日常多數者相接觸して業を執るより其間に強固なる團結運動を生じて企業者の勢力に對抗し、以て社會問題を惹起するに至るものとす。元來社會の進歩は常に下級者の向上に相伴ふものにして、封建制度及君主專制々度を倒し自由制度を建てたるは貴族に對する平民階級の向上の結果なり。今日開明國に於ける社會問題なるものも社會の進歩に伴ふ所の下級民の向上の結果に外ならずして、主に有產者無產者兩階級の鬪爭として現はれ、而も此の鬪爭は有產者と無產者の對立の最も顯著なる工業界に於て最も激烈に現はれたりと雖も、本來社會問題なるものは工業に特有のものにあらず、苟くも有產者と無產者の對立する場合には農業、商業に於ても起らざることを得ず、又階級の高下を分つものは今日に於ても獨り資產の有無のみに由るものにあらずして其他の事情に由るものあり、其事情の如何を問はず苟くも階級別の存する以上は早晩其間に社會問題起らざるを得ず、例へば今日先進國に於ける女權擴張運動卽ち男子の勢力に對する女子の反抗の如きも、其性質は工業界に於ける社會問題と齊しく文明の進歩に伴ふ所の下級者の向上の結果に外ならず、故に工業界に於ける社會問題を以て單に之を工業界特有の現象と解し、若くは之を以て單に富の分配に關するものと見做して之が解決を試みんとするは誤れり。

最後に工業と商業とを比較せんに、古へ商業を行ふには同時に車馬船舶を備へ倉庫を有するの必要ありて、相當の固定資本と勞働者とを必要とせしも、今日は交通業、倉庫業は獨立の企業となりしより、商業は貨物の分配作用に其力を集中するに至り、從つて商業は勞働者を使用すること少なく、又其勞働者は工業勞働者の如き力役を主とする者にあらずして精神的勞働を爲すこと多く、爲めに其敎育の程度も收入の額も概して高くして、工業界に於けるが如き激烈なる社會問題を生ぜず、又商業に使用する資本は主に流動資本にして、其經營に必要なる智識の一大部分は一般的社會的なるに反し、工業には固定資本を要すること多く、且つ之を經營するには市況を觀測する社會的智識の外に專門の技術を必要とし、從つて工業は商業の如く機敏の活動を爲し、市況の變動に應じて其業務を伸縮し若くは一業より他業に轉ずること難し。(二者の差。——工業は、安定保守の農業と、不安定進取の商業との中間に立ち、一面には天然、他面には社會に交渉す。技術的方面より來たる工業の非經濟的、非社會的性質、營利心の欠乏。農業と異り工業にあつては技術上の變化改良に熱心なること。——大企業時代の資本運用主義において工業と商業とが大に接近すること。——資本家的財政家の重用、技術家の從屬、企業の動產商品化、技術の合理的、非個人的、非嗜味的傾向。)(商業の不安定と工業の比較的安定。——商業にあつては一攫千金、一敗地に塗る、工業にあつては天然を相手とす。前者にあつては、一攫千金の誘惑大にして、營業者は個人的世界的、活動的　散財的なると異り、後者にあつては、正直を必要とし、營業者は個人的世界的の中間にありて、忍耐的、貯蓄的なり。)

此の如き兩者の性質上の差異は其從業者の心理狀態にも幾分の差異を生ずるは勿論なりと雖も、元來此兩者は共に社會の需用供給の狀況を案じて之に適應することを勉め、相共に都會を構成して生活境遇を同ふするより二者の性質大に相類し、特に其相互の關係は非常に親密なるものあり。蓋し商業の目的物たる商品としては、工業品が容量大にして取扱に不便なる農產物よりも適當なるのみならず、經濟の進步するに伴ひ工業は益々發達するが故に、商業の主たる目的物は工業品たらざるを得ず。是れ商業の發達には工業の發達を最も必要とする所以なり。又之を工業の側より見るに原料の仕入、製品の販賣は商業に由るを必要とするのみならず、生產の種類、數量を決するには市況の觀測を主たる任務とする商人の力に依賴するの必要あり、卽ち工業者は商人の注文の有樣を見て其生產の方針を決定するの必要あり。又商人が市況を察し一定の價格にて一定の數量を豫じめ工業者に注文するは、是れ卽ち商人が後日相場の變動に由て生ずる危險を自から負擔して工業者を安全の地位に置くものに外ならず。故に工業の發達には必らず商業の進步を必要とす。

此の如く兩者親密の關係あるより利益代表機關を組織するに方りても商と工とは相合して商業會議所を設け、農民の組織する農會と相對立するを常とす。然れども一方に於ては此兩者は買手賣手の關係を有し、商人は安く買はんとし、工業者は高く賣らんとして互に相爭ふは勿論なり。舊時工業の一般に小規模の經營に由りし時代には、商人は其資本の力と市場に關する智識とに由りて工業者を左右すること多かりしも、工業が大規模となり、特に其間に合同の成立するに及びて、商業は往々工業の勢力に左右せらるゝを免れざるに至れり。尙ほ商業は商品の產地の內外又は生產者の種類の何たるを問はず其取引の增進を希望し、從つて交通取引の自由就中自由貿易を希望することを常とするに反し、工業者は競爭の制限に由りて自己の繁榮を計らんとするが故に、保護政策を主張して之に反對する場合少なからず。

第二章　工業の種類

工業は種々の標準に由て之を區別することを得べし、例へば其生產物の加工の程度に由て半成品工業と全成品工業とに分つを得べし。此區別の實益の最も著しく現はるゝは貿易政策及合同政策を研究する場合にあり、卽ち半成品工業は紡績業、製鐵業の如く概して其產額巨大にして一國の工業の重心を爲すものなるが故に之が保護奬勵を必要とすと雖も、其保護手段の如何に由ては半成品に加工する所の全成品工業に打擊を加ふるを免れず。然るに一國の工業をして遠大の發達を爲さしめんとせば、全成品工業を盛にして粗より精に向はしめざるべからず、故に此兩者の利益を調和せしめて各相當の發達を爲さしめんとせば貿易政策上巧妙なる措置を爲さゞるべからず。又合同は通例半成品工業に付て成立するものなるが故に、全成品工業は合同の爲めに利益を害せらるゝこと少なからず、從つて合同政策を講究するにも深く此點に注意を要するが如き是れなり。或は工業を其技術の上より分ちて機械工業と手製工業とし、或は工業品の用途より享受品を生產するものと之を生產する手段となる機械、器具、原料、補助品等を生產するものとに分つが如き、何れも實用の點なきにあらずと雖も、此等の點は後に他の問題に附隨して研究せらるゝが故に、此所には經營方法の上より工業を手工業、家內工業及工場工業に分つて研究すべし。此三種の經營方法は大體發達の順序に於ても、又從業者間の社會的關係に就ても大なる差異ありて、通例工業の區別と云へば卽ち此三種の區別を指すものとせらるゝが如き重大の意義を有するものなり。尙ほ工業を消費の性質よりして實用品工業と美術工業とに分つを得べし、舊時經濟の幼稚なりし時代には少數なる上級者の需用を目的とする美術工業は重要の地位を占めしも、今日の如き進步したる交通經濟の時代に於ては工業の主たる目的物は一般民衆の日常生活に要する所の實用品にあり。然れども社會の進步するに伴ふて美術工業品に對する需用は次第に增加し、且つ一般實用品にも相當の嗜味を有せしむるの必要生じ、從つて美術工業の普遍的發達を要するに至る。此の如く美術工業は社會の進步に伴ひ生產問題として次第に重要の度を加ふるのみならず、眞個圓滿なる社會の發達に必要なる文化的進步と重大の關係を有するが故に今日の經濟學は之が研究を等閑に附することを得ざるなり、又我國の如きは特別の事情ありて美術工業の發達には大に意を用ひざるべからざるものあり。故に本章の終りに於て別に美術工業に就き研究すべし。（摸倣工業と固有工業との區別。——(一)我國工業の墮勞、固有工業は原始的、其結果、必要品の高價、資本及勞働の高等の運用不能。(二)解決。(1)生活變、近き將來に不能、(2)獨創造力養成、創造力の特色、其二種、趣味的、質的と力的、量的と、今日の急務、英人の特色、自然界征服の力主義の實現。）（粗と精。——我國と先進及後進國。歐洲

戰爭と我精製工業。）（機械と手工。——我國機械工の幼稚、(1)發明、(2)資本、(3)比較的手工の低廉。——列國との競爭、(1)先進國に對し、(2)後進國に對し。）

第一節　手工業

一　手工業の性質

手工業とは之を營む者が直接に消費者に對して工業品を供給し、又は其需用に應じて加工的勞働を爲す所の小規模の工業にして、其作業を爲すや主として消費者特別の注文に由る者なり。（消費者注文と仲間商人注文との區別。）故に或は手工業を稱して注文工業とも云ふ。此の如く其經營方法に直接に消費者の需用に應ずるに在りて、商人の媒介を藉るは例外なるが故に、其生產物の販路も地方市場に限られて遠隔の地に出づるは例外に屬し、從つて其企業は小規模にして企業者自身に技術的勞働の全部を爲す事多く、補助者を使用する場合にも其人數は極めて少なきを常とす。故に手工業者の所得の主なる部分は其技術的勞働に對する報酬より成り、其企業勞働に對する部分は僅少に止まる者とす、從つて其所得額は之を普通勞働者に比すれば幾分か大なるを常とすと雖も、工場勞働に從事する上等職工に比すれば小なる場合も少なからず。只其獨立の企業者たるの地位を有する關係より、職工の上等なる者とは其性質自ら異なる所多く、社會階級上概して之を中等社會中の下位に列すべき者とす。

手工業なる文字の示すが如く其作業方法は主に道具を使用して行ふものなり。近時手工業の進歩したるものは小動力機械を使用するものなきにあらずと雖も、動力機械を使用すれば必然其生產に大なる增加を來たし、從つて其全部を直接に消費者に販賣することを得ずして商人の仲介に由り之を販賣するの必要を生ず、然るに生產物の大なる部分を商人の手に由て販賣するに至れば、遂に手工業の性質を失ひて家內工業又は小規模の工場工業に變ずるを免れず。又手工業は元と直接に消費者の需用に應ずる範圍に行はるゝ小企業なるが上に、其作業には主に道具を用ひ、且つ補助者を使用すること甚だ少なきが故に、作業の各部分は通例一人にて盡く之を行ひ、從業者の間に技術的分業を行ふことなきを常とす。是れ手工業をして分業方法に由るを常とする工場勞働に比し特に其作業上の興味を多からしむる所以なり。而して手工業の從業者は簡單なる道具を使用して仕事の全部を行ふことを要する結果、之を營むには多年の練習を爲すを必要とし、從つて一人にて性質の異なる種々の生產を行ふこと難し。（生產費減少の困難。——工場と競爭難。——機械に由らず、分業に依らず。）是を以て手工業は其內部に於て技術的分業の行はれざるに反し、其進歩するに伴ふて細密なる職業的分業を生ずるに至るものとす。

手工業を營む者は此の如く幼時より多年の練習を爲すことを要し、分業方法に由る工場勞働の如く容易に之に熟達し得ざるなり。而して之が練習を爲すには今日の開明國に於ては後に述ぶるが如く實習工場の如き特種學校なきにあらずと雖も、通例は現に手工業を營める者に就て之を練習するものにして、此の如き練習者を稱して徒弟と云ひ、徒弟を使用して作業の指導を爲す工業者を親方と云ふ。徒弟が練習を爲すには、親方に對して報酬を拂ふや又は徒弟を使用して自己の作業を補助せしむる親方より之に對して報酬を與ふるやは固より一定せずと雖も、通例我國を初め歐米に於ても徒弟は親方と同居して之を補助する代りに其給養を受くる者なり。徒弟にして相當の熟練を積み、從つて其勞働の親方に大なる利益を與ふるに至れば、徒弟修業を終りたるものとして親方は其給養以外に相當の給料を支拂ふことを常とし、歐洲にては此の如き階梯に達したる者を仲間と稱す。（西洋に於ける仲間の運命。——後世の不遇。強制巡歴、加入制限、試驗。——仲間の團體。各地の Verberg 組織。親方との衝突。）（日本の狀況、徒弟を脱したる手工の狀況。——形式上。其獨立作業には何等制限なし。——事實上。財力勢力等に由り獨立し得ざる者多數、其不獨立多數者、社會上の地位、親分子分制度。）仲間にして更に相當の修業を積み且つ相當の年齢に達したる上は、他の事情の妨げざる限りは獨立して親方となるを常とし、曾て歐洲にては仲間が汎く各地を巡歴して修業するの慣習一般に行はれたり。此の如く手工業に於ても從業者の間に一種の階級別を生ずと雖も、元來手工業は小企業にして主從常に相輔けて勞働に從事し、且つ一般に同居を爲すが故に、其關係は家族的にして親密なるのみならず、徒弟仲間も結局は獨立して親方となるを常とするものなり。故に親方と徒弟仲間との間に於ける財產上、智識上、社會上の懸隔は決して今日の工場工業に於ける企業者、勞働者の間に於けるが如く大ならず、從つて手工業者の間には社會問題なるもの起ること稀なりとす。（完全模型として理髮屋。）

二　手工業の發達

前章に述べしが如く加工的勞働が一定條件の下に各家族の自給經濟の領域より分離して獨立の企業となるには、通例先づ手工業の形を採るものとす。交通開けず需用少なき當時に在ては、大市場に供給することを目的とする他の形の工業は到底發生すること能はざるなり。而して手工業の發達を見るに初めは注文者の所有する原料に加工して賃錢を得るの方法を取ること多きに反し、後には手工業者が自己の原料を以て製作し、代價を得て之を消費者に賣渡すの方法一般に行はるゝに至れり。前者は賃錢手工と云ひ、後者は代價手工と稱す。手工業が尙ほ賃錢手工の狀態に在る間は、其從業者の性質一般勞働者と多く異ならず、只勞働者は通例一定の雇主の下に働くに反し、手工業者は汎く一般の需用者を相手とするを以て異なれりとす。賃錢

手工の中個々の注文者の住所に就て作業を爲すものを巡歴手工と稱す。人口少なく且つ生活程度低くして手工に對する需用少なく、從つて手工業に由て生活を立つる爲めには廣き區域に多數の消費者を求むるの必要存し、且つ其作業に要する器具は簡單にして携帶に便なる場合に於て此種の手工業行はるゝこと多し。又工業の性質に由ては注文者の住所に於て之を行ふを必要とするものあり、例へば建築に關する手工業の大部分の如き之なり。巡歴手工が勞働を爲すに方りては飲食宿泊も注文者より供せられ、仕事の終る迄注文者の住所に滯在することを常とす。（日本服の縫裁。――現在は賃仕事、將來は如何。）（洗濯。――西洋にては何故企業となりしか？　日本における將來は如何。）此手工業に於ては注文者は仕事を指揮監督し、特に賃錢手工の通弊たる原料の窃取又は取り代へを防ぐの利ありと雖も、手工は常に雇人同樣の待遇を受くるの不快あるのみならず、絶へず一地より他地に旅行して其作業に專らなる能はず、且つ器具其他の作業の設備も極めて不完全なるものを以て滿足せざるを得ざる不利あり、故に人口稠密となり又生活の程度高まりたる結果、狹き區域に於ても手工業に對し充分の需用を見出だすことを得ると同時に、交通の便開けて容易に一地方に在りて汎く他地方の需用に應ずるを得るに至るときは、手工業は交通の便を有する地に住居を構へて作業を爲すに至る、特に其作業に要する器具の運搬に不便なるか又は其作業に固定的裝置を要する場合には早くより定住手工起るものとす。

社會の進歩し人事の複雜となるに從ひて人々自から生産せざる所の原料より成る工業品を需用すること增加すべく、又土地の分配不平均となりて普通の原料品をも自から生産し得ざる者も多きに至れば、世人が賃錢手工に注文を爲すに方りても先づ之に要する原料を買入れて手工に與ふることを要する場合益々增加すべし。然るに注文者自から原料を買入るゝよりも手工をして之を買入れしむること便利なるのみならず、手工は專門の智識を有して之が買入れに適當するが故に、注文者は原料を手工に與ふる代りに原料代金を與へて買入れを爲さしむるに至る。而して手工の中資本を貯蓄せる者は注文者より原料代金の前拂を受けず自から之を買入れて加工し、之を注文者に賣渡して代金を得るの方法汎く行はるゝに至る、是れ卽ち代價手工なり。代價手工は之を賃錢手工に比すれば資本の要素大に增加し、且つ其經營には幾分の投機的分子加はるが故に、需用の狀況を測算する所の商業的能力を必要とするに至る。手工業は代價手工に進歩して初めて眞の獨立企業者たるの體面を具ふるに至るものとす。

手工業が賃錢手工より代價手工に推移することは大なる工業の進歩を示すものにして、手工業者及消費者共に之に由て利する所大なりと雖も、元來注文生産の方法に由る手工業には大な

る缺點あり。第一消費者にして工業品を得んとせば豫め注文を爲して其完成を待たざるを得ざるのみならず、今日吾人が商店に於て購買を爲すが如く多數の出來合ひの貨物の中に付て適意のものを自由に選擇するが如き便利を得る能はず、又手工も注文を待つて初めて業を取るときは、注文多くして之に應ずるを得ざる場合あると同時に、注文少なくして休業の止むを得ざる場合を生ずるの不利あるのみならず、新規の貨物を生產して世間の需用を喚起するが如き利益を得ること難し。故に交通經濟の進歩するに連れて手工は注文生產を爲すと同時に世間の需用を推測して豫め生產し、需用あれば何時にても直ちに之に應ずるの方法を採るに至るものとす、此の如き生產を注文生產に對して商品生產と稱し、其の盛に行はるゝことは工業の大なる進歩を示すものなりと雖も、商品生產の盛に行はるゝに至ることは則ち區々たる小規模の手工業的經營方法は最早進歩したる交通經濟に適せざることを示すものに外ならず。此の如き狀況の下に在ては手工業は更に大規模なる統一的經營方法に其地位を讓らざるを得ざるに至るものとす。尤も如何に進歩したる交通經濟の下に於ても手工業は全然消滅するものにあらず、只工業經營方法として主要の地位を失ふに過ぎざることは後に至りて說明すべし。

此の如く手工業が需用者の雇人に類似せる境遇に立てる賃錢手工より進んで代價手工に移り、其生產要素中資本の增加を來たし、又其經營に於て技術的勞働の外か企業的勞働も增加し、茲に初めて獨立の企業者たり中等社會たるの地位を占むるに至れり。固より其所得の主要部分は勞働所得より成立するは爭ふべからずと雖も、從來社會に獨立の地位を占むるには土地の所有を必要とせしに、手工業起りて勞働も亦獨立の地位を作るの要素となるに至りしことは社會の大なる進歩と云はざるべからず。歐洲に於て手工業の最も隆盛の域に達したるは各地方に於ける內部の交通經濟成立したるも一地力と他地方との間の交通は尙ほ幼稚なりし時代、卽ち十四五世紀の都市經濟時代に在り。（都市經濟の意義。——日本になし、莊園と異る。——自由都市。手工組合、其地位。）當時農民は概ね領主の壓制の下に憐むべき生活を爲したるに反し、都市の多くは自主權を獲得して領主と肩を並べ、又手工者團體は概ね此都市の政治に就て相當の參與權を有したり。故に當時の手工業者は社會組織の中堅たる中等階級の一要素として重要の地位を占めたりと云ふべし。我國に於ては封建制度の下に武士階級が至大の勢力を振ひ、農民は勿論商工民卽ち都市住民も常に其下風に立ちしが故に、歐洲諸國の如く手工業者の地位高からず、特に德川時代に至りては地方經濟大に衰へて國民的交通經濟盛となりしが爲め、手工業者の一部分は獨立の地位を失ふて家內工業の勞働者となり商人の下風に立つに至れり、故に歐洲の封建時代に於ける手工業者を以て直ちに維新

前に於ける我手工業者の社會的地位を推すことを得ずと雖も、兎に角舊時の手工業者の一部分は自作農民及商人と相並んで當時の中等社會を組織したるは明かなり。

三　手工業の衰退

手工業は狹隘なる地方市場の需用に對して經營せらるゝ小企業なり、故に地方的交通經濟の基礎に立ちし封建制度倒るゝに及びて次第に衰退の徴を呈し、更に交通經濟の大發達に促がされて發生したる自由競爭制度の下に於ては、益々衰退して他の經營方法に其地位を讓らざるを得ざるに至れり。抑も封建制度行はれて政治上各地方の間に設けられたる墻壁は撤去せられ、國内の秩序整ひて交通安全となり、又各地の法制次第に接近し統一せられて、交通は愈〻簡易安全となり、同時に各地の消費慣習は次第に同化せられて同質の貨物は廣く各地に需用せられ、交通機關は非常に發達して遠隔の地に其販路を求むること益々容易となりしのみならず、社會の進歩と共に各地の人口大に增加し、且つ富の程度大に高まりて工業品に對する需用激增し、特に大都會の成立を初め兵營、監獄等人口の大集團各地に起りて工業品に對し至便の大市場を供するに至れり。此の如き大市場を相手としては小規模の手工業は第一生産技術上大規模の工業と競爭すること能はず、何となれば工業に於ては通例生産の規模を大にするに從ふて生産力の割合增加し生産費の割合減少するものなればなり。特に社會進歩の結果大企業にあらざれば生産し得ざるが如き巨大なる貨物の需用例へば大船舶、大家屋、大鐵橋等の需用頻々として起り、之が爲め手工業は益々重要の工業たる地位を失はざるを得ず。獨り技術上のみならず販賣上にも自己の生産に係はる僅少の貨物を店頭に陳列する所の手工業は到底如上の大市場を相手とするに適せず。市場の擴張するに從ひ大小種々の卸賣商業發生して迅速廉價に貨物の販賣を處理するに至るものなるが、小規模の生産に係はる手工業品は其品質不整にして個々の評價取扱を必要とし、到底品質整一なる大企業の生産品を見本に由て取引するが如く簡便迅速に取扱ふことを得ず、又需用の增加起りし場合にも手工業は迅速に生産を擴張して機を誤たず供給すること大企業の如くなるを得ざるなり。要するに手工業は大規模に統一せられたる生産業の如く進歩したる交通經濟の要求に應ずるを得ざるなり。本來手工業の本質は商人の手を藉らずして直接に消費者に販賣するに在りと雖も、此小賣商業的活動に於ても手工業は輓近開明國に發生する大規模の小賣商業に對抗すること頗る難し、例へば交通の便にして地價の高き場所に壯大なる商店を構へ、多種多量の貨物を陳列して消費者に自由選擇の便を與へ又は巨資を投じて盛なる廣告を爲し、若くは見本を送り商業旅行人を派遣して注文を求め、賣約品は迅速に

消費者の住宅に送達するが如き便宜を與へて世人を誘引するが如きは到底手工業者の企て及ぶ所にあらざるなり。

此の如く大市場の要求に適せざる手工業は後に論ずるが如く、先づ家内工業の商業的統一經營の下に其手工的作業を繼續せるもの多かりしが、後に工場工業起るに及びて全然工業界より其跡を收むるに至りしもの少なからず。尤も工場工業が手工業と全然同一の貨物を生産して之を競爭場裏より驅逐せし場合は世人の往々想像せるが如く大なるものにあらず、此種の例の最も著しきは纖緯工業及染色業にして、近時製靴、製帽等の事業にも工場工業は大に優勢となりつゝあり。手工業が競爭上其領域を侵略せられたるは此の如く其作業全部に關するものゝ外か部分的侵略を受けし場合甚だ多し、即ち手工業が從來數種の貨物を生産せし場合に、其中の簡單なる種類の貨物が大企業に移り、或は一種の貨物生産の作業中の一部分、例へば木工品及金屬品に就き原料を半成品とする迄の作業が大企業に移り、手工業は此半成品を市場より買入れて精製の作業のみを行ふが如き場合多し。蓋し大企業の生産上最重の武器とする所は機械と分業とに在り、然るに此武器を最も好く應用し得るは作業の簡單なる場合又は複雜なる作業も之を多數の簡單なる作業に分割し得る場合なるが故に、手工業の部分的侵略を蒙むるは上述の如く粗製の作業に關する場合多しとす。手工業は又異りたる代用的貨物の生産に由て大企業の壓迫を蒙むる場合甚だ多し、即ち大企業が新に便利廉價なる貨物を生産して從來の手工品の代用を爲さしむる場合にして、例へば西洋釘が日本釘に代り、洋燈及瓦斯燈、電氣燈が蠟燭、行燈に代るが如き是れなり。以上は何れも手工業が直接又は間接に大企業の競爭に由り壓迫せらるゝ場合なりと雖も、此外か手工業が工業上重要なる地位を失したる一大原因は時勢の變遷に由り從來の工業品に對して存せし性質の需用全然消滅すると同時に、新なる性質の需用盛に起りて大企業に由り其供給を仰ぐに至りたるが爲めなり。

此の如く手工業は漸々衰退せしが、之に從事せし手工業者の運命如何と云ふに、其有爲の材を抱ける者は手工業に次で盛となりし家内工業の企業主となりし者多く、又今日存する巨大の工場の起原を尋ぬれば有爲の手工業者が漸次其業務を擴張したるものに係はる場合少なからず、例へば世界最大の鐵工場たる Krupp の如き其一にして、英國に於ける大工場亦此の如き歴史を有する者甚だ多し。然れども此の如き幸福の境遇に立ちし者は極めて少數にして、其大多數は新に盛となりし大企業の下に勞働者として收容せられたり。今日都會に於て手工業者と稱する者も其大部分は自己の製品を自から得意に販賣する者にあらずして家内工業主の勢力に

屈服し、獨立の企業者たる地位を有せざる者なり。手工業者が此の如く獨立の地位を失ひて家内工業の勞働者となれるは、手工業の黄金時代と稱せられたる封建時代に於て既に其端を開き、當時各種工業者の地位を平等ならしむる社會政策盛に行はれしに拘はらず、有爲の手工業者は其業務を擴張して他の同業者の生産物を買入れ、又は之れに命じて生産を爲さしめたること少なからざりしなり。次に手工業者の工場工業の勞働者となれる例亦甚だ多し、通例工場工業に於ては分業又は機械に由て生産したる各部分を組立てゝ之を完成するに就き手工業的技術を有する者を需用すること多く、或は麥酒會社が自から酒樽又は酒の運搬に用ふる車輛を製造するが爲めに桶工、車工を需用し、或は家具又は車輛製造業に於て諸種の木工、金屬工、塗師等を集めて主なる作業を分擔せしむるが如く、工場工業の手工に對する需用頗る大なるものあり。手工業者にして其獨立の地位を保たんとせば生活頗る困難なりと雖も、大工場に入つて雇人となるときは一層大なる收入を得、其地位も一層安固となること多しとす。

四　手工業の前途

手工業は此の如く進歩したる交通經濟時代の要求に應ずる能はずして漸々衰退に傾き、英獨の如く工業進歩したる國に於ては手工業者の一般生産人口に對する歩合の次第に減ずるのみならず、其絶對數も大に減ずるに至れり。併し乍ら此等の先進國に於ても手工業は久しからずして全く地を掃ふに至るべしと云ふは誤れり。蓋し手工業が將來に於ても容易に其地位を失はざる場合少なからず。第一は各個消費者の特別の注文に適する貨物を生産する場合なり。近時衣服、靴、手袋等の如きものも一般に出來合品を用ゆるの風次第に盛となりつゝありと雖も、將來特別注文に由る生産が全然消滅するに至ることは想像し難し、只此種の注文生産も其一大部分は同種の出來合ひ品を取扱ふ商人の引受くる所となりて、手工業者は此商人の雇人となるに至るの傾向あることは看過するを得ざるなり。第二には種々の貨物の修繕なり、（我國の機械製造の起源と現狀。）——新生産よりも修繕多きよろづや式。）（米國の標準化部分取換法。其長短。）修繕作業なるものは本來其需用大ならず、又其作業は毀損の程度に應じて區々なるを要するが故に、大企業には適し難きを常とす。尤も近時の趨勢を見れば高價にして久しきに耐ゆる貨物よりも、廉價にして美觀を有するもの多く需用せられ、從つて其毀損を生ずるときは修繕を施こさずして新規に買入るゝを利とする場合多く、特に流行の變遷の急激となりしことは此勢をして益々甚しからしむに至れり。故に修繕作業の範圍は舊時に比すれば次第に減少せりと雖も、全然其消滅を見ることは之を近き將來に期すべからず。只大都會に於ては商人が其取扱に係はる貨物の修繕をも引受け、手工は此商人の雇人となりて勞

働に從事するの傾向は次第に著しくなりつゝあるは、第一の特別注文品の製作に於ける場合と異ならず。第三は生產上分業を行ひ又は機械を應用すること難く、特に其生產には一人又は數人の優等なる技量を必要とする貨物、就中美術工業品を生產する場合なり。尤も從來世人が美術工業品と云へば當然小企業の領域に屬するものと見做したるは誤にして、近來家內工業又は工場工業に由り其全部又は一部分の製作を爲すこと次第に發達しつゝあり。只此種の工業は概して手工業に適することは爭ふべからず。第四には容易に腐敗變質し又は保存運搬の困難なる貨物、就中日用の飲食品の生產も亦小企業に適當するもの少なからず。第五に交通不便なる田舍の住民の需用する粗大の工業品の生產は、將來に於ても田舍に住して消費者に接近せる手工業者の手を藉ること必要なるべし。之を要するに近時交通の開けたる結果手工業者は都會に於ては大に減少せし國に於ても、田舍に於ては其の少なからざる增加を示しつゝあり。舊時手工業者は都會を組成する重要の分子たりしも、將來眞の手工業の中心は都會より田舍に移るに至るべし。何となれば今日都會にて通例手工業者と稱せらるゝ者も其實は自から企業者として製作販賣に從事すること少なく、家內工業主の下に於ける勞働者となれる者益々增加しつゝあればなり。

交通經濟の幼稚なりし封建時代に於ては、手工業者は自作農民及小賣商人等と共に社會組織の中堅たる重要の地位を占めたりと雖も、經濟の進步するに從ひ一般人民の大に進みたるに係はらず、手工業は時勢に不適當なるより其地位を高むること難く、從つて手工業者は昔日の如く社會上重要の地位を占むるを得ざるに至れり。現今開明國に於ける社會階級の構成を見るに大資本家、大企業の管理者、大地主、高等の自由職業者等は社會の上層に立ちて其數は固より少なく、大企業に於ける普通勞働者及我國の小作人の如きは下級社會を組成して、其數は人口の過半を占め、此兩極端の中間に立てる中層階級者の內、獨立企業者たるの地位を有する手工業者、小賣商人及自作農民の如きは、其收入より云へば大企業に使用せらるゝ上等職工と伯仲の間に在る者多きを占め、之を大企業の下に立てる事務的、商業的、技術的の使用人、就中會社の役員及國家自治體の官公吏、大多數の自由職業者等の所謂新中等社會に比すれば、敎育に於ても所得に於ても其下位に立たざるを得ざる者多きを占む。此新中等社會は大企業の發達に伴ふて益々膨脹し、且其地位も益々高まりて社會組織の中堅となるに至るものとす。手工業者其他の中小企業者と新中等社會とは、社會組織の要素としての價値相同じからざるの點あることは後に論ずべしと雖も、世人が手工業又は小賣商業の衰退を見て直ちに中等社會は絕滅すべ

しと患ふるは大なる誤にして、一方に新なる中等社會が之に代はりつゝあることを知らざるものなり。（我國に於ける新中等社會の多大にして勢力の大。——（一）士族の遺制、無産の割合に教育に努力。（二）將來の教育、有産者に限らざる方針の必要、學校授業料問題。）（新中等社會の多大と社會問題。——凡て社會問題は上級の落武者浪人が下級の利益主張煽動が動機。）

第二節　家内工業

一　家内工業の性質

家内工業は手工業の如く主に消費者の注文に應ずる爲めに生産を爲すものにあらず、市場の需用を豫想して生産するものなると同時に、工場工業の如く多數勞働者が一個所に集合して技術的生産を爲さず、各自分散して小規模に作業を爲すものにして、此狀態が少しく進歩するときは此の如く個々分散せる生産は共通の商業機關に由り統一せらるゝものとす。抑も農民が其餘暇を利用して工業品を生産し、附近の市場に之を運びて直接に消費者に賣渡し、若くは手工業者が注文生産を爲すの側はら、其餘力を用ひて別に商品生産を爲し、直接に之を市場に販賣することは夙に行はれし所なりと雖も、此の如き生産が增加して汎く之を販賣するの必要起るときは、生産者自から販賣を兼ね行ふこと難く、販賣の事務は別に商業機關を利用するの必要を見るに至るものとす。此商業機關にも種々あり、或は多數の農民が工業品を生産して其中の一人に之が行商を委托する場合あり、或は露國に於て往々見るが如く町村が其販賣の事務を行ふことあり、或は我幕末に於て各藩が物産係を設け若くは公私共同の生産會所を設けて販賣の事務を行ひしが如き例あり、又現時我東北に於ては多數の生絲生産者が一種の販賣組合を組織し、之に由て統一的の商業作用を爲しつゝあり。然れども此の如き商業機關は何れも其作用不完全なるを免れず、特に家内工業の生産物は上述の生絲の如く半成品なる場合は稀にして全成品の生産が次第に多きを占むるに至り、之が販賣には活潑機敏の動作を必要とし、從つて家内工業にして進歩するときは其販賣は商人の手に歸するを常とす。此の如く商人の手に由て統一の行はるゝ場合を稱して問屋制度又は仲繼制度の家内工業と云ふ。今日普通に家内工業と云へば此種のものを意味し、我國に於ても生絲の場合を除き一般に重要なる家内工業は皆此種に屬す。本節に論ずる所も亦主として此種の進歩したる家内工業に關するものとす。（西陣の制度。——問屋と小機屋、機織屋と賃機。——大和木綿。集中工場、農民賃機。）（問題。——（一）問屋獨立の困難。解決。——大商業、工業金融、市場は不能。（二）奬勵方法。（東縛制限よりも奬勵、試驗所。大人企業の必要、組合制度は困難、獨立企業が上。資本以上に技能、教育、下級教育。）

家内工業は通例小規模に生産せられたるものを商人の手に統一して之を大市場の販賣に適せ

しむるものなり、故に進歩したる家内工業を評して手工的の胴體を有し、商業的資本的頭腦を具ふるものと云ふは極めて適切の言なり。而して商人が小規模の生産物を大市場の取引に適せしむる爲めには、單に多數貨物を集めて其品質の異同に由り分類を爲すのみならず、各生産者に一定の標本を與へ之に據て生産を爲さしめ、或は一定の原料を買入れて之を各生産者に分配し、或は其原料に一定の加工を爲して更に各生産者に之を精製せしめ、若くは反對に各生産者より集め來りたるものを更らに加工精製するが如き方法を採ることあり。故に家内工業に於ける商人的企業者は獨り販賣の事務を行ふのみならず、自から工場を有して作業を爲すことありと雖も、主なる作業は其工場以外に於ける多數者の手に由て行はるゝものとす。家内工業に於ける技術的作業は手工業と同じく簡單なる道具を用ひ又は單に手指のみに由る場合多しと雖も、時としては小機械の使用せらるゝことなきにあらず、又一の生産作業を數多の部分に分離して之を各生産者に分擔せしむることは手工業に於けるよりも多く行はるゝものとす。

二　家内工業の從業者

家内工業に於ける從業者は技術的勞働を爲す者と商業的經營を爲す者との二種分立するものなり。此商業的從業者は純然たる商業的事務のみを行ふあり、又自ら工場を有して技術的の統一作業を爲す者あり。或は自から普通の工業生産を行ふの側はら、他人の生産物を買集め若くは他人に命じて生産を爲さしむる者あり。此商業的企業の規模の大さは甚だ區々なりと雖も、生産額多くして世界市場に供給せらるゝが如き貨物に就ては大資本的企業なきにあらず。而して之に從事するものは獨り商人のみならず、手工業者の内有爲の人物が其業を擴張して家内工業の企業者となりし場合甚だ多きは前に述べたり。

家内工業に於ける技術的生産を爲すには種々ありと雖も、其主なるものを三種に分つを得べし。第一は農民なり。農民が其地方に於て得易き材料を用ひて粗造の工業品を生産し、之を市場に販賣することは夙に各地に行はれし所なるが、交通の進歩と共に此の如き副業的工業は一般に減少せり。（下等織物。――木綿。羽二重、ちりめん。――最近動力機の進歩。――真田、柳行李。）只人口稠密にして農業のみに依り生活を立つる能はざる地方又は山間の貧村にして他に收入の途なき所には家内工業が住民の主業となり、農業は僅かに其の副業たるに過ぎざるに至ることあり。故に家内工業も一般地方に衰退して上述の如き特別の地方に集中せらるゝの傾向あり。而して農民の行ふ家内工業は各其地方に産する原料を用ふること多しと雖も、又全く原料を他より仰いで之を營むの例も少なからず。第二は手工業者なり。交通經濟の發達に伴ひて手工業の大なる部分が家内工業に移るの已むを

得ざるに至ること既に述べし所に由て明かなり。第三は近時都會の膨脹に伴ひて發生したる特種の家内工業勞働者なり。抑も都會は今日通例工場工業の中心なるが故に、下級民は工場に業を求むること難からざるが如しと雖も、勞働を爲さんとする者にして工場に入るを欲せざる者及之に入る能はざる者甚だ多し、例へば下級の官吏會社員の家族を初め、相當の身分を有して家計の豊かならざる者の如きは工場勞働者となるを厭ひて内職を得んとするを通例とす。又假令へ工場に入るを厭はざる者と雖も、家政を擔任する婦女の如き或は老人、不具癈疾者、幼者の如き多くは工場勞働に適せず。此等諸種の人物の中には勞働を爲すの必要に迫られず、只過剩の勞働を利用して一家の收入を補足せんとするに過ぎざるものなきにあらずと雖も、元來文明の進歩に伴ひて家族制度次第に崩壞するの傾向あり、特に大都會に於て此傾向甚しきが故に、此種の人物の大多數は職業を求むる必要に迫られ、家内工業の收入を以て主たる財源と爲さんとするものなり。此外大都會に於ては他地方より來りて土地の事情に通ぜず、又外國より移住し來りて言語にも通ぜざるが如き者甚だ多く、此等の者は警察の取締及慈善家の盡力あるに係はらず、奸惡なる口入業者又は無賴の誘拐者の毒手に陷りて悲慘なる家内工業勞働者の境遇に沈むもの頗る多しとす。（我家族制度と家内工業勞働者。——(一)家族制。(イ)不用過剰勞働多大、必しも自活を要せず、西洋男女幼年者の自活の必要。(ロ)家族に於ける妻の地位、不外出主義尚汎く行はるゝこと。——(二)工業勞働者の所得との比。(イ)家内勞働者の所得の甚だ小なる場合多きこと、不用者利用の意味より。(ロ)其所得の小は夫れ自身に勞働者個人の生活の不幸と直接關係なき場合の多きこと。）

三　商業的及技術的從業者の關係

此兩者の關係に付ては先づ生産に要する資本が兩者の何れに屬するかを見ざるべからず。農民又は手工業者が自己の原料器具を用ひて本業の側はら工業品を生産し、一定の商人に之を賣渡し若くは取引商人を一定せず隨意に之を選びて取引するが如き場合には、其生産者は商人に使用せらるゝ勞働者と云ふこと難く、之に對して獨立の地位を有する企業者と見ざるべからず。即ち此場合には家内工業は二種の企業者の聯立に由て成るものなり。然るに家内工業にして發達するときは前に述べしが如く其生産高增加して從業者の主たる財源を爲すに至り、各從業者の生産高の增加に從つて之に要する資本も增加するより、自から之を支辨すること難きに至るを免れず、特に高價なる原料器具を使用する場合に於て然りとす。此の如き場合には商業的企業者が原料器具を與へ、一定の給料を以て勞働を爲さしむるを常とす。又生産物の品質を統一するの必要ある場合にも其原料器具を商業的企業者より各生産者に供すること多し。而して生産者が斯の如く資本の供給を商人に仰ぎ一定の給料を得て勞働に從事するに至るときは、其生産者は最早や獨立の企業者にあらずして勞働者なりと云はざるべからず。今日開明國に行

はるゝ家内工業に於ける生産者は通例此の如き勞働者に外ならざるなり。今日家内工業を前貸工業と稱するは商業的企業者が資本を勞働者に供するより起りたるものなり。（小規模生産が獨立を失ふ時は大企業が利なること。文明國に此種の勞働の存在の理由。――劣敗者、將來の政策、給料公定。――文明と劣敗者。平均と不平均、一般に高度能力、不具者。）

次にこの兩者の關係を結ぶ手續に付て見るに直接間接の區別あり。小規模の家内工業に在ては企業主の各生産者より工業品を買集め、又は之に標本を與へ、原料器具を分配し、作業を監督し、給料を支拂ふが如き事務は企業者自から之を行ふを得べしと雖も、其規模大なるときは仲介者を使用せざるべからず。此仲介者には企業主の雇人の如く單に其指揮を受けて之を執行する者あり、又一定の代價又は給料にて生産を請負ひたる上更に之を他人に生産せしむる者あり。此の請負たるや時としては二重三重に行はるゝことあり。此の如き仲介者を用ふることは企業者には便宜を與ふべしと雖も、本來地位の薄弱なる勞働者は此の仲介者の爲めに膏血を絞らるゝこと多し、所謂家内工業に於ける發汗制 Sweating system なるものは、多く此種の仲介者に由て行はるゝ勞働者虐使方法なり。元來此の發汗制なる詞は特定の勞働者虐使方法に限らるゝものにあらずと雖も、其の最も多く行はるゝものを云へば、企業主より生産を請負ひし仲介者が自から勞働に從事するの側はら、數人の勞働者を雇入れて之を指導監督し共に勞働を爲さしむるものなり。故に此の方法は一見手工業者が仲間徒弟を使用して家内工業的の生産を爲す場合と形式相異ならずと雖も、元來手工業に從事する者は相當の熟練を有し、從つて其所得も低からざるに反し、此に述ぶるが如き仲介的請負者卽ち仲間工主と稱せらるゝ者は通例多くの技能を有せず、過激なる長時間の勞働に由て生計を維持する者にして、其の雇入るゝ勞働者亦極めて劣等の者なるを常とし、仲間工主の狹隘不潔なる住所に於て其嚴重なる監督の下に過激の勞働を强ひられ、而も其受くる所の給料は口を糊するに足らざるが如き低廉なる場合多し。歐米に於て此の如く虐使せらるゝ勞働者には婦女子及貧窮なる外國移住者最も多し、例へば倫敦に於ける猶太人、紐育に於ける伊太利人の如き是れなり。現今職工にして大工場主となりし成功者の内には仲間工主として憐むべき勞働者の膏血を絞りたる者甚だ多きの事實は各國に通じて見る所なり。

四　家内工業の利害

社會の進歩するに從ひ手工業が時勢に不適當となりし場合に、之に代つて盛となれる工業經營方法は通例家内工業なり。是れ家内工業は從來の手工的基礎に立ちて大市場の需用に適する如く之を統一する制度なるに反し、更に進歩したる工場工業制度は技術の幼稚、資本の缺乏、

市場の狹隘等の原因に由り、手工業に代りて直ちに行はるゝことを得ざればなり。歐洲先進國に於て十七八世紀は家内工業の形式が工業上最も重き地位を占めたる時代にして、之に由り各國の工業は大なる進歩を爲し、又無數の人民は之に從事して其地位を高むることを得たり。而して家内工業は之を今日の進歩したる工場工業に比すれば幼稚のものにして、特に今日は其社會的弊害大なりと雖も、一方には尙ほ社會上之に勝るの長所なきにあらず。第一前に述べしが如く都會の住民の中には工場勞働に從事するを得ざる者又之を欲せざる者非常に多く、此等の者は通例家内工業に由るの外か其生計を維持すること難し。第二に之に從事する者は自家に於て業を執り得るの利あり。工場工業の場合には婦女幼者も工場に入り、爲めに社會組織の根蔕を爲す所の家庭の荒廢を來たし、幼者の養育も不完全となるの弊あり、然るに家内工業に於は親子夫婦一所に勞働し、從つて勞働の側はら子女を養育し家政を整理することを得るの利あり。第三に工場の勞働者は自由を束縛せられ、劃一の規律に由て勞働を强制せらるゝに反し、家内工業に在ては身體の疲勞、家事の都合等に由り自由に勞働の程度及時間を屈伸することを得べし。其四に工場勞働に於ては通例分業方法を採り、從つて其仕事の單調無味となることは、其自由の束縛と共に身心を疲勞せしむること大なるに反し、家内工業に於ては分業の行はるゝこと少なきが故に、仕事に變化ありて如上の弊害を生ずること少なし。第五に家内工業は人をして其餘力を利用せしむることを得るものなり。此點より家内工業は氣候寒冷にして長き冬季を有する地方の農民に對し特に有利のものとす、又此の如き地方に於て適當の家内工業存せざることは、貧民は單に夏季の勞働に由り一年の生計を支ふること難きより去て都會に向ひ、爲めに農業勞働の缺乏を生じて農業の衰退を來たすが如き場合なきにあらず。

家内工業は工場工業と齊しく大市場の需用を目的とする工業なりと雖も、工場工業の如く壯大精巧なる機械を使用し、又は多數勞働者を一場に集めて細密なる分業方法に由り勞働せしむることを得ず。其生産物の品質も區々不整となりて工場工業の如く見本と寸分違はざる多量の貨物を生産すること難く、又其多數の小生産者中には種々の事故生ずべきが故に、一定の期限に正確に一定量の生産を爲すこと難く、之れが爲め大市場の取引に對しては工場工業の如く適當なるものにあらず。加之其勞働者は老幼婦女の如き低能者多く、且つ其給料甚だ小にして健康を保持すること難く、從つて此等の勞働者は到底工場勞働者の如く高度の技能を得ること能はず。特に其勞働者の中には單に一時糊口の爲めに從事して技能の發達に注意せざる者も少なからず、從つて家内工業は工場工業に比して物質的設備の甚だ劣れるが如く勞働者の能力も大

に劣れるを當とす、故に經濟の進歩に伴ふて工業は家内工業より工場工業に移るを原則とし、只同品質の貨物に對し比較的多量の需用なきか又は作業の性質上多く機械を用ひ若くは分業法を取ること難き場合、例へば美術工業、絹織物、種々の裝飾品、樂器、被服等に付き家内工業の存立するを當然とすべし。然るに今日工業の進歩したる國に於ても、性質上工場工業に適するものにして依然家内工業組織に由り經營せらるゝこと少なからず。又稀れには曾て工場工業たりしものが家内工業に移るが如き場合なきにあらず。是れ家内工業は假令へ國民經濟上より見れば幼稚の經營方法なりと雖も、企業者の私人經濟より見て工場工業よりも有利なる場合少なからざればなり。而して家内工業が此の如く私人經濟上有利なる所以は主として左の三點に存す。

第一勞働者の給料甚だ低きことなり、家内工業に從事する者は餘力を利用して一家の收入を補足せんとする者、又は體力健康其他の事情より工場勞働に從事するを得ざる劣等者多數を占め、一方には家内工業の勞働は工場勞働と異なりて不羈自由なるの利益あるより、其の給料が本來工場勞働に比して低廉なるは當然なりと雖も、此等の理由の外か工場勞働者は多數相接して業を執るより其間に强固なる團結起りて一大勢力となり、以て能く雇主に對抗して其利益を保護することを得るに反し、家内工業の勞働者は個々分散して其間に連絡なく、又最も多く之に從事する婦女老幼の如きは固より團結運動を爲すの能力なく、加ふるに之に從事する者は通例之を以て終世の業とするの意思なく、只目前の必要に迫られて之に從事し若くは僅かに他の職業の從として之を行ふに過ぎざるが故に、其狀態の改善に付き熱心の運動を爲さゞるなり。此等の理由より家内工業勞働者の給料は非常に低く、從つて工業の進歩したる國に於ても勞働を多く用ゆることを要する工業には家内工業組織を以て有利とする場合少なからず。家内工業の生産品が半成品よりも勞働を多く要する全成品なること多きは之が爲めなり。

第二は資本を要すること少なく、特に固定資本を要すること少なきより企業の危險小なることなり。工場工業に在ては工場機械等の巨大の固定資本を要し、一旦事業の不景氣となるも其資本の大部分を自由に減少し、又は他の有利の途に之を轉用するを得ざるより企業上の危險大なるに反し、家内工業は本來資本を要すること少なき故、比較的薄資者も容易に之を經營するを得べく、特に其資本たるや時としては勞働者に簡單なる機械器具を供するが如きことありと雖も、大體は原料費及給料費の如き流動資本を主とするが故に、一朝不景氣に際會すれば直ちに事業を縮少し又は其資本を他に運用すること難からずして企業の危險小なり。是れ家内工業

が特に危險の大なる事業、例へば流行品及季節品に付きて多く成立する所以なり。尙ほ流行品の如きは普通品と異なりて多種多樣の生產を要し、從つて大なる固定資本に由り同一種類を多量に生產する所の工場工業に適せず、又季節品の如きものを工場工業に由て營まんとすれば終歲繼續して資本を運轉するを得ざるの不利あり。而して家内工業が此の如く伸縮自在なることは、企業者に取りては利なりと雖も、勞働者には甚だ不利なるを免れず、他なし、工場工業に於ては不景氣の際に休業せんとすれば其の大なる固定資本に對する利息を損するのみならず、休業中と雖も建物機械の保存修繕には相當の經費を支出せざるべからず、又不景氣なりとて多年其工場の特別の事情の下に團結訓練せられたる勞働者を解放離散せしむるときは、景氣回復の徵候現はるゝに際し、迅速に以前の如き勞働者を集むること能はず、從つて一時の損失を忍びて成るべく優良の職工を留保するの必要あり、是を以て工場工業は利益少なき時と雖も、單に其流動資本のみに對し相當の利息を生ずるときは依然として生產を繼續し、又時としては此の如き利益すら存せざるも尙ほ生產を續行するが故に、其下に在る勞働者の地位は頗る安固なり。然るに家内工業の勞働者は平素の給料極めて低きが上に、一朝不景氣に際會すれば忽ち放逐せらるゝの危險あり。現代の文明に於て勞働社會の最も苦痛とする所は獨り其給料の不充分なるにあらず、舊時と異なりて其地位の甚だ不安定となりしことは一層大なる苦痛を與ふる場合多し、然るに此點に於て家内工業は上述の如き重大の短所を有するが故に、社會政策上より見て其價値愈〻少なるものと云はざるべからず。尙ほ此に注意すべきは家内工業の資本が主として流動資本より成るが爲め、企業者は毎回の取引に由て消費したる資本の大部分を回收し得べく、從つて目前巨大の利を占むるの機會あれば敢て後日の信用を顧慮することなく粗製濫造を行ふの弊多きを免れず。

第三は勞働者保護法の命ずる制限及負擔を免るゝに在り。現今開明國に於ては勞働者保護法を設けて之を一般の工場工業に適用し、其使用する幼者及婦女の勞働には制限を設け、工場には風紀、衞生及災害豫防の設備をなさしめ、勞働者の災害に付ては汎く損害賠償の責任を負はしめ、其他雇傭契約の内容に種々の制限を加へ、又國に由りては勞働者の爲めに疾病老衰等の不幸に對して保險を爲すの費用を一部分雇主に負擔せしむるもの多し。然るに家内工業に在ては勞働者は通例自宅に於て勞働するより其事情甚だ區々にして劃一の規定を設くること難く、又假令へ一般に適當と認むべき規定を設け得たりとするも、個々分散せる多數者に對して之を勵行するは事實不能なる場合多く、且つ之を勵行せんとせば親子夫婦の間の家族的生活に立入

り、親權夫權の行使にも干渉せざるべからざるの場合多きが故に當事者の反抗も强く、一方には勞働者の團結力なきが故に勞働者自から保護法の規定を楯として雇主に對し其權利、利益を主張することを得ざるなり。左れば勞働者保護の大に進歩したる國に於ても家内工業の勞働者に對する保護は尙ほ甚だ不完全なるを免れず。是に由て見れば先進國に於ける家内工業の社會上の缺點大なること益々明かなり。尙ほ此事實より吾人は一の大なる敎訓を得るものなり、他なし、社會政策の實行は經濟の進歩に伴ふて益々必要なることは爭ふべからずと雖も、之を行ふには漸を以てせざるべからざること是れなり。若し急激に理想に向つて突進せんとすれば、家内工業より工場工業に進歩せんとするものは其進歩を妨げらるべく、或は工場工業にして却つて家内工業に退歩するが如き場合を生じ、以て生産上、社會上一國の發達を害するに至るべければなり。

之を要するに家内工業は國民經濟の尙ほ幼稚なる時代には一國の工業を進歩せしめ、企業者勞働者共に大なる利益を受くるものなりと雖も、家内工業が或程度に進歩するときは、其勞働者は他に生活の途を有せざる專業者多數を占め、從つて其企業者に依賴するの度增加し、企業者も亦次第に工場工業の競爭の爲に苦しめられて、勞働者を虐使するにあらざれば其地位を保つ能はざるが如き有樣に陷るに至る。事茲に至れば前に家内工業の社會上の利益として擧げたる事情も事實に於ては殆んど消滅せざるを得ず、例へば家内工業に於ける勞働は不羈自由なりと云ふも、實際に於ては其給料の過少なる結果、過激なる長時間の勞働を爲さゞるを得ず、又家内工業に於ては勞働の側はら女子を養育し家政を處理することを得るが如しと雖も、實際は朝夕專心勞働に從事して他を顧るに遑なきのみならず、生活の必要に迫られて婦女老幼にも過度の勞働を取らしめ、而も其仕事は概ね單純のものなるが故に子女をして之に從事せしむるも將來上等職工としての技能を養はしむること能はず、又都會の膨脹に連れて勞働者の居住は只さへ狹隘不健康となるものなるが、家内工業行はるれば居室、寢室等に仕事場を設けて益々其住居の狀態を劣惡ならしめ、事業界の好景氣の際にも給料の增加を要求すること難く、而も一旦不景氣となれば忽ちに業を失ひて飢餓に迫らるゝが如き悲慘の狀を呈せざるを得ず。反之工場工業に在ては其生産力大なるより雇主は能く給料の增加及び時間の短縮を爲すことを得べく、其勞働者の團結的自衞力の增進と社會政策の實施とは益々其勞働者の地位を高むるを得るものとす。左れば家内工業は工場勞働に從事するを得ざるが如き者に對しては生活上必要なるが故に之を禁遏すべきものにあらずと雖も、概して云へば文明社會の穢點をなすものにして、

結局其大部分は社會の進歩するに從ひ工場工業に吸收せらるゝの運命を有するものとす。

我國に於ては輓近工業は長足の進歩を爲し、從つて輸出貿易に於ても工業品の歩合は大に增進しつゝありと雖も、工場工業の著しきものは今日尙ほ何れも歐米に模倣して設立せられたる紡績、麥酒釀造、石油、精糖、セメント、煉瓦、西洋紙、造船及稍〻大規模の機械製造等に過ぎずして、其他は主に家内工業的經營に係るものとす。我國工業の最大なるものは勿論織緯工業にして、其中製糸の如き半成品は本來家内工業に不適當なるに係はらず、生絲に至ては今尙ほ坐繰折返等の手製的家内工業の生產に係はるもの少なからず。織布業の中、金巾、綿ネール、毛織物を除き其他は概して家内工業として營まれ、其外金屬品、木竹品、陶磁器、漆器、紙製品を初め多數の工業は主として家内工業に屬し、而も其家内工業に於ける商業的經營の規模多くは尙ほ小にして不完全なり。是れ實に我輸出工業品に付て絕へず粗製濫造、品質の不整、引渡期限の不正確、價格の亂高下等の批難を聞くに至れる一大原因なるが、先進國に於て家内工業の最大缺點とせらるゝ社會的弊害は工場工業に比して未だ必しも甚だしきに至らず。是れ家内工業に從事する者は尙ほ副業として之を營む者多く、從つて其企業者に依賴するの度大ならず、又家内工業に對して工場工業の强力なる競爭起ること少なく、從つて其企業者の勞働者に壓迫を加ふること甚だしきに至らざると同時に、一方に於ては工場工業に對して未だ勞働者保護法の統一制度を見ず、又其勞働者間の團結運動も殆んど存せざるが故に、工場勞働者の地位は必ずしも多く家内工業勞働者に比して羨むべきものにあらず、時としては却つて其地位の不利なるものあればなり。固より經濟の進歩急速なる我國に於て工場工業は大なる進歩を爲しつゝありと雖も、元來我國は土地狹少にして人口過大なるより給料一般に低く、且つ家族制度頗る鞏固なるより都鄙を問はず家族内に於て内職副業を爲し得る過剩の勞働頗る多く存在するに反し、資本は甚しく缺乏せるのみならず、輓近の工業技術の進歩は不幸にして主に歐米の模倣に止まり、吾人の日常生活に最も重大の關係ある我國固有の工業に付ては重要なる科學的、機械的の改良發明を見るに至らざるが爲め、之を營むが爲めには科學的、機械的の新技術と多額の資本とを主とする工場工業よりも、勞働を主とする家内工業を適當とする場合多し、尙ほ我國人は手指の妙用を有し、且つ上下一般に趣味を有するより美術工業に適するものなるが、美術工業は既に述べしが如く普通の工業よりも其經營方法として手工業及家内工業に適するもの多し、故に我國に於て家内工業は將來も容易に其重要の地位を失はざるべく、從つて之が健全なる進歩を計るは國民經濟上甚だ重要なり。（西洋に於ける家内工業の問題。——(一)成るべく速かに絕滅、工場工業に進歩せしむること、我國にては新設の運動を必要とすること、）

正に相反す。――(1)現存者に對する社會政策。――工場制度は家内工業に適用せられ難し、(1)仕事場の制限、借屋主の制限及住所利用制限、(2)從業者制限不能、(3)時間制限不能、(4)災害賠償の不能。――今日實行制度、最低賃銀制限法。)

第三節　工場工業

一　工場工業の性質

工場工業とは企業者が其作業場に於て常に多數の勞働者を同時に使用して營む工業を云ふ。諸國の勞働者保護法の中工場工業を定義して或は十人又は二十人以上の勞働者を使用するもの、若くは動力を用ひて工業を營むものを云ふとするが如き例ありと雖も、法律が斯の如き定義を掲ぐるは畢竟其規定適用の範圍を定めんとするに在りて、經濟上の意義に於ける工場工業の何たるを示さんとするにあらず。經濟上の意義に於ては必しも斯くの如く一定數の勞働者又は動力の使用の有無に由り之を家内工業及手工業と區別するを得ずと雖も、元と工場工業は大に進歩したる交通經濟の必要に應ずるが爲めに起りしものなるが故に其規模大にして、且つ其經營は獨り商業的方面のみならず、技術的方面にも最も進歩したるものなり、其技術的方面の進歩とは即ち多數勞働者を一場に集め、仕事を數多の部分に分ちて之れに分業を爲さしめ、又多數者を一場に集めて働かしむること丶、仕事を分ちて其各部分を簡單なるものと爲すこと丶の結果、大規模の機械を使用するを常とす。故に實際上より論ずれば工場工業の技術上の特色は分業と機械とに存すと云ふを得べし。而して事業の規模を大にし、特に工場を設け機械を使用するときは、他の經營方法に比して資本が其重要の生産要素を爲すこと明かなり、所謂資本的生産なるものは工場工業に由て最も能く代表せらるゝと云ふを得べし。

工場工業の性質を明かにせんとすれば須らく之を他の經營方法に比較して研究するを要す。先づ之を家内工業に比較するに二者共に廣大なる市場の需用に應ずる企業なりと雖も、技術上家内工業は分散的なるに反し工場工業は集中的なり。二者共に資本的生産なれども、一は主に商業的方面より多數者を連結するものにして、其資本は又主に流動資本なるに反し、他は技術上の利益の爲め更に密接に之を連結し、其資本は固定的なるもの大なる部分を占むるを常とす。家内工業の技術は手工的にして分業の行はるゝこと少なきに反し、工場工業の技術は分業と機械就中動力機械の使用とを其特色とす。尤も家内工業及手工業に於ても動力機械を使用することあると同時に、工場工業に於て之を有せざる場合なきにあらずと雖も、是れ例外に屬す、而して工場に使用する動力機械は今日は尚ほ主として蒸汽機械なるに反し、手工業及家内工業に於て用ひらるゝ動力は電氣、瓦斯、石油、揮發油、酒精、壓搾空氣、水力等なり。是れ

蒸汽機械は多量の動力を得るには最も廉價なりと雖も、其少量を得るには不經濟且つ不便なればなり。（近時における瓦斯の發達。——化學工業、石炭利用、石炭の加工、瓦斯業の條件、各種動力の長短。）

次に工場工業を以て手工業に比較するに、一は資本的大企業なるに反し他は勞働的小企業なり。手工業に於ても仲間及徒弟の如き勞働者を使用すと雖も、其數は通例工場に於けるが如く大ならず。更に生産技術の上より見るに手工業は簡單なる道具を用ひて手腕の熟練に依賴するの結果、其作業は學理的にあらずして慣習に基く熟練を主とし、且つ多數者共働せずして各勞働者が仕事の全部を爲すことを要するの結果、之を習得するには多年の實習を必要とするに反し、工場工業に於ては仕事を細分して其各部を簡單のものと爲すの結果、作業の大部分は多年の練習を積まざるも容易に之を行ふことを得べく、特に多大の力役を要するものは概ね機械の力に由て之を行ふが故に、婦女幼者も工場勞働に從事すること甚だ大なると同時に、從業者の一部分は非常に高等の智識技能を有するを要し、從つて手工業に於けると異なり企業者と被雇者との懸隔大なるは勿論、被雇者の間にも大なる懸隔あり、又手工業に於ては技術的分業は殆んど行はれざるも、其の發達するに從ひて職業的分業は益々細密となるの傾あり。然るに工場工業に於ては技術的分業は益々細密となると雖も、近時の大勢を見れば職業的には寧ろ合一の傾向あり、特に合同組織の下に於て此傾向は顯著なり。尙ほ工場工業も注文に基く生産を爲すこと多しと雖も、其注文者は手工業に於けるが如く最後の消費者にあらずして商人なるが故に、手工業と同じ意義にて注文生産の經營方法を取るものと云ふを得ず。尤も工場工業中には造船業、鐵道用車輛製造業の如く商人にあらざる者の注文に應じて生産することを主とする者あれども、汽船汽車の消費者は乘客荷主にして交通業者は其性質商人と同一なるが故に、交通業者の注文に應じて生産を爲す所の造船業の如きを目して手工業と同一の注文生産を爲すものと云ふを得ざるなり。

二　工場工業發達の條件

工場工業は家内工業と共に大市場を相手とする資本的企業なりと雖も、家内工業より後れて發達するを常とする所以は、之が發達には國民經濟の高度の進歩を必要とするが爲なり。抑も工場工業の發達するには第一に大市場の存立を要す、生産の規模を大にし、特に分業及機械に由り大量の生産を爲さんとせば、大市場存在せざれば收支相償ふを得ざるなり。而して大市場の成立には人口も富も共に大に增加し、且つ交通の大なる進歩あることを必要とす。第二には技術の高度の進歩を要す。工場工業は家内工業と異なりて技術上大なる進歩を示すものなる

が、技術上の進歩例へば機械の發明の如きも大市場成立して之を有効に利用し得るの望ありて初めて盛に起るものなり。併し乍ら機械の發明も亦一方には經濟の進歩を助けて大市場を成立せしむる大原因となるは爭ふべからず。第三には資本の增殖大なるを要す、工場工業は所謂資本的企業なるが故に、資本の乏しき時代に成立し難く、此の如き時代には手工業及家內工業の隆盛となるは明かなり。而して資本の增加は同時に資本融通の方法の發達に伴ふものにして、工場工業の成立は現今株式組織なる資本融通方法に依賴すること大なりとす。第四には企業能力の大なる進歩を必要とす、大企業を營むには一方に於て原料の仕入れ、製品の販賣、資金の融通等に付き汎く國內及世界市場の形勢を明らかにして之に應ずる事を要し、他方には多數使用人を組織して之を手足の如く活動せしむる統御的能力を必要とし、又場合に由ては此統御者自身に深遠なる技術上の智識をも必要とすることあり。此の如き人物の實業界に輩出するには必らずや經濟の進歩大にして、實業家も政治家、武人、學者等に多く讓らざる社會上の地位を占め得る時代ならざるべからず。（我國の企業家氣質、經濟進歩上企業能力の大小。）而して企業の規模大となるに從ひ、之が經營は到底一人の力を以てするを得ざるに至るを常とす、例へば今日一般に大企業に採用せらるゝ株式會社組織に於ては實際企業を統轄する者は取締役の合議組織にして、其下には多數の技術的、商業的、事務的能力を有する役員を使用するが如き是れなり。此等の多數者は自身其事業の所有者にあらざるが故に、事業の盛衰消長に直接の利害關係を有すること大ならず、從つて此等の者が誠實勤勉其任を盡し、且つ規律を嚴守して互に相調和し、以て能く困難なる事業を巧みに運轉するには單に一片の營利心あるを以て足れりとせず、必ずや職務に忠實にして名譽を重んじ、規律を守りて而も積極的に其責を盡すこと、恰も國家自治體の官公吏社會に於けるが如き氣風の實業界に發達することを要す。此の如き道德的進歩なきときは大企業は到底成立することを得ず、從つて工場工業の大なる發達も望み難しとす。（大企業と公營との接近、從業者の。市營私營の電鐵比較。）第五には人口の增加大にして勞働に由るの外か他に生活の途なき多數者の社會に存在するを要す。家內工業は農民の副業としても盛となり得る場合多しと雖も、工場工業には多數の專業的勞働者なかるべからず。人口尙ほ稠密ならずして土地の分配割合に平均するときは、人々獨立の地位を拋て單純の勞働者となり、又自家に於ける自由の勞働を棄てゝ規律の嚴重なる工場に入るを欲せず、然るに人口の增加大なる時は、土地を有せず從つて農業に由り生活し得ざる者多く發生し、此等の者は次第に都會に移り工場に入りて專門の勞働者となるに至り、茲に初めて工場工業は隆盛なるを得るものとす。尤も工場工業發達する時は土地を有せざるも勞働に由

り能く生活し得るの機會を大にするが故に、人口の増加を刺激すること大なりとす。（個人を自由ならしめて而も之を團結するの組織は現社會の特徴なり。）

三　工場工業の利害

抑も工場工業は人口の増殖、交通の進歩、資本の貯積及技術の進歩に由て產み出されたるものにして、其の國民の生產力を驚くべき程度に增大し、從つて國民の各階級を通じて一般に其經濟的地位を非常に高め、其結果一般の文化を進歩せしめたるの効は爭ふべからず。（下級獨逸勞働者一般の生活費の概略分類。九〇〇收入、都會的勞働。食五〇〇、住二〇〇、衣一〇〇、火五〇、雜五〇。）然れども之と同時に工場工業は一方に大なる社會的弊害を來たし、人をして往々其利害何れが大なるやを疑はしむるものなきにあらず。此弊害たる工場發達の初期卽ち歐洲に在ては十八世紀末より十九世紀の中葉過迄の間に於て特に甚だしくして、近世文明史上に最大の汚點を遺したりと雖も、世人の此事に注目するの程度次第に高まり、特に被虐待者たる勞働者の間に非常なる自覺向上の精神を生ずるに至りてより此弊は漸々矯正せられ、今や人をして前途に光明を望むを得せしむるに至れり。然れども利害相伴ふは數の免れざる所にして、工場工業にも人爲に由て容易に矯正し難き短所なきにあらず。家內工業は地方經濟より國民經濟及世界經濟に移る過渡期の產物にして、其の生產上將た社會上概して工場工業に比して劣等のものなるは多く議論なき所なるが故に、世人の工場工業の利害を批評するは通例之を手工業に比較して爲すものなり、然るに手工業は地方經濟の基礎の上に立つ舊文明の產物にして、工場工業は國民的及世界的經濟の上に立つ新文明の所產なり、故に此二者を比較して利害の論を戰はす者を見るに往々新舊文明の價値に關する根本思想を異にするよりして意見の衝突を生ずる場合あり。今左に工場工業の主たる社會上の弊害を擧げて之を手工業と比較すべし。

第一小規模なる手工業の盛なる時代に在ては富の分配平均し、人々獨立の企業者たる地位を得るに難からざりしも、大規模の工場工業の盛なる今日に在ては、社會の多數は終世勞働者たるの運命に陷りて工場主たるの望なきに至れり、是れ今日下級社會の敎育の非常に進歩したるに係はらず、往々にして勤勉及節儉の美風衰へ、徒らに生活の程度を高めし所以なり。手工業時代には狹隘なる地方的需用を目的として生產し、同業者間の生存競爭大ならず、工業者と其得意との間には親密なる關係成立し、從つて工業者の地位は頗る安固なりしと雖も、今日の工業は國民的及世界的の大市場を相手とするが故に、需用供給の關係不明なるのみならず、競爭激烈にして各人只管ら販路の擴張、市場の占領を競ふより需用供給の均衡屢々破れ、之が爲め

經濟界は靜平の進行を爲さずして常に好景氣、投機、恐慌及不景氣を殆んど規則正しく頻繁に繰返すに至り、其結果勞働者は屢々其の機を失ふの危險に陷れり。加之今日は技術の進歩急速に行はれ、特に勞働に代はる機械の發明頻々として起り、之が爲め勞働者は屢々失業の不幸に會ひ、多年の練習に由て得たる技能も一朝にして効用を失ひ、單純の力役者として新たに業を求めざるを得ざること多し。舊時の手工業者は器具は固より家屋工場をも所有し、田舍に在ては通例多少の土地をも所有したるより、工業の不景氣其他不時の災害に遭遇するも尙ほ糊口に窮すること稀れなりしが、今日の勞働者は概して無資産者にして日々の給料に由り生活を立つるに過ぎずして、而も其の地位は上述の如く甚だしく不安定のものとなれり。是れ社會上非常の不利益と云はざるを得ず。

然りと雖も舊時手工業に從事せし者は盡く獨立の地位に達し得たりと信ずるは誤なり。手工業の隆盛となりし時代には必要の修業を了るも親方となるを得ざりし者少なからず、又既に親方となりし者も企業能力の劣れる者は實際有力なる手工業者の下に家内工業的勞働を爲せし者少なからず。而して今日都會に於て手工業者と稱する者は大部分其獨立を失へる者なるは已に述べたり。固より今日と比較すれば舊時の手工は獨立するの機會甚だ大なりしと雖も、一方には市場狹隘にして有爲の人物も其手足を延ばすの途なく、且つ當時社會一般には階級制度あり、工業者間には組合制度ありて從業者の一擧一動を羈束したり、此の如き狀態は活氣充溢せる現代人の到底堪ゆる能はざる所なり。飜て現今開明國の勞働者を見るに彼等は獨立の地位に達するの望は殆んど絶無なりと雖も、其日々の給料に由りて享受し得る消費の程度は往々にして舊時の中等社會の夢想し能はざる高度に達し、將來其生活の程度は益々上進するの望あるのみならず、教育制度大に進歩し且つ勞働時間の短縮に由り一般勞働者をして此教育的設備を容易に利用せしむるに至りたるが爲め、有爲の勞働者は職工長、技手等の上層階級に進入すること難からざるに至れり。又今日の經濟界には恐慌不景氣屢々起りて失業の危險甚だ大となりたりと雖も、社會一般の富の程度增進したるが故に、舊時凶作飢饉に際して多數の人民が屢々餓死したるが如き慘狀は再び之を見ることなし。而して今日の如く企業界の動搖浮沈の大なる時代に在ては抵抗力の大なる工場工業が小企業よりも勞働者の地位を安固ならしむるの利あるは疑を容れず。機械の發明は屢々一部勞働者を失業せしむるの弊ありと雖も、一般に云へば機械の使用は生産の大增加を來たし、從つて勞働の需用を增して其給料を高むるの効果あるは疑を容れず。現に英、米、獨の如く工業發達して機械の發明應用盛なる國に於ては、工業勞働者の需用

日に月に增加し、米國の工業は年々多數の移住民を吸收し、英國に於ては地方の人口は大部分都會の工業に吸收せられて農業の大衰退を來たし、獨逸に於ても工業幼稚にして機械の使用盛ならざりし時代には人口に過剩を生じて年々多數の外國移住民を出だせしも、工業發達して機械の使用盛となれる今日は農業勞働者を工業に吸收するも尙ほ不足を感じて、年々少なからざる外國勞働者の來住を招くに至れり。要するに精神的生活と物質的生活とを問はず其安定は獨り之を停滯不進の中に求むるを得べく、苟くも活動し進步せんとすれば不安定と云へる價を拂はざるべからず。今日吾人の勉むべきは成るべく此價を低廉ならしむるに在りて、之が方法は汎く云へば社會組織を完全に爲すに在り、特に工業勞働者に付ては社會的立法を完備し、就中各種の保險制度を立つるに在りて、現時の開明國は何れも此方面に其力を傾倒しつゝあるものとす。

第二に手工業には技術的分業の行はれざる結果、其の作業は複雜にして之に從事する者の心身の各部を調和的に活動發達せしめ、又一人にて作業の全部を仕上ぐることは大に之をして勞働の嗜味を感ぜしむるものとす。手工業品は實に其製作者の人格の表現と見るを得べく、其作業に重んずる所は分量よりも寧ろ品質に在り、從つて其作業は從業者の性格及嗜味の養成上重大なる意義を有したり。然るに今日の工場勞働に於ては分業と機械應用との結果仕事を單調無味ならしめ、其作業は多數者の共働より成るが爲め、人々の一擧一動は嚴重なる規律に束縛せられて其技能嗜味の自由の發展を許さず。又機械の應用せらるゝ結果各人の動作も機械的に間斷なく迅速に行はるゝことを要し、從つて其勞働者は手工業者の如く終世其心身を托する所の業務を以て或は其嗜味を滿足し、或は之に由て修養を受け、所謂之を以て直接に自己を發展するものとして之を愛し之を貴ぶが如き風なく、單に之を以て糊口の爲め已むを得ざるの苦痛と見做し、從つて獨り肉體的に止まらず精神的にも其勞働に由て不快苦痛を感ずること大となり場合甚だ多し。是れ實に人生の價値を減ずるものにして、今日の勞働者は人間か將た機械かを疑はしむるに至りし所以なり。（科學の性質。——其結果たる分業、各部分定量的分析的、質的より量的、其結果たる機械。）（教育方法。——人間としての智識の綜合の必要、人格。）

加之今日の工場工業の生產物は其多量にして廉價なると、實用上の便益の大なるとを以て誘りとすと雖も、嗜味に至ては殆んど之を見出すを得ざるもの多數を占む、從つてラスキンを初めとして世間往々今日の工場工業を以て國民一般の嗜味を墮落せしむるものなりと批難するは必しも理由なきにあらず。（勞働者特に高等勞働者は專門分業の單調を苦しみて屢々轉業すること、此轉業は必しも本人の利とならず又公益上にも不利なれども。）

今日の如き一般文化の大なる進步も、社會の多數者が之を享受するの精神的能力と財力及時間の餘裕とを有するにあらざれば、殆んど其意義を失ふものと稱するを得べしと雖も、近時開

明國に於ては工場勞働者の給料は非常に增加したるのみならず、勞働時間を短縮することにも大に力を注ぎて、其運動は着々成功しつゝあると同時に、教育は益々普及して一般人民に文化享受の廣汎なる能力を養成しつゝあり。故に勞働自身の中に凡ての人生の意義を見出さんとする舊時の手工に比して、今日の工場勞働者は決して人たるの價値を減ぜずして寧ろ大に之を增加しつゝありと云ふべし。（進歩せる作業特に機械使用と勞力集中及び之に伴ふ時間短縮。――此短縮に因り人生を味ふの餘暇なき時はそれ丈け不利、進歩の効なし。）且つ夫れ論者が舊時の手工業勞働を以て凡て嗜味と感興とに滿たされたるものゝ如く主張するは其實非常の誇大なり、十九世紀に至るまでは人類は多くの點に於ては牛馬に齊しき非常なる力役に服せざるを得ざりしも、機械の發明以來殆んど凡ての單純なる力役より人類は解放せられんとしつゝあるにあらずや。成程一般經濟の發達特に工業の發達に由りて世界人類の物質的方面に於ける發展容易となりし以來、一般人民の求欲は智識的物質的の一方に偏するに至りしの弊ありと雖も、是れ新文明の尙ほ幼稚なるが爲めにして、吾人は將來此の廣大なる智識と物質との上に一層偉大なる圓滿の文化を建設するの望なしと云へる悲觀說に同意すること能はず。又今日の工業品は嗜味乏しくして徒らに分量と實用とを重んずるの弊ありと雖も、茲に吾人の注意を要するは舊時工業品を需用せし者は一部少數の上級者に止まり、一般民衆は憐むべき自給自足の生活を爲したるなり。然るに今日は一般民衆も精巧にして利便なる工業品を多量に消費し得るに至り、特に輓近先進國に於ては下級民に至るまで次第に趣味開發の徵候を來たし、百貨商店を初め一般の工場工業も此方面の開拓に意を用ひつゝありて、吾人は之に多大の望を囑するの不當ならざるを信ずる者なり。尙ほ今日の工場勞働は勞働者の趣味の養成滿足には不適當なりと雖も、其複雜巧妙なる組織と技術とは勞働者の智識の開發に大なる効力を有し、且つ多數者の常に共同作業を爲すことは之をして規律に慣れしめて其共同團結力を强くし、以て一般文化の進歩に必要なる社交性を發達せしむる一般的利益あるのみならず、今日の社會的弊害を矯正する所の最大原動力たる勞働者の團結運動の能力を養成するものとす。（分業と轉業。――普通下等勞働、自由。――高等の技術、相互轉業の不能、技術の益々簡單、原則的に學理應用、機械應用の不能、Schmoller 第一卷。）

第三に手工業に於ては得意の注文に應じて生產する事を主とせしより、消費者と生產者との間にも對人的德義的關係の成立したると齊しく、其企業の內部に於ても雇主と勞働者卽ち親方と仲間徒弟とは常に相輔けて勞働に從事し、其間に大なる社會上の懸隔なく、從つて其間に師弟的、家族的情誼存在して相互の生活を樂しく溫かならしめたりと雖も、今日の大工場に於ては雇主は固より個々の勞働者に接觸する事少なく、往々にして之を見ること恰も機械、建物等

に對すると同じく、主に損益の打算に由て左右せらるゝを免れざると同時に、勞働者が其勞務に服するも亦單に給料を得るの手段と見るに過ぎず、從つて其間に殆んど一片の情誼も存立せざること多し。是を以て双方各力を盡して相手方を壓迫せんとし、其結果同盟罷工又は職工解放の如き勞働紛擾頻々として起り、社會主義的運動は日々勢を高むるに至れり。

然れども人と人との關係が階級的、主從的權力に由て定められたる時代が過ぎ去つて、自由意志に出づる契約に由て定めらるゝに至りし今日、特に臣民に恩惠を施こすことを理想とせし專制政治が破れて、立憲法治の制度が支配するに至りし今日を以て古へに比し、之を政治上の退歩と見るを得ざるべし。政治上に於けると齊しく經濟界に於ても民衆の間に自由平等の思想盛となりて民主的改革を要求し、恩惠を却けて權利を獲取せんとしつゝあるは今日の狀況なり。一派の論者は勞働者の利益の爲めに之れと雇主との關係を主從的とし、命令と服從、恩惠と感謝の狀態を復活せんとする者ありと雖も、之に對して最先に反對するものは卽ち勞働者自身なり。思ふに今日雇主と勞働者との情交が極めて冷淡にして軋轢の盛に起る所以は、是れ勞働者の地位の對等なることが未だ完全に雇主に由て認められず、又之を認めしむる迄に其勢力の發達せざるが爲めなりと雖も、勞働者の團結運動の爲め其地位益々鞏固となり、從つて雇主より其地位の對等なることが認めらるゝに至るときは、今日の如く機會ある毎に一方が他方の虛に乘じて之を壓迫せんとするが如き戰國的態度は一變して平和となり、互に相手方の地位を尊重して共同利益の增進に勉むるに至るべし。

第四に手工業者は多年の修業を積みて相當の技能を有し、從つて相當の收入を得て社會上の地位を保つことを得たりと雖も、今日の工場に在ては分業及機械應用の結果特別の熟練を要せざる單純勞働を爲す者の比例非常に增加したり。（熟練勞働排斥の傾向。——(一)事實、分業及器械。——(二)動機、(1)經濟、(2)自由勞働者の增進、(3)熟練勞働者は組合力に由り對抗する故之を排せんとす。）加之此普通勞働者は其體力の成熟と共に早くより一人前の勞働者となり、手工業者又は熟練職工の如く年と共に手腕の上達と所得の增加とに由り其地位を進むるの望なく、却つて家庭を造り妻子を養ふに至れば其地位は往々低下せざるを得ず、此の如く現今下層社會の大多數が終世其地位を向上するの望なきことは則ち之をして煩悶絕望せしめ、又現代社會組織の打破を叫ばしむる所以なりとは工場工業に對して屢々起る批難たり。（勞働者の地位の不利。日本の人物の若朽する所以。）

然りと雖も、輓近一般經濟の進歩就中工場工業の進歩に由て社會各階級の生活程度は大に進歩し、一般工場勞働者の生活を以て之を舊時の手工業者に比すれば遙かに高きのみならず、其

上等職工に至ては獨立中等社會と誇稱する今日の手工業者よりも上位に在る者少なからず。又普通勞働者の地位も手工業者に比すれば大に進歩しつゝあり、是れ工場工業は其生產力大なるにより能く高き給料を拂ひ、勞働時間を短縮し、其他凡て勞働者の待遇を改善するの力あると同時に、工場勞働者は團結運動に由て益々其地位を鞏固にし、社會政策は益々完備して其生活を向上せしむるが爲めに外ならず。而して工場工業の尙ほ幼稚なる間は主として未熟の勞働就中幼者婦女の廉價なる勞働に由て粗劣の生產を爲し、以て消費力の乏しき下級民及劣等國民の需用に應ずるに過ぎずと雖も、工業の進歩と國民の消費力の增進とに伴ひて一般に熟練職工に對する需用大に增加し、特に精巧なる機械の製作、其取扱及修繕、機械又は商品の分業的に生產せられたる各部分の組み立、及其不完全なる部分の完成の如き高度の技術を必要とするの程度は益々增加するものなるが、此種の作業を爲す所の上等職工は敎育普及の途備はるに從ひて中等社會に進入すること益々容易となりつゝあり。加之大企業の發達するに伴ふて其經營管理の任に當り、社會の中層に地位を占むる所の技術的、商業的、事務的使用人は非常の增加を爲し、例へば獨逸の職業統計に於て千八百八十二年より千八百九十五年に至る迄に工業勞働者の數は六割二分六厘の增加を爲したるに反し、前述の如き使用人卽ち謂ふ所の新中等社會は十一割八歩九厘の增加を爲し、千八百九十五年に於て此等使用人は勞働者十三人六歩に對して一人の割合となり、比較的高度の技術を必要とする化學工業に在ては其比例六人乃至七人に對して一人の割合なりしと云ふ。此新中等社會は上等職工と共に工業の發達に伴ひて益々增加すること此の如くなるが、其社會組織者としての價値は手工業者、小賣商人及自作農民の如き獨立の小企業者卽ち舊中等社會に比して精神上、物質上勝れる者多きは爭ふべからず。故に經濟の進歩に從ひて手工業を初め舊中等社會の減少し又は其勢力の衰退するを見て、直に社會組織の中堅たるべき中層階級衰退して國民は上下貧富の兩階級に分るゝの不幸を免れずと論ずるが如きは誤れるの甚だしきものなり。

獨逸職業統計（百萬單位）＊

	(甲)獨立		(乙)役員及使用人		(丙)勞働者		(丁)家事使用人及日傭取	
	一八九五年	一九〇七年	一八九五年	一九〇七年	一八九五年	一九〇七年	一八九五年	一九〇七年
A農林	二、五六九	二、五〇一	〇、〇九六	〇、〇九八	五、六二八	七、二八三		
B工鑛	二、〇六二	一、九七七	〇、二八七	〇、六八六	五、九〇一	八、五九三		
C商交	〇、八四三	一、〇一二	〇、二六二	〇、五〇六	一、二三三	一、九六〇		
計	五、一八六	五、四九〇	〇、六四五	一、二九〇	一二、七六二	一七、八三六	〇、四三二	〇、四七二

第五に手工業に在ては勞働に從事する者は男子にして、婦女は稀れに之を補助することある

＊この統計表は、原著者が後に至り原稿の欄外に記入しおけるもの。（編者記）

に過ぎず。又幼者が之に從事するは糊口の爲めにあらずして、職業教育を受くるが爲めなり。然るに工場工業に於ては分業及機械使用の結果作業の大部分は極めて簡單輕易となり、從つて婦女幼者にして給料を得んが爲めに之れに從事する者非常に增加するに至れり。此等の者が低廉なる給料を以て勞働市場に競爭を爲すことは、往々にして壯年男子の給料を下だして下級社會の生活を困難ならしむる場合あるのみならず、元來婦女の工場勞働は家政育兒の荒廢を來たし、且つ工場勞働は本來婦女の性質に適當するものにあらざるが故に其心身を害し、從つて又其產兒を嬰弱ならしむるものとす。幼者の工場勞働が其心身の發達を害し、之をして將來の國民たる重任に堪へざらしむるに至るは言を待たず。加之妻は夫の監督を離れ、子は親の監督を離れて工場に勞働し、且つ各自に給料を得るより又各自に之を消費するの機會多きことは社會の風紀を亂だし、特に家族制度を打破するの大原因を爲すものなり。

然りと雖も婦女幼者の虐使は工場工業發達の初期に於て最も甚しかりしが、今日先進國に於ては義務教育の年限を次第に延長し、次で補習教育を普及し、結局は中學教育をも義務教育とするの理想に向て着々歩を進め、他方には周到なる勞働者保護法を設け、特に幼者と婦女の保護に注意し、以て漸々上述の弊害を除去しつゝあり。工場工業の發達が家族制度の破壞に與つて力あることは爭ふべからずと雖も、元來愛情と權力との作用に由て政治上、宗教上、經濟上、社交上の共同利益を巧みに結合したる家族制度なるものは、個人間特に男女間の自由平等の思想盛となり、又交通分業生活の進歩せる結果家族の各員が次第に其能力の差に應じて異なりたる職業を選び、異なりたる場所に住居し、異なりたる社會と交際し、異なりたる宗教を信仰し、特に婦女の自覺と其能力の發達の結果は之をして經濟上獨立生活を爲すことを得せしむるに至り、一面には共同生活の進歩に由り從來婦女の唯一の任務とせられたる家政育兒に關する作業は公設又は私設の共同機關に由り次第に家庭より取り去られて、一層學理的且つ經濟的に經營せらるゝに至りてより、家族制度は舊時の如く社會組織の本位として至重の地位を占むるを得ざるに至るは自然の勢にして、工場工業は只だ此自然の勢を助長するに過ぎざるなり。

第六に工場工業が多數の人口を一個所に集中し、特に之を都會に吸收して都鄙發達の權衡を失はしめ、以て一方には國民の健康を害し、其增殖力を毀け、他方には國民心理の上に大變動を生じ、特に之をして輒もすれば唯物主義、快樂主義、利己主義に傾かしむるの危險なきにあらず、是れ實に今日文明國の都市に於て上下水道の敷設、住居の改善、病院の建設、公園、學校、圖書館、博物館、美術館、寺院及劇場、音樂堂、運動場等の有益なる娛樂場の設置に直接

間接に力を盡し、且つ交通機關を完全にして都市住民をば容易に天然に接觸せしむるの機會を與へ、特に之をして健康なる郊外田園の間に住居せしむることを勉め、政府は工場法を完全にして下級社會の健全なる進歩を助け、加ふるに獨り工業の繁榮に注意するのみならず、農業及農村生活の維持發達にも大に力を盡す所以なり。故に曾て放任主義の行はれし工場工業勃興時代に比すれば今日の工場勞働者及都會住民の生活は大に其面目を改めつゝあり。而して此都會生活は一方に於ては一國の文化の發達及普及に付て偉大の効果を奏せしことは爭ふべからず。（都會生活の自由――住居、職業、交際團結、娯樂享樂消費思想慣習――と社交性の發展。人口問題、移民問題、國防問題、風俗問題、思想の墮落と向上の比。）

之を要するに工場工業の發達は重大なる社會的弊害と相伴ふこと爭ふべからずと雖も、此弊害たるや元と社會進歩の大勢に伴ふて生じたるものにして、工場工業は之を助長するに過ぎず、且つ此弊害たるや全く矯正の望なく、又工業の進歩に由る經濟上、社會上の大利益を沒却するが如きものにあらず。故に今日の急務は工場工業の發達を阻止するにあらずして、之れに伴ふ弊害を寛和又は除去するに在り。元來今日吾人の社會的弊害を感ずるの特に甚しき所以は、獨り工場工業其他一般の資本的生産の發達に由り、貧富懸隔の事實大となりしが爲めのみにあらず、之と同時に吾人の社會各階級に對する平等思想盛となり、又下級社會の自覺强大となりて、現狀に對し不滿足を感ずること大となりしが爲めなり。而して現今の資本的大生産が貧富の懸隔を大ならしむるの弊は果して將來も益々增長して到底矯正するを得ざるものなりや、則ち經濟の發達は現代社會の精神的特色たる民主思想と益々反對の方向に走り、從つて社會主義者又は復古主義者の論ずるが如く革命的、不自然的に現社會組織を破壞するにあらざれば之が救濟の途なきやと云ふに吾人の信ずる所は然らず。生産界に於ける大企業の發達は其實今日の民主的思想を實現するの階梯を爲しつゝあるものなり、他なし、各企業の規模大となる時は其一舉一動は直ちに一般消費者の利害に大影響を及ぼすのみならず、其企業に使用せらるゝ數百、數千乃至は數萬と云へる多數の勞働者階級の利害休戚は一に之に係はるが故に、之を舊時の個人的小企業に比すれば其實質上に漸々私的性質を失ひて公的性質を帶び來り、從つて輿論の之を監督し國家の之に干渉するの程度は次第に增加せざるを得ず、特に大企業の多くは次第に獨占的合同となるの傾あるが故に之が監督は益々嚴重とならざるを得ず。（大企業の發達と其社會化。――外面上、對消費者、對勞働者。――內部上、人口の都會集中と其社會化、社會化と個人。）然るに此の如く大企業を監督する所の輿論及政府は益々民主的色調を帶び來るときは、其監督の結果は勞働者の經濟上の地位の向上を來たすべきは言を待たず。加之大企業發達は企業者の心理にも大なる變動を來たして自から其の反社會行動を制限するに至る

ものなり。元來大企業又は重要なる獨占業を經營して多數者の運命を左右するの地位に立つ者は、獨り社會公共の監督に餘儀なくせらるゝのみならず、其の存在と利益とが或程度に保證せらるゝの結果、競爭に苦しめる小企業の如く不安を感ずること少なきが故に概して遠大の利益に着目し、從つて一般の公益就中勞働者の利益と衝突するの方針を避くること多く、又此の如き地位に立つ者は自から社會に對する責任の念を生ぜざるを得ず。特に現今の如き大企業を經營するには到底個人の力の及ぶ所にあらず、通例株式組織に由り汎く社會の各方面より資本と人物とを集め、之が管理は合議制の理事者の下に立てる多數の役員團體に由て行はざるべからず。此の如く企業經營の任に當る者が小企業に於けるが如く純然たる所有者にあらずして、利害關係の比較的小なる役員團體たることは、之をして獨り企業の收益のみに着目せず、公衆の利益特に勞働者の利益に注意せしむること大となるものとす。加之大企業の成立は其下に使用せらるゝ多數勞働者の團結を刺戟し且つ其團結に便宜を與ふるが故に、勞働者の團結運動は益々擴張せられて强固となるに至るものとす。此等種々の原因に由り下級社會は將來獨り其精神上のみならず、其經濟上の地位も次第に高まるに至るべし。

是に由て見れば精神上の平等化と物質上の不平等化とが相並びて歩を進め、以て困難なる社會問題を惹起しつゝある現時の狀態は早晩救濟せらるゝこと明かなり。特に注意すべきは多くの生產業が大規模に集中せられて統一的に經營せられ、且つ之が經營の任に當る者は事業の所有者自身にあらずして役員團體となることは、則ち一歩を進めて或る部分の生產業を國有又は市有に移すことを可能とならしむる場合あるのみならず、此等大企業が集中の極獨占的合同となるの傾あることは、將來之を公有に移すことを必要とならしむる場合なきにあらざること是れなり。然れども吾人は一般の企業が雇主、勞働者の對等なる協議に由りて經營せらるゝ立憲的企業制度となり、又は一切の生產手段及企業が公有及公營となるの時代が果して到達すべきやを想像することを得ず、只だ經濟進歩の必要に由て大企業の隆盛となることは聽て企業をして公共的性質を帶ばしめ、從つて之に對する公權の干涉の程度を增加し、下級社會は其地位勢力の高まるに從ひて其公權の運用に參與すること次第に强くなるの傾向あるを疑はず。勞働者は獨り此の如く政治上の勢力の增進に由て間接に企業に對して干與するのみならず、雇主と勞働者との間に定むる所の雇傭關係自身が次第に公共的性質を帶ぶるに至るの傾向あり、他なし、輓近雇傭關係を定むるに付き雇主と個々の勞働者と直接に契約を爲す代りに、雇主又は雇主團體と勞働者團體との間に之を約定するの方法盛となりつゝあり。是れ近時經濟上に於ける

團結運動の強大となれる自然の結果なるが、此集合契約の方法に由るときは其決定は一方に於ては數千萬圓又は數億萬圓の企業の運命を左右すると同時に、他方には幾萬、幾十萬と云へる多數勞働者の運命を左右するの力を有するが故に、其集合契約の規定は最早や個人間に取結べる私的契約にあらずして公けの性質を帶ぶるものなり、從つて公衆及政府は其決定に對して注意を拂はざるを得ず、特に資本勞働の衝突の爲め不幸にして一度び集合契約破棄せらるゝことあらん乎、巨額の資本は運轉を停止すると同時に無數の勞働者は糊口に窮し、以て經濟上、社會上國民に重大なる危害を生ずるに至るべし。之を以て近來各國に於て資本勞働の衝突起るときは、政府が双方の代表者の參與に成る所の調停及仲裁機關を組織して之に干涉するの制度次第に盛となるに至れり。此制度たるや兩者衝突の場合に於て雇傭關係を公權の作用に由て決定せんとするものに外ならず。思ふに雇主及勞働者各其團結の範圍を擴張して一國に於ける同業者の大部分を網羅するに至れば、國家は兩團體の間に於ける協約作用を監督して其規定に公法的性質を附與し、以て經濟界の平和を維持することを必要とするに至るべし。

茲に注意すべきは法制史の大家ヘンリー・メインが、世の進むに從ひ人と人との關係は身分卽ち權力に由て定まりしものが、次第に個人の自由意思に出づる契約に由て定まるに至ると云ひしは、獨り法學史上動かすべからざる眞理と認めらるゝのみならず、一般社會學に於ても亦之を眞理と認め、或は社會進歩の尺度は意識的合意が强制的權威に代はる點に在りと云へる詞を以て同じ事實を表明する者も少なからず。然るに今將來の社會に於ては人と人との關係中最も重要の地位を占むべき雇傭關係が、雇主と勞働者の個人的合意より脫して次第に公法的關係に移るの傾向ありと云ふときは、前述の如く汎く承認せらるゝ所のメインの說と正反對の主張を爲すが如しと雖も、實は然らず。社會の尙ほ幼稚なる時代には社會團體の意思は直接には英雄、偉人、君主、貴族、地主等一人又は小數者に由て定められ、社會團體員の多數は消極的に之を承認するに止まり、則ち彼等は無意識的に社會を組織するに止まりしも、社會の進歩するに從ひて一般民衆は積極的に團體意思の決定に參與し、則ち彼等は意識的に社會を組織するに至るものなり。メインの說は實に此事實を道破せるものとして汎く承認せらるゝに外ならず。此意義に於てはメインの說は獨り之を個人間の私法關係に適用すべきのみならず、公法關係に於ても專制政治が立憲政治となり、制限選擧が普通選擧となり、又女子も次第に政權に參與せんとしつゝあるの事實を表明するものと云ふを得べし。翻て今日經濟上に於ける個人間の關係を見るに、社會の多數は雇傭契約を結びて給料を得つゝある者なるが、此等多數者は無產者な

るが故に雇傭契約に由り給料を得るの外に生活の途を有せず、從つて資本を左右するの地位に立ち資本の力を代表すとも云ふべき企業者の意志は、半ば命令となりて多數者を强制的に服從せしむるを免れず。故に多數者の勞働を爲すは表面上其自由意思に成る所の契約に由りて定まるものなりと雖も、事實は企業者の權威に由り强制的、無意識的に結合せられて經濟上共働互助の作用を爲すものに外ならず。然るに今此企業者の權威命令に代ふるに公法的關係を以てせん乎、此公法的活動なるものは開明國に於ては獨り資本の勢力の代表者に由るのみならず、勞働者及其他の社會公衆の積極的參與に由て成立するが故に、社會の多數者が公法的形式に由て經濟上の共働互助の關係を結ぶことは、卽ち無意識的よりして意識的に、强制的よりして合意的に進むものと云はざるべからず。（生産消費の經濟生活の社會化。——生産。——大企業。(1)公には國家、都市、(2)私には大會社、トラスト。此大勢の例外。(1)工にあつては大企業組織、(2)農にあつては小農の必要、西洋と日本との差、我國の特に小企業なること。——消費。——(一)公的消費、其大增加、普及平等、下層階級の向上の最大原因、給料の增加よりも。(二)私的消費、(1)消費物、——流行——大企業の整一——商品化、家庭の料理減少して公私の共同供給となるが如き、(2)取得方法の大規模となること、(イ)營利的のものにては百貨商店、(ロ)共同的のものにては購買組合。）

第四節　美術工業

一　美術工業の性質

美術工業品とは美化したる工業品を云ひ、普通工業品と純美術品との中間に立つものなり。實際美術品は其原料に比して製品の價甚だ大なるに反し、工業品の價の大なる部分は其原料の價に由て組成せらるゝを常とすと雖も、此の比例の大小は固より兩者の正確なる區別の標準と爲すことを得ず。例へば精巧なる機械の如きは其原料の價に比して製品の價甚だ大なりと雖も、是れが爲めに其機械を以て美術品と稱するを得ざるなり。蓋し此兩者は其目的とする所同じからず、美術品は美感を滿足することを目的として製作せられ、工業品は實用の利便を目的として生産せらるゝものなり、故に此兩者の中間に立つ所の美術工業品は實用と美感滿足の兩目的を同時に達せんとするものと云ふべきなり。尤も個々の物體に付て其の美術品なるや美術工業品なるや將た普通工業品なるやを區別することは程度の問題にして之を決するは容易にあらず。我國人が美術品として歐米の博覽會に出品せんとするものに對し、歐米人は之を美術工業品と見做さんとするの例少なからず。此判斷の相違を生ずるは彼我日常の物質生活の豐富なると簡易なるとに由ること少なからざるべし。尙ほ生活程度の進歩と技術の發達とに由りて、普通の工業品にも幾分の趣味を加ふること增加するが故に、美術工業品と普通工業品とを區別すること益々困難となるに至る。要するに此區別は絶對的のものにあらずして、時と所とに由

り變動する相對的のものなり。

美術工業に關しては世間の誤解少なからず。今其主なるものを擧ぐれば第一、美觀と實用とは全然相反するものなり。故に一物體の内に此二者を調和せしめんとするは根本の誤にして、美觀を完ふせんとすれば實用を害し、實用を害せざらんとすれば醜惡となるを免れずと云ふに在り。抑も眞善美の三者は果して一體なりや將た各獨立せりやの問題に付ては議論あるべしと雖も、世人が往々美觀と實用とは常に兩立せずと論ずるは、其の美觀の何たるやの誤解に基くこと多きが如し、世俗或は華美と繁縟とを具へざれば美にあらずと爲すもの少なからず、美にして果して此の如きものなりとせば勿論實用に反するを常とすと雖も、眞に品位ある美は清鮮簡潔にして自然的ならざるべからず。從つて實用品に眞の趣味を加ふることは其實用を害せざるを常とす。例へば木工品を製作するに方り其材料の自然に反する形狀を加へ、又は妄りに金銀を裝ふて其本質を隱れしむるが如きは實用を害すること大なりと雖も、眞の趣味は此の如き不自然又は繁縟にあらずして、寧ろ目的と材料の自然に從ひ其固有の美性を發揮せしむるに在り、從つて此の如き美的加工は又多く實用を害することなきなり。

第二の誤解は汎く純美術及應用美術に關するものなり。曰く美術及美術的工業の發達は國民を惰弱ならしめて其衰亡を促がすものなりと。然れども人は麵麭のみを以て活くるものにあらず。自然的慾望が滿足せらるゝ時は更に高度の慾望起らざるを得ず。此高度の慾望たる純精神的方面に向ふと同時に又物質的方面に向つて發達するものにして、後者は則ち主として美術品及美術工業品に由て充足せらるゝは勿論、此等のものは同時に精神的慾望を充たす手段となるを常とす、建築、彫刻、繪畫、音樂、詩歌、踏舞等は何れも宗教的慾望を充たすが爲めに起り、若くは之に由りて初めて大なる發達を爲したるは東西に通ずるの事實なり。最も論者は國民の風俗簡易素朴なるときは國運隆盛に向ふこと多きに反し、美術の發達したる後には國民の衰退時代來ること多き史實を擧げて吾人の注意を促がすを常とすと雖も、此の如き現象の連續發生を見て常に其間に因果關係を有するものと斷ずるは不當なり。凡ての有機體には發達に次で衰退の來るが如く、人間社會も亦盛衰興亡の運命を免れず。人類の發達せる結果必要的慾望を充たして尙ほ其勢力に餘りあるに方り、其餘力を科學、藝術等に費さずして徒らに之を劣等なる性慾の滿足に消耗するときは、其社會は一層速かに腐敗し衰亡するを免れず。固より美術にして徒らに華美に流れ惰弱に陷れるものは國民を蠱毒すること寧ろ色食の慾を恣にするに勝るものあり、又一部少數者の美感を滿足するが爲めに多數民衆の利益を甚だしく蹂躙するが如

き方法に由て發達したる美術は上下一般の衰退を招くの原因となること多しと雖も、汎く國民の各階級に亘りて健全なる嗜味發達するときは、其國民の勢力を保存し且つ益々之を發展せしむるの效あるや明かなり。

國民一般の高尚なる趣味發達し、從つて之を滿足せしむる健全の美術及美術工業の進歩することは、國民の勢力の保存發達に必要なること上述の如くなるが、更に經濟の上より此事實を說明すべし。抑も國民の富の程度進むに從つて健全なる嗜味の發達せざるときは、其消費は徒らに饒多華美となり、其流行は徒らに新を追ひ奇に走りて浮華の風を爲し、其道德上に患ふべき結果を生ずるは勿論、經濟上より見るも華美の風盛なるときは貨物の外觀のみに着目して其實質の粗劣となり、從つて甚しく實用を害せらるゝの不經濟を免れず。又流行の變遷急激なるときは國民は現に使用に堪ゆる貨物を捨てゝ新なる貨物を取得せざるべからず、而も其新貨物を消費することは特に心身の發達に利する所なくして寧ろ反對の結果を生ずるの危險多し。此の如き激變は恰も天災地變に由て巨額の富の頻繁に滅失すると異なるなし。固より國民の進取的氣象の充溢せる現代に於て流行の屢々變遷するは避け難き勢なりと雖も、眞の趣味存するときは其變遷每に層一層流行は高尚健全となるべく、又今日の如く其變遷は急激ならずして、Mode は Style に近づくに至るべし。今日の流行は單に新奇に走ること多くして趣味の進歩なきが故に、到底一の流行は久しく人心を滿足することを得ずして忽ち新なる流行に移り、以て無意義に巨額の國富を消滅せしむるを免れず。如何に富裕の國民と雖も、今日の如く急激に變遷する流行を追ふことは容易の負擔にあらず。國富の大を以て誇りと爲す所の現今の文明國に於て人々常に生活に追はれ、恰も物が人を役するの狀を呈するは怪むに足らざるなり。

流行の激變は此の如く趣味の幼稚なるに基くこと大なるものなるが、此流行の激變が一國の生產業に及ぼす影響に付ては世間往々誤解を爲す者あり、曰く流行の激變あれば貨物の需用も激增して生產者を利すと。此說は卽ち奢侈は生產者を利すると云へる古來の謬說と性質を同ふするものなり。無意義なる浪費が國民の消費能力を弱めて結局生產者に不利を蒙らしむるに至ることは今更之を辯明するの要なかるべし。唯だ世に流行なるものなく、各人特有の嗜味に適するの貨物を需用するときは、之が生產は小規模の手工業を以てし、之が取引は消費者自から生產者と交涉するが如き不便なる原始的方法を採るの外なし、然るに流行なるもの生じて各人同樣の貨物を消費するに於ては其生產を大規模にし、又其取引を大量に行ひ、以て大に生產費を低減して生產消費の發達を爲すことを得べし。此點より見れば流行なるものは經濟の進歩を

來たす大原因と云はざるべからず。然れども今日の如く此流行が激變するときは、獨り消費者の苦痛大なるのみならず、生產者は常に大なる營業上の危險を負擔せざるべからず、特に巨額の資本を固定して工場を建て機械を用ひて生產費を減ずること難く、主として流動資本と勞働の力に依賴する家內工業の組織を採らざるを得ず。故に流行は生產の發達を助くと雖も、其激變は之が進步を阻碍するものなり。

國富の增進すると同時に趣味の向上を生せず、從つて健全なる美術工業も發達せずして、無意義又は有害の浪費增長すれば社會的弊害を生ずること大なり。下級社會が奢侈浪費の風に感染し、特に其健康上、道德上有害なる浪費に耽ることは其困窮を來たす大原因なるは多言を要せず、又富者にして其富を高尙優美の消費に充つることは、獨り自己及子孫を保存發展せしむる所以なるのみならず、民衆の尊敬を受けて社會の風俗を改善するの効少なからざるに反し、若し、富者にして貴重の貨財を土芥の如く消費し、徒らに華美を競ひ、又は不道德なる目的に之を浪費するときは社會の風俗を紊亂するは勿論、下層階級の憎惡と輕侮とを招きて社會問題の解決を困難ならしむるに至る。現今文明國に於ける貧富の軋轢なるものは實に富者の趣味の缺乏に原因すること大にして、又舊時の貴族が民衆に對し大なる權威を保ちし一大原因も其趣味の優越なりしにあり。（舊時の貴族階級は何故に嗜味進步して今日の貴族は然らざるや、或は今日の貴族とも云ふべき資本家も。）尙ほ今日嗜味の幼稚なるが爲めに生ずる流行の激變は、企業の經營上工場組織に由ることを難からしめ、社會的弊害の大なる家內工業組織を跋扈せしむるの弊あることは之を看過するを得ざるなり。

美術工業の一般に經濟の進步に必要なるは上述の如くなるが、更に世界の先進國は國際經濟の關係上美術工業の進步を必要とするものなり。國際貿易の行はるゝ結果經濟の進步せる國は工業に其主力を注ぐに至るものなるが、現今の世界市場に工業品の販路を擴張せんとすれば、實用品と雖も成るべく之に嗜味を加ふることを怠るを得ず。英人の如きは實用品に付ては其實質の健固を重んじて其外觀に頓着せざるの風ありと雖も、其他の國民に至ては實質と共に外觀に大なる注意を拂ふものなり。英國が獨逸の爲め世界市場に於て往々壓迫せらるゝに至りしは、其實質を重んじて外觀に無頓着なるの事實に由る所なしとせず。勿論實用品の製造に付て妄りに外觀を重んじ、特に之が爲に實質を粗惡にするときは到底永く世界市場に地步を保つことを得ず。此の如きは又決して健全なる嗜味に適するものと云ふを得ず。我國の輸出品が常に粗製濫造の名を冠せられて世界市場より排斥せらるゝ一原因は外觀の偏重に在るが如し。而して此に述ぶる所は一般の輸出工業品に關するものなるが、我國の如く國際貿易上特に美術工業

品の重んずべき事情ある場合には、其健全なる發達が國民經濟上特に重大の關係を有するは言を俟たず。

二　美術工業の盛衰

美術工業は我國に於ては鎌倉足利時代より豐臣氏を經て德川氏の隆盛期に至るまで大に繁榮し、歐洲に於ては中世の中葉より末期に至る Gotik 及 Renaissance 式に於て其隆盛の極に達したり。先づ彼我共に此隆盛期に於ける需用の有樣を見るに當時は固より階級制度の世なりしが故に、美術工業品に對する需用者は主に少數なる貴族階級の間に限られ、其嗜味頗る高くして工業者を保護奬勵すること甚だ厚かりき。今日の如く思想、技術及流行の變遷急激なる時代には一定の方向に進歩を繼續すること容易にあらずと雖も、當時は人民の生活に變化なきと齊しく其心理的變化も極めて微弱にして、又技術の根本的變革も起らざりしが故に、細微なる製作にも五年十年を費し、歐洲にては寺院の建築に百年以上を費せしもの甚だ多きのみならず、往々にして其門扉又は祭壇の製作に五十年又は百年以上を費せしが如き例あり、凡て當時の工業の經營は手工的にして消費者の特別の注文に由り生産すること多かりしが故に、消費者と工人との間には德義的關係を生じ、之が爲め工人は仕事に熱心誠實なるのみならず、自己の思想を消費者に承認せしむることを得しが故に、技術と嗜味を犧牲に供して消費者の意を迎ふるが如き弊も今日の如く甚だしからざりき。

更に當時の美術工業を生産の側より見るに、其技術は手工的にして分業に由らず機械を用ひず一人にて作業の全部を行ひしより、生産者は仕事自身に大なる興味を有し、其生産物は分業的機械的方法に由る無生物にあらずして、生産者自己の思想性格を發現するの目的物となりしが故に、生産者は成るべく其生産物を完美ならしむることを努めたり。當時の社會には生産者の間に激烈なる競爭起らざりしより、各生産者は其生活の爲めに多く顧慮するを要せずして技藝に專心することを得たり。又今日と異なりて市場の範圍狹隘なるより、單に生産の數量を增加し販路を擴張することに由りて富を作るを得ず、從つて其生産物は自から量よりも質の方面に發達せざるを得ざりしなり。尙ほ當時は分業の行はるゝこと今日の如くならずして、一般の生活は頗る簡易なりしが故に、美術家と工人とは極めて親密の關係を有し、一人にて雙方を兼ねし場合も甚だ多く、爲めに美術工業は大なる進歩を爲すことを得たり。

封建制度倒れて各地方の交通開け、從つて工業の經營は一般に大規模となり、特に生産の技術一變して分業及機械の應用普及し、一方には階級制度破れて平民の世界となり、社會一般の

思想も嗜味も一變するに至りてより、從來の美術工業は非常に衰退したり。先づ現今美術工業に對する需用の有樣を見るに、舊時の如く上流社會に於て高度の嗜味存せず、又多少嗜味を有する者なきにあらずと雖も、今日の生產者は此くの如き少數者を相手として生活を立つることを能はず、主として大多數の平民階級を相手とせざるべからず。然るに此の多數者階級の中には假令へ將來一層高度の嗜味を發達するの萠芽を存するとは云へ、今日は其の嗜味尙ほ甚だ幼稚にして徒らに華美を好み、外觀に重きを置きて內質を問はず、純金銀の代りに金銀鍍金多く需用せられ、彫刻物の代りに鑄造物流行し、染料も化學的のものが植物性のものに代はり、其他多くの原料は科學の力に由り作られたるものが自然的原料に模造せらるゝのみならず、生產の方法に付ても機械製のものが手工品に模造せらるゝ有樣となり、又流行の變遷甚だしくして眞摯なる永續的の製作を爲すこと難く、交通の進步、市場の擴張は生產者をして生產の質よりも量に重きを置かしめ、加ふるに生產者と消費者との直接の交涉絕へしが爲め生產者は只管ら世俗の要望を迎ふるに急にして、自己の思想を消費者に承認せしむること難きに至れり。更に生產の方面より之を見るに其經營の規模一般に大となりて、其作業は多く分業及機械に由り分解結合せられ、之が爲め價格は甚だ低廉となりたりと雖も、品質は正確整一にして變化と餘韻を存せず、從つて舊時の手工業品を繪畫とすれば今日の工場工業品は恰も寫眞の如き觀を呈し、生產者の思想は個々の生產物の上に現はるゝことなく、假令へ其生產の技術は尙ほ手工的なる場合と雖も、大市場の需用に應ずるの必要よりして其經營方法は資本的の家內工業となり、企業者と勞働者とは分離せられて前者は營利を唯一の目的とし、又美術家と勞働者とも全く別種の階級に分れて其間の連絡を絕つに至れり。此等の理由より今日假令へ美術工業品と稱するものゝ產額は舊時に比して增大したるも、其品質に至ては著しき退步を示さゞるもの少なし。

上述の如く美術工業は近世に至て一般に退步し、一時は殆んど人をして其滅亡を豫想せしめたるが、此の如き狀態は到底永續し得べきにあらず。左れば歐洲に於ては前世紀の中葉より反動起り、John Ruskin. Gottfried Semper 等卒先して美術工業の復興を主唱し、William Morris. Van de Velde の諸氏之に勵まされて復興の事業に着手し、輓近漸く人をして斯業の前途に光明を認めしむるに至れり。是れ蓋し近時上中等社會に於ける嗜味の發達頗る見るべきものあるのみならず、下等社會の間にも漸々嗜味普及の徵候を呈し來り、國家自治體も健全なる趣味の重要なるを認めて之が進步を計り、獨り學校敎育に於て嗜味の開發に注意するのみならず、公園、道路、橋梁を始め一般の公共建設物に付ても成るべく美觀を與へて國民の嗜味を向上せし

めんとするに至り、是と同時に從來美術工業を度外視せし純美術家も再び之と連絡を結びて其發達を助くるに至りしが爲めなり。而して現今歐米に於ては建築が美術工業の中心となりて、他の美術工業は之と調和を保たんとするの傾向を示し、其建築も從來の如く寺院、宮殿、公衙、劇場、別墅等に止まらず、多くの鐵材を使用して機械的技術を必要とする所の鐵橋、停車場、高架鐵道、市場、百貨商店、郵便船等の如き從來最も非美術的建築と見做されたるものより、道路、公園及都市全體の建設就中田園都市の建設に及びつゝあり、此の如く建築が美術工業の中心となるに至りしは、輓近歐米各國に於ける都市の大膨脹に由り建築が非常に隆盛となりしこと其一原因なるべしと雖も、一面に於ては此傾向たる明かに現代生活の各方面に於ける大變革に伴ふて新なる樣式に由り之を統一せんとする努力の發現せるものと見ざるべからず。

我國民の純美術に關する能力に付ては多少の疑問なきにあらずとするも、美術工業に付ては特に適當の能力を有することは異論のなき所にして、其の過去に於ける發達は世界に誇るに足れり、然るに維新以來世態一變して之が經營は大部分手工業より家内工業に移り、技術は日に衰へて粗製濫造益々甚だしく、之を支配する趣味も國粋、歐化、折衷の三者雜然として統一する所なく、其の前途や實に多難と云はざるべからず。元來美術工業の發達が國民經濟の進步に必要なるのみならず、一般に國民の勢力の保存發展に必要なることは何れの國に於ても異なる所なしと雖も、此外我國民は特に美術工業上の能力を有すること明かなる以上は、之が發達を計ることは國民性の統一發展の上に重大の關係を有するや疑なし。我國民の貴重なる特性の一は其尚武の氣象盛なるにあるは萬人の認むる所にして、此特性の保存發展に對しては盡さゞる所なきに係はらず、尚武の氣象と相並んで我國民の貴重なる特質を爲す所の嗜味性に至ては之を閑却するの傾あり。是れ實に世人の日常口にする所の文武兩立の必要の眞意義を忘れたるものにあらざるか。尚武は嗜味と並行して初めて國家の運命を擁護するに足る健全の國民性たるを得べく、一方に於て尚武の氣象の盛なるもの存することは更に國民の嗜味を健實純正ならしむることを保證するものなり。過去に於ける我歷史は實に此兩者の精妙なる調和に由て光彩を放つものにして、又二千五百有餘歲の老齡を有する我國民が快活なる青春の元氣を以て新たに世界の競爭場裡に突進し得る所以も、此兩者並行の事實に原因すること大なりと云はざるべからず。此等の點より考ふるときは我國の美術工業復興問題は歐米のそれよりも更に甚だ重大のものにして、獨り藝術上又は經濟上の問題に止まらざるなり。

最後に經濟上の問題として特に貿易關係の上より我美術工業の地位を一言すべし。抑も我國

は歐米先進國に對して徒らに原料半成品を供給することを以て滿足するを得ざると同時に、又彼等に對して工場的經營に係はる普通工業品を大量に供給するの望は近き將來に於て到底實現せらるべくもあらず、此種の工業品は之を劣等國に輸出することを以て滿足せざるを得ざることと明かなる上は、歐米に對しては我特有の優美なる趣味と器用なる勞働とに由り美術工業品を供給せざるべからず。只だ美術工業品の中全然彼等の趣味に從ひ且つ其急激なる變遷に伴ふことを要する流行品の如きは、彼等自身の生産する所の者と競爭するの難きは言を待たず。又意匠に關する根本主義は假りに歐化主義を採るべしとするも、若し全然歐米の模倣を事とせば到底歐米自身の生産と競爭すること能はず。此の如き方針を採ることの果して我國民の要求を滿足する所以なりや否やは措て問はざるも、歐米に對する貿易上の方針としては則ち自殺に外ならざるなり。古來諸國の美術工業品の輸出に付て成功せし例を見るに、何れも獨特の趣味を發揮して外國市場を征服したるものにあらざるはなし。一時の小功を收むるには模倣必しも不可ならずとするも、是れ決して遠大の計にあらざるなり。

三　美術工業の經營

美術工業の經營方法に關しては二種の意見あり。一は斯業の性質上全然之を手工業として經營するの外なしとするものにして、輓近美術工業復興の魁を爲せし Ruskin の主唱する所、他は或程度まで近世文明の賜たる科學機械の力に由り之を資本的なる工場經營と爲すの可能なるを認むるものにして、Van de Velde の先導の下に蹶起せし和蘭、白耳義、其他の大陸諸國に於て此說を採る者多し。美術工業の絕對的に手工業に由らざるべからざるを主張するものは曰く、工業品にして眞の趣味あるものは其製作者の思想を發顯したるものならざるべからず。例へば吾人が書畫に由て美感を滿足する所以は、單に漠然と其形狀色彩等の美を感ずるが爲めにあらずして其作者の筆使ひを追ふて一畫一點之を味ふことを得るが爲めなると齊しく、美術工業品に付ても賞鑑者自ら身を製作者の地位に置き、一々其刀鋸の痕を追ふて製作の過程を想像することに由り初めて津々たる趣味を生ずるものなり。故に眞の趣味ある製作品は各個獨立の個性を有すべきものにして機械的の複製を許さず。然るに機械と分業とに由り一の作業を數多に分割して行ひ、而後之を機械的に綴合して完成したる大量工場品は如何に精巧なりと雖も、生命なき模造物にして何等の趣味を見出だすことを得ず。加之資本的大企業に於ては企業者は營利の外に目的なく、從つて俗惡なる民衆の趣味を迎へて大量の販賣を爲すを唯一の商略とし、一方には製作に從事する勞働者も沒趣味なる企業者の命令に服從して機械的に業を執り、

特に其作業の多くは分業的にして單調無味なるが故に、固より之に對して興味と熱情とを有するを得ざるなり。故に美術工業の經營は宜しく之を手工的とし、技術家と工人とは同一人なるか又は組合の如き組織に由り一身同體となりて共働せざるべからず、營利を唯一の目的とし作業自身に關し智識と興味とを有せざる資本的企業家をして之を左右せしむべきにあらず。美術工業にして一旦資本的企業家の手に陷れば意匠を俗惡ならしめ、只管ら之を新規にし、奇怪にし、以て世俗の好奇心を煽揚して其浪費を奬勵するに至る、換言すれば公衆の眞趣味を痲痺せしめて醜惡なる手段に由り常に之を興奮せしむるに至る。尤も資本的企業の生產物は一見其價格甚だ低廉なるの利あるが如しと雖も、徒らに其外觀を華美纖巧にして內質は甚だ粗劣なるが故に久しく之を使用するに堪へず。特に其意匠たる眞の趣味なくして一時の好奇心に投ずるものなるが故に、忽ちにして嫌惡の情を催さしむるを免れず、從つて消費者は頻繁に企業者の提供誘引する所の新規の貨物を購買するの已むを得ざるに至り、結局消費者に取りて非常の不經濟とならざるを得ず。世間或は資本主義の壓制なるものを解して單に下級民の膏血を絞ることゝするが如しと雖も、其實資本主義は茲に逃ぶるが如く上下一般の消費者を痲醉せしめて之に浪費を强制するものなり。尙ほ美術工業品に尊ぶ所は外觀の華美にあらずして其內質の健全なるに在り。故に今日の資本的企業が好んで利用する所の化學的染料、人造絹絲等の模造品は原料として絕對に排斥せざるべからずと。而して此說を主張するものは經營方法に付て中世的手工業を尊ぶが如く、意匠に付ても保守的にしてラファエル前派又はゴーチック趣味を皷吹する者多きが如し。

歐洲先進國に於ては產業革命以後一般の工業は次第に大規模に經營せらるゝに至りしも、美術工業のみは依然として手工業の領分に保有せらるべしと信ぜられたり。然るに經濟界の進步は漸々之を家內工業に移し、輓近に至ては更に之を工場組織に移すの勢盛となれり。我國に於ては一般工業も歐米に模倣したる洋式のものを除ては今日尙ほ手工的技術に依賴し、其經營を家內工業組織とするもの多きを占むる有樣なるが故に、普通工業よりも手工的技術を必要とすること多く、特に生產の成績が個々の勞働者の技能に關係すること大なる美術工業が大規模の經營に移るは容易にあらずと雖も、今日主に家內工業の手に存するものが將來次第に工業組織に移ることは避くべからざる大勢なり。抑もRuskin一派の主張は近世文明社會に於ける量を重んじて質を輕んじ、勞働の神聖を認めずして黃金是れ貴しとする粗野の唯物主義、及び外觀を主として內質を問はざる浮華の傾向に反對して起りたるものにして、其動機や倫理的なるも藝

術的にあらず。故に此說が保守の傾向强く且つ倫理的にして藝術的ならざる英國に於て特に勢力を有せしは怪むに足らず。而して此說が現代文明の缺點を指摘して世人を覺醒したるの効は沒すべからずと雖も、其の資本に反對し、機械と科學を斥け、又廉價生產と云へる一般民衆の要求を無視せんとする復古的主張は到底之を實現するを得ざるなり。蓋し給料一般に騰貴して生活の程度非常に高まり、美術工業勞働者と雖も其仕事の特に興味あるの故を以て低廉の給料と簡易の生活とに滿足するが如き者を見出だすを得ざる今日に在て、此說に從ひ美術工業を手工的に經營せんとすれば其生產物は非常の高價となり、從つて富裕にして趣味の高き少數者の慾望を滿足し得るに過ぎず、下級社會は勿論多數の中等社會の慾望をも無視せざるべからず。勿論此種の高等なる美術工業は將來に於ても存在すべく、之を保護して發達せしむるは貴族富豪の責任と云ふべく、場合に由ては國家も亦一國の美術發達上之が保護を爲すの必要あるべしと雖も、普通の美術工業に至ては將來決して此の如き經營方法に由て存立するを得ざるなり。

手工業の組織に由り技術家自から製作に手を下だし、直接に其思想を作品の上に實現する場合に於て初めて高尙なる美術工業品を生產し得べきは論なし。古へ社會組織の單純にして技術家の地位低く、又一般生活の程度も低かりし時代に在ては、技術家にして自から手工的勞働を兼ぬること難からざりしと雖も、今日は技術家の地位非常に進みしが故に、精神的勞働卽ち意匠案出を爲すの側はら自ら製作の勞働を採るときは、到底其地位に相當する收入を得ること能はず、從て何人も安んじて其業に一身を托すること能はざるなり。又此貴重なる精神的勞働者をして其勞力と時間とを多く製作の勞に費さしめ、之が爲め其意匠能力の發展を妨ぐるは社會一般に採りても不利益なり。特に注意すべきは職業的分業の傾向大なる手工業に在ては其生產は或一種の狹隘なる方面に限られざるを得ず。然るに意匠家の活動は此の如き狹隘なる範圍に局限せらるべきものにあらず、汎く各種の方面に向つて自由に之を發展せしめざるべからず。左れば高等の美術工業は兎も角、普通の美術工業品卽ち趣味品と稱するものに至ては大規模に之が生產を經營し、意匠家をして專心精神的勞働に從事せしめ、其製作的作業は之を多數の勞働者に執行せしめ、成るべく分業と機械を應用して生產費の減少を計り、以て廉價に之を生產して多數者の需用に應ずること丶せざるべからず。

普通の美術工業は到底今日之を手工業に由て低廉に生產することを得ざるは上述の如くなるが、假りに手工業に由て技術上之を廉價に生產し得るとするも、尙ほ手工業は商業上の缺點大なるが故に、到底新時代に於ける企業經營の方法として一般に之を維持すること難し。抑も交

通機關の發達と一般の生活程度の進歩とは普通の美術工業品に對する需用を非常に增加したるが、彼の個々消費者の注文を受けて生產を爲し、又は少量の生產物を店頭に陳列して消費者の來り購ふを待つが如き手工業は到底內外に亘る大市場の需用に應ずること能はず。必ずや資本の大にして商業的技能に富める企業家が其生產販賣を統一經營せざるべからず、此統一經營方法の中第一に起るは通例家內工業にして手工者の各自に生產したるものを買集め、更に進んでは多數の手工者に一定の意匠と原料器具等とを與へ、各其自宅に於て多量に複製せしめたる上之を取纏めて遠隔の市場に輸送し、又は壯大なる店舗を設けて之を陳列し、廣告の利用、商業旅行者の派遣等の方法に由て汎く消費者を吸引するものとす。此家內工業は技術的に分散したるものを商業的に統一し、以て大市場の需用に應ずるが爲めに起りし資本的經營の一種なるが此方法は一般工業に付ては時勢の進歩に伴ふて次第に不適當となり、遂に多數の職工を一場に集めて勞働に服せしめ、商業的にも技術的にも完全の統一を行ふ所の工場工業に其地位を讓らざるを得ざるに至る場合多きことは旣に之を述べたり。此點に付き美術工業は之を普通工業と全然同一に論斷するを得ざるは明かなりと雖も、結局多數の美術工業は普通工業と齊しく工場組織に移ることを利益とするに至るべし。

一般工業の經營に付き家內工業の工場工業に劣れることは前に之を詳論したるが、此論は大市場の需用を目的として大量に生產するを要する所の普通の美術工業の經營に付ても適用するものなり。美術工業品たると普通工業品たるとを問はず凡て大量生產を爲すに付き、家內工業は進歩したる工場工業に比して技術上及商業上の缺點あり。特に家內工業が主に流動資本を使用するより遠大の利害を顧みずして粗製濫造の弊に陷り易きこと、及其社會的弊害大にして勞働者の技能の進歩を妨ぐることの如きは、美術工業の發達に甚だ不利なるや明かなり、近世普通の美術工業が資本的に經營せらるゝに至りてより生產の品位に非常の墮落を來たせる一大原因は、斯業が上述の如く弊害多き家內工業の組織に由て經營せらるゝに至りしが爲めなり。我が國に於ても維新前後に於て美術工業品の初めて歐米に輸出せられし時代には、獨り其意匠の彼等に取りて斬新なりしのみならず、其製作の巧妙にして健實なりしより非常の好評を博し、我國をして忽ちに世界の美術國たるの名を得せしむるに至りしが、爾來其輸出の增進卽ち市場の擴張に伴ふて其經營を資本的に統一するの必要起り、爲めに外國輸出の美術工業品の大部分は家內工業の手に移りしが、之と同時に其品質に著しき墮落を生じて世界の信用を失ひ、人をして其輸出の前途を疑はしむるに至れり。此の如き美術工業の衰退を救ふの途は一ならずと雖

も、出來得る限り之を家内工業より工場工業に移すことは、其重要手段たるを疑はず。而して之を大規模の工場に移す時は優良なる技術家をして意匠の案出に從事せしめ、熟練職工をして之を大量に復製せしめざるべからず。既に之を職工の手に由て大量に複製せしむることゝせば、出來得る限り機械と分業方法とを應用して生産費を減じ販路を擴張せざるべからず。此の如き大規模の生産に由て生産費を減じ生産力を高むることに由り、初めて技術家には其地位に相當する收入を得せしめ、又職工をして安んじて其業に從事せしむることを得るものとす。固より此の如き大量生産品は技術家自から製作に手を下だす所の高等の手工品に比して趣味に乏しきは明かなりと雖も、工場品を以て常に舊時の下級美術工業品よりも劣れりとし、又は之を以て全く無趣味若くは醜惡なりと斷ずるは極端に失するものなり。純美術品及上等の美術工業品は其性質勿論機械的の模製を許さずと雖も、普通の美術工業品は實用に重きを置かざるを得ず、從つて趣味の爲めに多く實用を損するを許さず、又實用品たる以上は其使用を普及することと緊要なるが故に、價格を不當に高からしむるは其本質に反するものと云はざるべからず。而して資本的の大企業は一方に於て高等の技術家をして自由に其手腕を振ふことを得せしむると同時に、他方には其思想を最も廉價に且つ最も精確に實現せしめ、以て一般消費者をして利便を享受し美感を滿足せしむるの方法なりとす。

普通の美術工業は將來益々工場組織に由て經營せられ、從つて其作業には機械の使用增加せざるを得ず。固より機械を之に使用することは種々の缺點あり、其著しきものを擧ぐれば第一機械の働作は單純なるが故に、之を多く使用したる生産物の形體卽ち其面と線とは單調とならざるを得ず、然れども現今機械は既に發達の頂上に達したるものにあらずして、將來大なる改良を加ふるの餘地を存するのみならず、現代人は機械の運用の術に付ても尙ほ甚だ幼稚なるを免れず。加之眞に高尙なる趣味は寧ろ簡潔の內に存し、必しも常に複雜繁縟を貴ばざるなり。第二に機械を多く使用する生産物は其形體の單純と複雜とを問はず、極めて正確整齊にして些の不規律を存せざるものなるが、元來餘りに完全なる人物に接するときは冷かなる感を生ずると齊しく、凡ての事物を賞鑑するに方りても消極的に印象を受くるに止まらず。賞鑑者自身の想像に由り進んで其事物の缺陷を補充するにあらざれば興味を生ぜず、此の缺陷補充なる積極的作用は所謂事物を味ふことにして、此作用に由て生ずる興味は所謂餘韻なり。而して機械製品には此の重要なる餘韻なきを常とす。然れども現代の機械と其使用方法とは尙ほ幼稚なり、實は機械に役せられて之を役するの途を知らずと云ひ得べき場合多し。故に將來機械使用の能

力進歩するときは、曾て簡單なる道具を自由に使用せしが如く複雜偉大なる機械を自由に使用して、單調を破り餘韻を與ふること難からざるべし。苟くも將來の民衆にして嗜味ある貨物を要求するに至るときは、將來の機械使用も亦之に應ずる方向に發達せざるべからず。

現今工場製作品が人をして無嗜味又は醜惡の感を生ぜしむる一大原因は其の手工品を模倣する點にあり。蓋し美術品の賞鑑上興味を生ずる一原因は賞鑑者自ら身を製作者の地位に置き、其製作の過程を想像することに在るは既に述べたり。然るに手工品を模倣する所の工場品に對して此の如き賞鑑的態度を採るときは忽ちにして其贋物なることを發見し、爲めに興味を殺がれて嫌惡の感を生ぜざるを得ざるなり。科學の力に由て生産せらるゝ無機的原料を以て、手工時代に一般に使用せられし有機的原料に模造すること亦同樣の缺點を有す。然れども此の如く工場品を手工品に模造することの多く行はるゝは、明かに今日の工業が尙ほ幼稚にして、機械及新材料に固有なる新樣式を發見し得ざることを示すものなり。今日の工業にして進歩の能力ある上は必らずや新なる目的と材料と方法とに適する新樣式の發達するに至るを疑はず。現に近時の鐵骨構造の建築には雄大簡潔なる新樣式の發達しつゝあり。又假令へ一時非常の勢を以て工業界を風靡せし art nouveau 又は Secession 式が、妄りに新に走り奇を追ひしが爲め目下頗る勢力を失ひしとは云へ、是れ新時代に必要なる新樣式の第一着歩にして將來の發達に偉大の影響を有するものたるを疑はず。尙ほ現代人の生活方法及嗜味は之を舊時に比すれば著大の變化ありとは云へ、慣習の惰力は容易に動かし難きものあり。是れ亦新工業が公衆の要求を迎ふるの手段として舊來の手工製を模倣する所以の一なり。故に公衆の思想の變化して慣習の支配を脱するに至れば、新工業が醜惡不自然なる模倣を爲すの必要消滅して、新樣式は自由に發展することを得るに至るべし。

現代人は新なる目的の爲めに新なる技術を利用して新なる生活を營むに付ては其能力尙ほ甚だ幼稚にして、僅かに支離滅裂なる分業方法に依賴し、無統一無調和の生活を營みつゝありと雖も、本來此分業なるものゝ眞の意義は之を綜合統一に於て見出だすの外なきが故に、其能力の發達するに從つて必らずや分業と相並んで巧妙なる統一的技術發生するに至るべく、特に技術上幾多の偉大なる統一的能力者の發生すること恰も文藝復興時代に於て Vinci. Raphael. Michelangelo を初め多くの藝術界の偉人が繪畫、建築、彫刻等の諸方面に亘りて驚くべき統一力を有したりしが如き狀態に近づくの望なしと云ふを得ず。論者或は予輩を以て徒らに空想に耽る者と批難せん。然れども現に今日の文明の最も進歩したる方面に於ては着々として此の如

き統一的發達の眼前に開展しつゝあるは其の空想ならざることを證するものに非ずや。抑も近世の産業革命は手工業時代の慣習に從ひ細密なる職業的分業を以て初まりたりと雖も、産業の發達に伴ふて企業能力も着々進歩し、各企業は横に膨脹して同種品の生産を増加するのみならず、其生産に關係ある種々の他の事業を結合して縱にも膨脹し、工業界には合同の勢力益々盛となれると同時に、金融界には動産銀行、商業界には百貨商店が勢力を振ひ、一企業の内部には技術的分業益々細密に行はるゝと同時に、職業的合業に由て之を統一すること益々巧妙となりつゝあり。企業能力の尙ほ幼稚なりし時代には人々産業の進歩は獨り技術的及職業的分化に由て行はれ得べしとし、何人も今日の如き職業的合業の可能有利なるを信ずるを得ざりしに反し、企業能力の發達したる今日に在ては合同こそ進歩の必然の徑路なりと考へらるゝに至りしにあらずや。苟くも分業にして眞正の發達を爲すには必らずや之と相並んで統一綜合の存するを必要とすること明かなる以上は、技術界に於ても分業に由て無機的に生産せられたる部分を有機的に結合する所の綜合力の發達するに至ること、尙ほ企業上に於ける合同集中の如くなるべきを期待するは決して空想と云ふを得ざるべし。

普通の美術工業は將來之を大規模の工場組織に由て經營するの可能有利なること上述の如しとするも、營利を唯一の目的として技術に付き智識も興味も有せざる資本的企業家をして之が經營の局に當らしむるは有害なるが故に技術家をして其經營に任せしめざるべからず。只だ技術家にして大企業に必要なる資本を有すること稀なるが故に、多數の技術家相集まりて組合を組織し、各自相當の出資を爲すと同時に、其共同の信用に由て世間より必要の資本を仰ぐを得策とすべしとの說あり。現に獨逸に於ては此の如き組合の二三設立せらるゝものありしも、其計劃は失敗に了りて今は何れも資本的企業家の手に移るに至れり。蓋し技術家自から企業家となるの方法に由れば資本缺乏の困難の大なるは勿論なれども、實際其最も困難とする所は資本の缺乏よりも寧ろ企業能力の缺乏に在り。世人は通例資本の豐富なるの一事は企業の成功を保證するものなるが如く信じ、又彼の社會主義者は今尙ほ企業家を以て資本の力に由り手を拱して勞働者の膏血を絞るものなるが如く誤解すと雖も、實際大企業の經營は甚だ困難の業にして偉大の能力と非常の苦心とに由らざれば成功するを得ず。特に需要の變動少なき日用品の生産と異なり、公衆の趣味を探究して之に適合し且つ巧みに之を誘導することを目的とする美術工業の經營は非常の難事たらざるを得ず。此の如き困難危險なる任務は一般技術家の能く堪ゆる所にあらず、偶々技術家にして此種の企業能力を有する者ありとするも、技術に身を委ねて側

はら企業の經營を爲すが如きは多くは不能なり。又技術家が技術に專ばらなるを得ずして其時間と精力の大なる部分を企業の經營に費すは喜ぶべきことにあらず。要するに普通の美術工業にして資本的經營を必要とすること明かなる以上は、其經營を商業的、事務的なる企業家の手に委するは已むを得ざるなり。

美術工業を經營する資本的企業家にして、健全なる嗜味を發揮し、公衆を益すると同時に企業の遠大の利益を計らんとせば、企業家自身が趣味を解する者たらざるべからざるは論なし。而して此種の企業の經營に付て注意すべきは第一技術家には大なる權限を與へ、其俸給を豐かにして全身を事業に委ねしめ、或は其意匠に付ては著述の場合に於て著者に印税を與ふると同樣に一定歩合の分配を爲して之を刺戟し、又其名譽を表章すると同時に責任を重んぜしむるが爲めに製作品に其名を刻せしめ、職工の養成と待遇とにも齊しく多大の注意を拂ひ、技術家に對すると同樣の手段を採りて之を刺戟奬勵し、商業的事務に當る所の販賣掛、商業旅行者等にも相當の技術上の智識と趣味とを有する者を選任せざるべからず。何となれば技術を解せざる販賣者は公衆の俗趣味を迎合煽揚するの弊ありと雖も、技術を解して之を愛する者は成るべく公衆の趣味を向上せしむることを努むればなり。企業の經營に付て如上の注意を拂ふときは資本的企業常に必しも趣味の腐敗者たらずして、而も遠大確實なる營利の目的を達すること難きにあらず。

四　美術工業の前途

以上論ずる所に由て見れば普通の美術工業を工場組織に由て經營するは經濟の發達上必要にして、且つ此經營方法に由るも其生産物に相當の趣味を加へ、特に新樣式を發達せしむること難からず。此經營方法は今日の如く之を家内工業の手に委するに比すれば經濟上、社會上には勿論、嗜味の發達の上にも有利なること明かなり。只だ經營方法の甲乙を問はず苟くも資本的企業の手に之を委ぬる上は營利が最終の目的たらざるを得ず。從つて世間の好尚を迎へて販賣高の增加に腐心せざるを得ず。其結果資本的企業は世間の嗜味を墮落に導くの危險なきを得ず、又假令へ然らざるも尙ほ積極的に世間の嗜味を誘導向上せしむることは甚だ困難なるが如し。資本的企業は果して嗜味の墮落と向上と何れの結果を生ずべきやは一に現代の民衆が嗜味開發の能力を有するや否やに係る。此點に關し復古論者は現代の一般文明に對すると同樣に悲觀するものなり。彼等は資本と科學の上に立つて民衆の平等的進歩を來たす所の現代の文明は風紀道德の腐頽を來たすと同時に趣味の墮落を生ずと信ずるものなり。彼等は飽く迄自己を發

展せんとし、又凡ての事を理智に由て解決せんとする現代の進歩的精神及此精神より流れ出づる科學の進歩や機械の發明や資本の貯蓄や工場の建設を以て眞文明の賊と爲す者なり。彼等は現代の文學美術の傾向たる寫實主義、自然主義、印象主義の如きを夫れ自身に醜惡なりとするのみならず、將來更に偉大圓滿なる新趣味を建設するに至る一過程たるの價値あることをも認めざるなり。輓近民衆の自覺向上に伴ふて嗜味を要求するの聲次第に高まり、從つて普ねく民衆の用に供せらるゝ物體例へば道路橋梁や、汽車汽船や、百貨商店や、特に公園其他の公の營造物が、過去に於ける寺院や宮殿に代りて次第に美術工業の目的物となり、其美術たるや新なる思想目的及技術の產み出したる新式のものにして、其發達の程度は今日尙ほ甚だ幼稚なりと雖も、而も其價値や舊式のものに比して必しも劣惡と云ふを得ざるなり。然るに復古論者は眼前に横はれる此顯著なる事實に對して全く盲目なり、何となれば彼等は先づ今日の民衆は道德上にも趣味の上にも向上發展の要素を有せずと獨斷して而後萬事を觀察する者なればなり。要するに彼等は一般民衆が無智にして迷信し、貧困にして分に安んじ、少數の貴族の專制の下に醉生夢死するが如き社會にあらずんば人生の眞意義を見出すことを得ず、此の如き社會にあらざれば眞に偉大の人物も高尙なる趣味も發達せずと信ずる者なり。此復古的思想に付ては尙ほ後に至つて論ずる所あるべしと雖も、予輩は現代文明の弊害の甚だ大にして特に其の甚だ沒趣味なるを知ると同時に、智識の進歩と富の增加と民衆の進歩とに由て將來更に偉大なる新文明、圓滿なる新趣味を建設するの萠芽が現代民衆の間に發生しつゝあることを信ずるものなり。

第三章　工業の企業組織

第一節　單獨企業と共同企業の長短

企業組織なる詞は種々の意義に使用せらるゝ所なりと雖も、此には多數者が一個の企業を經營するが爲めに共同することを意味するものなり。共同企業の方法は今日各種の企業に適用せらるゝものなるが故に、之が研究は獨り工業に限る問題にあらずと雖も、工業の發達に從ひて共同企業の方法、就中株式會社組織は農業、商業に於けるよりも特に多く工業に適用せらるゝが故に、今日の工業の成立と活動とを明かにせんとせば此組織問題を研究せざるべからず。特に開明國の工業界に於て盛に行はるゝ所の合同の眞相を明かにせんとするに於て然りとす。而して共同企業を研究せんには先づ之を個人單獨の企業に比して其長短を明かにすることを要す。

一　單獨企業の長所

單獨企業の長所卽ち反面より見れば共同企業の短所たる點の主なるものを擧ぐれば第一企業者は一人にして企業上の利益と損失とは全く一身に歸するが故に、勤勉熱心にして注意節約を行ふは自然の勢なり。然るに共同企業に在ては各共同者は企業の利益を他人と分割せざるを得ざると同時に、損失起るも之を一身に負擔することを要せざるが故に、自から業務に熱心誠實ならざるの弊あり。故に事業の成否が資金の多少よりも寧ろ企業者の勤怠に係はること大なる場合には概ね個人企業を以て利益とす。第二に單獨企業に在ては企業者は他より制肘せられずして自由に行動することを得るに反し、共同企業に在ては合議を必要とするが故に、迅速の決斷を成すこと難くして商機を失すること多し。故に個人企業は臨機應變の處斷を要すること多き事業を營むに適當するものとす。第三に單獨企業に於て企業者が其全力を事業に注ぎ、且つ他より制肘せられずして自由に其手腕を振ひ得ることは、之をして其特有の技能と性格とを自由に發展せしむるの利あり。尤も共同企業に在ても各共同者は其性質に應じ各方面の事務を分擔して專ぱら之に力を注ぐことを得、從つて其特有の技能を發達せしむるを得る場合の少なからざることを看過すべからず。第四に單獨企業に在ては事務の執行簡易なより經費少なるを得るも、共同企業に在ては多くの事務が合議の手續を要するより自然に經費の增加するを免れず。第五に單獨企業に在ては業務上の秘密を守ること易きに反し、共同企業に在ては合議を必

要とするより之を守ること難きを免れず。第六に單獨企業に在ては資本を增加して事業を伸縮することを自由なるが故に、能く生産をして需用の消長に伴はしむることを得るに反し、共同企業就中會社企業に在ては資本の增減を行ふこと迅速簡易ならざるの不利あり。尤も鐵道の布設を擴張する場合の如く急激に巨額の資本を增加するに付ては、株式會社の增資又は社債募集の如き良方法は通例個人企業の有せざる所なり。第七に單獨企業に在ては雇主と勞働者との間に親密なる主從の關係成立すること少なからざるに反し、共同企業に在ては兩者の關係は此の如く親密なること難し。然れども現今の如く自由平等の思想進歩したる社會に在ては所謂主從の關係なるものは次第に薄くなるのみならず、又必しも之を資本對勞働の理想的關係と見るを得ざるは既に論ぜし所なり。

二　共同企業の長所

次に共同企業の長所にして單獨企業の缺點とする主なる點を擧ぐれば、第一個人の資力には限りありて巨大の事業を營むこと難きに反し、共同企業に由れば如何なる大事業をも營むことを得べし。又獨り資力のみならず、企業能力に付ても單獨にては到底偉大なる企業を經營し難き場合多し。今日の如く一般の事業が日々大規模となり複雜となる時代に在ては、共同企業が主たる企業形式とならざるを得ず。第二に共同企業は概して資力の大なるのみならず、其業務執行に付ては秘密少なく、又株式會社組織の場合の如きは法律が特に其財産狀態の公示を强制するより、世間の之に對する信用は個人企業に對するよりも概して大なり、從つて共同企業は個人企業よりも低利にて世間より資本の融通を受くるの利ありとす。是れ銀行業の如く信用を重んずる企業に在ては特に共同企業の廣く行はるゝ所以なり。第三に單獨企業に在ては企業者は自由に且つ迅速に處斷行動することを得るの利あると同時に、其意見の偏する場合も少なからず。然るに合議に由る所の共同企業に在ては、假令其意見は卓拔ならざるも公平着實なるの利あり。故に共同企業は臨機の處斷を必要とすること多き普通の商業よりも銀行、保險、工業、交通等の事業に適當するものとす。第四に單獨企業は常に企業者の一身と運命を共にし、其疾病、災害、死亡、其他の一身に附着する故障は直接に事業の上に影響を及ぼし、從つて今日一般に行はるゝ所の永遠に亘る大企業に取りては單獨企業は甚だ不安なり。（我國家族制度。——養子制度、自由の世は不能となる。——番頭政治、自由の世は不能となる。——將來は家族的共同。）然るに共同企業に在ては假令へ共同者の一二人の身上に變動を生ずるも多く全業に影響を及ぼさず、特に多數の共同より成る株式會社の如きは其企業の運命と共同者たる其株主の運命とは全然分離せらるゝ有樣にして、遠大の事業を經營するには此種

の共同方法に由るを最も安全とす。（(2)(3)(4)の理由。——公益關係の事業特に特許事業をば株式組織とすること。(1)半官的事業、(2)特許事業、鐵道、信托會社、取引所。）第五に共同企業に在ては企業の損失は多數者の分擔に歸するが故に、此組織方法に由れば收益の甚だ少き又は全く利益なき公益的事業を起すことを得べく、又近き將來に於て充分の收益の見込なき遠大の事業をも營むことを得べし。從來事業の新規にして成否の確實ならざる危險の事業は株式會社の如き共同組織に由れる場合多かりしは之が爲めなりと雖も、今日は巨大なる資本家多數存在し、且つ一般に企業心甚だ盛となれるより、危險なる事業は却て先づ個人企業に由て營まれ、其成功の確實となりし後始めて株式組織に移る場合少なからざるに至れり。第六に共同企業に由れば企業の能力を有するも資本の缺乏せる者は他の資本家と共同して能く其手腕を振ふことを得べし。是れ獨り事業の進歩を來たすのみならず、社會上の利益甚だ大なり。小規模の個人企業盛なる時代は各人獨立して自由に其性格を發展し得るに反し、大規模の共同事業盛となるときは、個人は多數の中に沒せられて人格の發展を不能ならしむるの弊あり とは吾人の屢々聞く所なりと雖も、一面より見れば個人企業盛なる時代には、企業能力ある者も資本を有せざれば活動し難く、特に偉大の人物も資本の小なるが爲め其手腕を振ふこと難きに反し、大規模の共同企業の時代には企業能力の發展は資本の所有と云へる束縛より脫出することを得て、實業界に大人物の輩出するを見るを常とす。又共同企業は一面に於て企業能力の缺乏其他の事情に由り自から企業を經營するを得ざる資本家をして企業利益の分配に與ることを得しむるの利益あり、特に株式會社の場合の如く各共同者の出資すべき金額を少にして汎く資本家を糾合するの方法を採るときは、小資本家も能く偉大の事業に參加して之が利益を受くることを得べし。小資本に對して此の如く汎く有利に資本の運用を爲すの機會を與ふるときは、社會一般の貯蓄を奬勵するの効あるは勿論、大企業の發達に由りて中小企業は衰退するも尙ほ中小資本家を維持增進せしむること不可能にあらず、世人往々近時中小企業の衰退するの事實を以て直ちに中小資本家の減少と同視すと雖も、之れ理論上の誤謬に陷れる者なり。（所得稅賦産稅の統計。——中産者增大、小産者も增大、然し少數者に集中は一層大。）只共同企業の隆盛に伴ひて其資本は漸々社會各階級の手に分散所有せらるゝに至るの事實ありやと云ふに然らず、中小資本家は其絕對數に於ては幾分增加しつゝあるが如しと雖も、今日大速力を以て增加しつゝある資本の益々大なる部分は少數者の手に集中せられつゝあるは爭ふべからず。是れ社會公衆をして大々的共同生活の利益を享受せしむるが爲めに、諸般の企業を集中統一するより起る所の避くべからざる結果なりと雖も、此の如き所有の集中は轉て大資本家及大財産をして私的性質を脫し、公人公物の性質を帶ばしむる

の勢を誘致する所以ならざるを得ず。舊時無數の小企業並立し、從つて社會に存する資本も無數の小資本家の手に分散せられたる時代には、個人の財産は純乎たる私有物にして之を其所有者の自由處分に委することを當然としたりと雖も、現代の開明國に於けるが如く資本の所有が少數者の手に集中せらるゝに至れば、道德上より見て其資本は舊時の如く所有者の自由に處分し得べき私産にあらず、社會公衆より預りたる共同の財産と云はざるべからず、從つて將來の大資本家は道德上公人として其財産を公益の爲めに管理するの責任を生ずるや明かなり。此社會的思想は資本家自身の公人たる自覺と社會公共の權威就中社會的立法とに由りて次第に實現せられつゝあるは爭ふべからざる事實なり。

是に由て見れば單獨及共同企業は各長短を有するが故に、事業の性質に由て其適否を異にするは明かなりと雖も、概して云へば事業の規模遠大となるに從ひて共同企業を必要とする場合多きに至るものとす。是れ大企業の經營には多數者の資力と能力とを結合するを必要とし、特に特定の個人を離れて之を永續せしむることを必要とするが爲めなり。而して共同企業の發達するには一面大企業の發達することを要するは勿論、之と同時に實業界に於て共同自治の能力の進歩することを要す。是れ尙ほ代議政體又は自治制度の發達するが爲めに國民一般の共同自治の能力を必要とすると異ならず。

第二節　共同企業の種類

企業組織を形式の上より分つときは先づ之を組合及法人の二種とすることを得べし。

第一款　組合企業

組合企業とは多數の企業者が單に資本又は勞働を集めて共同の事業を行ひ、別に各組合員を離れて企業の主體を認めざる場合を云ふ。故に組合の所有物と稱するものは各組合員の共有物となり、又外部に對しても各組合員は共同の債權者、債務者となるものなり、從つて企業を各組合員より離して之を獨立なる安全の地位に立たしむること難く、又經營の事務を統一して簡易自由ならしむること難し。是を以て組合制度は極めて簡易なる事業又は一時的の事業、例へば特定の商取引を行ふには適當なれども、到底之を一般の工業經營に適用するを得ざるなり。

組合の名稱を有して嚴格に云へば組合と稱するを得ざるものは商法の規定する匿名組合なり。此組合企業に於ては組合員の一部分が企業主として內外に對し企業經營の全權を有し、組合員の他の部分卽ち匿名者は此企業者に一定の資本を貸附くるものにして、其貸附方法は普通

の貸附と異なり一定の利息を約せず、其企業にして利益あるときは一定の割合にて分配を受くるも、損失あるときは獨り利息を受けざるのみならず、一定の割合を以て其貸附金の範圍内に損失をも分擔することを約する場合を云ふ。故に其企業は企業主の純然たる私有に屬して匿名者は只だ收支損益の計算報告を受け、且つ業務を檢査して企業主の不正の計算を監督するの權利あるに過ぎず。此組合制度たる資本の缺乏を感ずる企業者が之を借入るゝに方り、資本家に危險を分擔せしめ得る點に於て大なる利益ありと雖も、一方には事業の利益大なる場合には資本家に對して普通の利息以上の大なる分配を爲さゞるを得ず。又例令へ事業の經營に付ては資本家の指揮を受くることなしと雖も、尙ほ其監視を忍ばざるべからざる不便あり。更に匿名者となる所の資本家の側より此組合制度を見るに、企業者が大なる手腕を有し又は事業が好運に會して大なる收利を得るときは、普通貸金の利息以上の分配を受くることを得て、而も其危險の負擔は貸金額に限らるゝの利益ありと雖も、一方に於ては固より貸金の如く安全なるを得ず、又企業者を監督して其不正の計算を防がざるべからざるの煩累あり。故に此種の組合は事業の性質危險にして、企業者は普通の融通方法に由れば相當の條件を以て資本を借入るゝこと能はざると同時に、資本家にして特に此企業者の手腕と品性とを信用する者ある場合に成立するを常とし、普通の資本貸借の如く汎く行はるゝものにあらず。舊時歐洲にては外國貿易及航海等の危險なる事業に付て此種の組合方法汎く行はれたるが、今日の如く事業の規模一般に大となり又更に簡易安全なる資本融通の方法發達したる時代に在ては、工業に付ては勿論商業に付ても多く行はるゝことを得ずと雖も、後に論ずるが如く時勢に伴ふて其形式を變じ、合資會社の組織として行はるゝに至れり。

第二款　法人企業

法人企業とは多數の共同企業者が別に企業の主體を構成し、以て其基礎を安固にし、其行動を自在ならしむるものなり。故に永續的事業にして其事務の複雜なるものは之を法人組織とするを利益とす。而して法人組織には二種あり、一は會社にして他は產業組合なり。此二者は之を組織する者同じからず。會社は概して富裕者の組織する所にして、組合は中產以下の者の參加する所なり、從つて一は概ね事業の規模大なるに反し、他は概ね小なりとす。又此二者の目的とする所は共に共同者に對して經濟上の利益を得しむるにありと雖も、會社は人々任意の共同者を撰んで組織し、以て其事業より生ずる利益を獨占することを得るに反し、組合は同階級者全體の利益の爲めに存在するものにして、法律は組合を組織するに方り組合員の數を限定す

るを許さゞるなり。故に組合が普通の生産業を營むことは極めて稀なる例外に屬し、通例は多數共同者の生活又は營業上に或る特種の便益を與ふる所の事業を行ふものとす。

第一項　會社

會社の種類は各國商法の規定する所必しも同一ならずと雖も、其最も主なるものにして又我商法の認むる所のものは左の四種類なり。

第一　合名會社

合名會社とは二人以上の者が資本勞働を出資して共同に事業を行ひ、會社の債務に付ては各社員連帶無限の責任を負ふものとす。故に會社の信用は會社自身の有する資本高よりも各社員の爲人如何に由り定まるものとす。又各社員は互に連帶責任を有するが故に、親族、朋友、主從等相互に深く信任する少數者の間にあらざれば成立することを得ず、從つて此種の會社は汎く世間の資本家を糾合して大規模の事業を營むことを得ず。又各社員一樣に世間に對して無限の責任を負ふ以上は、各社員平等に企業の經營に參與せざるを得ず、固より或社員は富裕なるより多くの資本を呈出し他の社員は資本乏しきも事務的又は技術的の能力大なるより其勤勞を以て出資と爲すが如き場合は少なからずと雖も、匿名組合の場合に於けるが如く一部の社員は資本を呈出するに止まり、企業の經營は全く之を他の社員に一任するが如き方法を取るを得ず、何となれば匿名員と異なり世間に對して無限責任を負ふ所の合名會社員たる資本家は、此の如き共同法を採るときは甚だ不利の地位に立たざるを得ざればなり。是を以て合名會社に於ては企業經營を社員の一部に行はしむる場合と雖も、此種の社員は匿名組合の企業主と異なりて共同資本家の爲めに大に制肘せられ、且つ之に對して一層大なる利益の分配を爲さゞるべからざるの不利あり。此等の原因により合名會社に於ては事實上も各社員は資本を呈出すると同時に勤勞を呈出して相共に業を執るを常とす。此組合は各社員が其特有の能力に應じて種々の技術及經營の方面を分擔し、或は雇人を使用しては監督の行屆き難き支店の經營を擔任するが如き場合には大なる利益あり。則ち此共同企業は獨り資本缺乏の爲めに起るにあらずして、共同の勤勞を有利又は必要とする場合にも起るものとす。而して此の如き場合は單獨企業が其規模を膨脹したるが爲め、其經營を一人にて爲すこと困難となれるに際し、其雇主が多年信任使用したる有爲の雇人を引揚げて共同企業者の地位に置き、之に重大の責任を負はしめんとするが如き場合に於て見ること少なからずと雖も、其最も主なる場合は分割相續制度の行はるゝ國に於て共同相續者たる兄弟が父祖の事業を繼續せんとする場合なり。故に合名會社は或は之を

家族的會社とも稱することあり。此會社は株式會社と異なりて比較的小規模の企業に適當するが故に、泰西諸國に於ては凡ての會社の中最も多く存在するものなるが、我國に於ては長子相續行はるゝが故に其數は比較的に少なし。而して此會社は工業よりも商業に適用せらるゝこと多し。是れ商業は概して工場工業の如く大資本を必要とせざるも、手工業よりは遙かに大なる資本を要し、且つ商業の經營は頗る自由の活動を必要とするが爲め、雇人の如く事業に利害關係を有すること小なる者をして之が執行に參與せしむるよりも、責任ある共同企業者をして之を分擔せしむるを有利とすればなり。

第二　株式會社

株式會社に在ては會社の事務は獨り會社の財産を以て辨濟し、社員たる株主は自己の引受けたる出資高卽ち株金を會社に拂込むの義務あるのみにして、會社の債權者に對しては何等直接の責任を有せず。又一の株主は其共同者たる他の株主とも何等直接の關係なし。故に會社を相手として取引する者は專ら會社財産に信用を置くものにして、其株主の何人たるやに注意する事なし。又會社の業務は別に吏員を選んで執行せしめ、株主は只だ稀れに株主總會を開きて主要なる吏員の任免、定款の變更、利益の配當、其他業務の大綱を決するに正まる。斯の如く株主の責任は株金高に止まり、又事業の經營は吏員をして執行せしむるが故に、各株主は何人が相共に株主となるかに付き更に注意するの必要を感せず、從つて株主は會社の承諾を要せずして自由に其株式卽ち株主たるの地位を賣渡し、他人をして代はつて株主たらしむることを得るものとす。而して會社の信用は主として其所有財産の上に存するが故に、各株主は退社に由りて株金の拂込を請求するを得ずと雖も、株式は凡ての商品中最も流通度の大なるものに屬するが故に、退社を欲する者は何時にても其株式を賣却して目的を達するを得べきなり。要するに株式會社は個人企業の性質を最も多く離れたるものにして、會社と社員と不可分の關係を有する合資會社と正反對に立つものなり。故に學者は往々合資會社を人的團體と稱し、株式會社を資本的團體と稱す。

株式會社に在ては株主は何等の業務管理の勞を執るを要せず、又其責任は有限なるに反して其利益配當には限度なし、從つて有望の事業に付ては人々爭ふて其株式の募集に應ずべし、特に一株の金高は通例大ならざるが故に資産の大ならざる者も汎く之を取得するを得べく、又一旦資本を株式に投ずるも他日資本の必要起れば何時にても會社の承諾を要せずして容易に之を賣却し、若くは之を擔保として容易に資本を借入るゝことを得べく、若し其事業にして成功す

るときは株式の價格大に騰貴するが故に、之を賣却して特別の利益を得べく、假令へ其事業が豫期の如く成功せずして株式價格下落するも、元來株式は公債の類と異なりて價格に屢々高低を生ずるものなるが故に、機を見て巧みに之を賣却すれば必しも甚だしき損失を被らざるの望あり、且つ一株の金額は大ならざるが故に、相當の資本を有する者は種々の會社の株式を取得し、其中一二の株式の配當又は價格が減少するも、同時に他の株式に於ける配當又は價格の增加に由りて損益相補ふの機會を大ならしめ、以て其資本の利用を安全ならしむるを得べきなり。株式は此の如く投資の目的物として適當なるのみならず、其價格公債と異なりて屢々動搖することは、之をして投機取引の目的物として最も適當ならしむるものとす。更に會社と取引する債權者の側より見るに、個人企業又は合名合資企業は無限責任なるより世人は安心して之と取引することを得るも、有限責任の株式會社に對しては不安を感じ、從つて株式事業の經營は困難なるべきが如しと雖も、株式會社は通例其資本巨大なるが上に、今日各國の法律は其資本減少を防ぐの制度を立て、加ふるに其事務を行ふや公開的にして財產狀態の良否を外間より窺ふこと難からず。是れを以て所有者が其資本を隨意に處分することを得、且つ一切の業務を秘密に行ひて外部より財產狀態を窮知するに由なき無限責任の個人的又は合名會社的事業よりも却つて株式會社の信用强く、又實際支拂不能となりし場合に付て見るも、合名又は合資會社の債權者は通例株式會社の債權者の如く多くの辨濟を受くる能はざるを常とす。此等の理由により今日株式は大企業に必要なる資本を集むるの方法として最も世の歡迎する所なるが、之と同時に株式會社は大事業經營の衝に當るの興味と巨大なる報酬とを以て、汎く世間より有爲の人物を誘致し來ることを得るの利益あり。

株式會社は此の如く資本を集合し、且つ有爲の人物を誘致するの力大なるより、大企業の有利となれる今日に在ては株式組織が各種の事業に應用せられて非常の發達を爲すに至れり。蓋し前に述べたる共同企業の長所と短所とは株式組織の場合に最も著しく顯はるゝものなるが、此外特に株式組織の弊害の大なるもを擧ぐれば第一は其設立に伴ふて起るものなり。抑も株式は投資及投機の目的物として盛に世人の需用する所なるより、經濟界の人氣好調に向ふときは忽ち會社事業の無謀なる新設擴張を生じて、其結果は生產過剩及恐慌を引起すに至るを常とす。

(甲)應募誘引策の一たる權利株の賣價引上策。——人氣を煽り以て平價引受の權ある應募を奬勵す。——權利株賣買の原因。‖(一)發起人。其目的(1)積極、之を釣り上げて人氣を煽る。(2)消極、自助、(A)投機者が disagris にて之を賣り出し企業の人氣を挫かんとする故發起人は已をを得ず之を買ひ煽る。投機人はゴロッキなり。(B)企業反對者が disagris にて賣出し聲價を下さんとする故之を買煽る。‖(二)單獨投機及投資家。(1)投機者、agio にて利せんとす。(2)投資家、應募するも分配額の小なるを恐れて、權利株賣買の契約を純無効とすれば此投資家を害し從つて企業を害す。事實禁止は行はれず、實行し得れば後日發行後人爲的騰貴策を施こすべし、只だ此時は實際資力を要する故大に此人工策は制限せらる。

‖(三)企業反對者。賣り煽るなり、人氣を挫かんとす、――(乙)發起人が引受株數を詐り公表せしよりも多大に保持し、公表せしよりも少なく市場に募集し、以て盛に買占を行ひて市場流通數以上に買占めて不法に暴騰せしむ。)今日開明國に於て頻繁に繰返さるゝ所の企業熱の流行なるものは主として株式會社の設立及擴張の方法に於て行はるゝものとす。又個人企業に在ては企業者が其企業に資本を投ずるは全く收益を得んとするにありと雖も、株式企業に在ては發起者たると應募者たるとを問はず、事業の成否如何よりも後日株式相場の騰貴に由て利せんとするの情強きを免れず。而して企業の收益歩合を大にせんとせば成るべく起業資本を小にするを要するに反し、株式相場に由りて利せんとすれば往々にして企業資本を大にするを利益とし、從つて株式企業は個人企業に比して過大の資本を投ずるの弊あり。例へば或種の企業に於て一割の配當を爲す會社の額面五拾圓の株式が百圓の市價を有する場合には、同種の會社にして五歩の配當を爲す所の株式の市價は五拾圓よりも幾分か高きを常とするが故に、資本增加の結果配當率下りて株式の價格下落するも、幾分か尙ほ株式賣買の目的より見れば或程度まで資本を大にすることを利益とするが如き是れなり。

(財産の割合に配當大なる時。――(1)解散失敗すれば株主は其財産相等に分配拂戻を得るのみ。――(2)高配當は常に永續せざること、從つて其配當の利廻を計算する時は低配當の證券よりも高歩率を以て計算換元す、但し永續的に配當高くして會社財産の實價も夫れ丈け高しと認めて然るべき場合には、――例へば安く買入れたる特許權、又は安く積りたる鑛區、――配當は永續すべく、又財産も大となりたる故配當を利廻り還元する時には低歩率を以てするを得べし。)

會社の設立に關しては上述の弊害の外、發起人が世人の無智無經驗なるに乘じて無謀の事業を有望なるが如く裝ひ、甘言を以て世人の投資を勸誘して多大の損失を被らしむるのみならず、發起人は自己の支出したる設立費を過大に計算して之を會社に負擔せしめ、自己の所有する土地、建物、特許權等を過大に評價して之を會社に賣り付け、若くは會社の經營に適當の技能を有せざるに係はらず高級役員の席を占めて利益せんとするが如き弊害甚だ多し。(發起人の利する諸方法。――(一)公然の金錢取得、(二)重役の椅子、(三)特別に配當を受くる權、普通株に先ち一定の率の配當を爲し殘餘の一部又は全部を發起人に配當す、〔英 Deferred share ――株式を要す、獨 Genussschein ――株式を要せず〕、發起人が將來も依然從事する工業家なるとき、(四)後發株平價引受權、(五)財産出資、(六)獨力全部引受〔同時設立〕其後高價賣出、發起人が財政家にして後日賣出して更に他に資本を運用するとき。)　此の如き發起人の奸計や寔に憎むべしと雖も、是れ畢竟世間一般の資本家が複雜なる經濟界の實情に通ぜずして妄りに危險なる株式投資を爲し、特に一般資本家は其事業に永久投資して有利の配當を受けんとするよりも、寧ろ後日株式の騰貴を待て之を賣放たんとする投機的動機に由て左右せられ、從つて事業の性質の如何を精査せず、主として世間の之に對する人氣如何を見て投資するが爲めなり。

以上の如く株式會社の設立には種々の弊害あり。然るに開明國に於ける國民貯蓄の一大部分は株式に投下せらるゝが故に、如何にして此弊害を防止すべきやは重大の問題なり。近世の初めに株式會社の勃興せし時代には、之が設立は國王の特許を要し、更に會社設立の增加するに

從ひて別に會社法を定めしも、尙ほ個々の會社を起すには政府の許可を要すとしたり。是れ當時自由營業を認めざりし一般政策に伴ふものにして、今日既に自由營業を原則とする以上は、到底此の如き制限策を一般に維持することを得ず。蓋し或事業が將來果して成功すべきや否やは何人も正確に之を豫言するを得ず、特に之れを豫言するには獨り事業自身の性質のみならず、其經營者の爲人如何をも考慮せざるべからず、然るに株式會社の重役は株主總會の選任する所にして時々變更せらるゝが故に、到底會社の前途を正確に推測することを得ざるなり。而して今日開明國に於ては日々幾多の株式會社設立せらるゝが故に、政府は到底其實質を精査して一々許否を決するの遑なく、從つて其許可は單に形式的とならざるを得ず。然るに許可制度存する以上は世人は之に信用を置きて自ら精査の勞を執らざるに至るが故に、此制度は獨り無益のものたるに止まらずして大に世人を誤り、却て投機者流の跋扈を來たすの結果を免れず。且つ會社の設立は一々政府の許可を要すとするときは設立費用の增加するは勿論、之が爲め往々時機を失するの弊なきを得ず、特に政府が形式的の檢査を爲すに止まらず、誠實に實質的の精査を爲して許否を決する場合に於て此弊大なりとす。此等の理由により今日多數の文明國に於ては多少の異同はありと雖も、大體は株式會社に關して細密なる準則を設け、特に發起人をして會社に關する重要事項を公衆に詳知せしむるの責任を負はしめ、事業の當否に付ては公衆の批評判斷に一任するの方針を取るに至れり。

會社設立に關して起る弊害の多くは株式取得者就中株式の大部分を引受くる發起人が、株式相場の騰貴を待て之を賣放たんとする投機的利益を目的とするより起るものにして、若し發企人が將來會社事業の經營に全身を托し、之と共に浮沈するの覺悟を有するときは、設立の際に資本を過大にし又は設立費用若くは出資財產を不當に高く見積りて會社に損失を及ぼすが如き擧に出づることを得ざるなり。而して工業會社の發起人が將來會社の利益を以て自己の利益と爲し、之が繁榮を圖らんとするは如何なる場合に起るやと云ふに、通例個人工業者が其營業の規模を擴張し又は其財政を整理するの資金を要するとき、之を普通の貸金に仰ぐ代りに株式會社として世間より資本を吸收せんとする場合にあり。工業の夙に發達したる英國に於ては工業會社の發起は個人工業者自身なる場合多く、從つて其設立に付て弊害の起ること割合に少なく、特に同國に於ては資本甚だ豐富なるより自己の企業を會社組織に變更せんとする工業者は容易に其知人の間より株主を募り得べく、從つて同國に於ては內國工業會社の株式の投機取引は比較的に少なく、其主なる投機株は外國企業の株式にして、此外國企業に付ては投機的の發

起人の跋扈すること多し。然るに工業の新たに勃興し且つ資本の比較的豐富ならざる米獨の兩國に於ては、英國と異なり內國工業會社の發起に付ても營利的發起人、換言すれば株式を製造して高價に之を販賣せんとする發起人頗る多く、特に此兩國に於ては工業の發達急激に行はれ、從つて其規模の擴張も急激に行はれて大資本の吸收を必要とするが爲め、會社の設立擴張は工業者自身よりも金融界に關係を有し又は自から金融業を營める發起人に由て行はるゝこと多し。我國の工業も英國と異なりて新興のものなるが故に、其發起人は純然たる工業家なる場合甚だ少なきは怪むに足らず。而して會社の設立擴張卽ち株式の發行に付き工業者以外の金融業者が其衝に當る場合に關しては後に工業資本の融通を研究するに方りて之を詳說すべし。

次に事業の經營に關し株式會社に於て特に著しき缺點を擧ぐれば、第一に一般株主は事業の所有者として株主總會を組織し、其經營の大綱を定め、重役を任免し、配當を決定するが如き權限を行ふものなるが、個々の株主は通例其財產の一小部分を株式に投下するに過ぎず。又假令へ其財產の大なる部分を株式に投ずる者と雖も、投下資本の危險の度を減少するが爲めに通例種々の株式に對して其資本を分割投下し、爲めに特種の株式會社に對する投資額は其財產の小部分を爲すに過ぎざるを常とするが故に、到底個人企業主の如く其事業に熱心ならざるは已むを得ざる所なり。又株主の多數は複雜なる會社事業に關する智識經驗を有せざるが故に、株主總會の處置は屢々過誤を生ずるを免れず。加之株主の多くは株式價格の騰貴に由て利せんとする者なるが故に、事業の眞正の發達よりも目前株式價格の騰貴に腐心するの弊あり。固より世人一般特に株式取引に最も重大の關係を有する取引所が進步して、一時の配當の多少よりも事業の基礎の如何を精査して株式價格を決定するに至るときは此弊害減少すべしと雖も、我國の如く投機取引幼稚にして主に目前の配當の多少に由り株式の相場を高低するときは、株式の相場に腐心する所の株主は會社事業の健實なる發達に反對して妄りに配當の增加を要求し、之が爲め本來自然人と異なりて永久の存立を有し、又巨大の資本を固定せるより常に百年の計を立てざるべからざる會社事業は其實目前の利益に左右せられ、却つて巨大なる個人企業が一層着實遠大の方針を取るに至るの奇觀を呈すること多し。（我國の普通會社と家族會社との優劣。——家族會社の起源、之を個人事業とせざる理由は主に納稅。——其長所、方針一定、配當を重んぜず。——其短所、世間より資本を吸收すること困難。）今日會社法に於て會社の配當を制限し、又準備金の積立を强制するが如きは幾分か此弊を防ぐの力ありと雖も、一般株主卽ち世間の資本家と取引所との進步に由るにあらざれば此種の弊害を根治すること難し。

株式會社の事業經營に付て起る弊害の第二の根本的原因は、其經營の實權を有する重役が會

社事業に誠實ならざるに在り。個人企業者が其企業を擴張するが爲め組織を變更して株式會社と爲す場合には、通例重役一身の利害と會社の利害とは相一致すと雖も、重役にして其財産の一部分を會社の株式に投下するに過ぎざるか、又は其會社以外に大なる收入の途を有する場合には、獨り會社事業に熱心誠實ならざるのみならず、往々にして會社を利用して私を營むの弊を生ずるものとす。今其弊害の主なるものを擧ぐれば第一は重役が會社と取引して之に損害を與ふる事にして、會社設立の際に設立費又は出資財産を不當に高く計算して之を會社に負擔せしめ、又は資本額を過大にして自己の引受けたる株式を高價に賣却せんとするが如き手段の行はるゝ事少なからざるは既に説明したり。（不引合電鐵の設立理由。――豫め沿道の地所を買占めおき後これを高價に賣却。）又會社設立後其業務を行ふに際し、或は不當の高價を以て自己又は自己に關係ある者の財産を會社に賣り付け、若くは自己の關係せる銀行より不當の高利を以て會社に貸付を爲し、或は反對に會社財産を不當の廉價を以て賣却し、甚だしきは會社に全く關係なき自己の事業の爲めに會社資本を費消するが如き事少なからず。第二には重役が會社の株式に付て投機取引を行ふことなり。蓋し重役は何人よりも早く會社の收益の增減從つて其株式相場の將來の高低を知る者なるが故に、之が投機取引を行ふには最も便利の地位に立つものなり。重役が此地位を利用して私を營むことは、假令へ其行爲が會社に何等の損害を與へざる場合と雖も德義上批難せざるべからず。然れども更に批難すべきは重役が其地位を濫用して株式相場を人爲的に高下せしめ、其間に投機的利益を占むるにあり、例へば重役が先づ私かに賣方に立ちて會社の財産狀態の不利なることを世間に示し、特に其配當を故らに低くして株式相場を暴落せしめ、其暴落の極に達したるときは私かに買方に立ち、小額の資本を以て多大の株式を買收し、而後會社の財政を整理したりとて其基礎の鞏固收益の多大なることを示し、以て其所有株を更に高價に賣放ちて暴利を占むるが如き是れなり。米國の如く企業界の不規律なる國に於ては重役が此種の手段を弄して短日月の間に數億の資産を作り、又小額の資本を以て之に數十倍の企業の實權を其手に收めたるの例少なからず。

此の如く株式會社の事業經營に付ては重大の缺點ありて之を矯正するは頗る難事なり。元來此弊害たるや上に述べしが如く株主及重役の双方の缺點に基くものなり。故に一面重役をして株式の大部分を所有せしめ、從つて其一身上の利害を會社の利害と一致せしむるときは大に弊害を減少し得べしと雖も、此策は到底汎く之を實行することを得ず。今日の如く經濟進歩して競爭激烈となれる時代に在ては企業の經營は非常に困難の業となり、單に大資本を有するのみ

にては其經營の局に當るを得ず、從つて重役たる者は常に株式の大部分を所有せざるべからずとせば適任の重役を得る能はざる場合を生ずること多かるべし。又今日の如く企業の規模甚だ大となれる時代に在ては、少數者にて一會社の株式の大部分を所有することも容易にあらず、且つ重役にして大株主なる時は一面其勢力を利用して小株主の利益を犧牲に供する場合なきにあらず。故に重役をして株主の大部分を所有せしむることは、假令へ多くの場合に於て有利なりとするも法律を以て之を强行することを得ず。又他の一面には株式を取得する者をして常に實際に關する智識經驗を有し、從つて能く重役の不正行爲を抑制し得る者に限らしむることも容易に實行するを得ず。是れ今日の企業は一般に大規模となれるが故に汎く世間より資本を集合せざれば成立すること難く、又今日の經濟界は非常に複雜となれるが故に、專門家にあらざれば容易に各會社の業務の實況を透察することを得ざればなり。

一般株主は前述の如く無智無經驗なるのみならず、會社の盛衰に付て熱心ならざるが故に、株主の利益を代表して業務執行者たる取締役を監督する所の監査役を株主中より選任するの制度は、我國の歐洲大陸諸國と共に採用する所なるが、取締役に由て左右せらるゝ株主總會の選出に係はる監査役は、畢竟取締役と一身同體にして眞に監督の責を盡すを得ざるは、尙ほ政黨內閣制度に於て議會が常に內閣と一身同體を爲すに異ならず。（獨逸は商法規定以前に Verwaltungsrat ありて取締役を指揮したり、故に商法制定後も定款に由り監査役は依然指揮者たり。指揮者が同時に監督と云ふは自己監督にして無意義なり。）蓋し會社の業務及び財產の眞相を一般株主に詳知せしむるの手段あるときは、多數を制する重役も容易に不當の處置を爲すことを得ず、特に此場合には法律の保護する少數株主權も有効に行使せらるゝを得べし。（小數株主權。——商法、一六〇條、一七五條、一八七條、一九八條。）是れ局外に立つ所の專門家をして會社の實況を調査せしめ、之を一般株主に知らしむるの制度を主張する者ある所以なり。英國の會社法は此主義を取りて各會社に命ずるに公許監査人 Auditor をして會計を檢査せしめ、其報知を株主總會に提出すべきことを以てせり。然れども此制度に由れば多數の公許監査人の中何人を選んで檢査を委托すべきやは一に會社の自由に存するが故に、之に由て重役の不正行爲の暴露せらるゝことは望み難し。惟ふに將來各會社の規模益々大となりて公益に重大の關係を有し、特に大會社にして合同の性質を帶ぶる者增加するに從ひて、國家の會社に對する監督は强大となるべく、特に監査人を政府より任命するが如き方法に由り、會社の實況を株主及世人一般に知らしむるの制度行はるゝに至るべし。

最後に世人が株式會社を信用して之と取引するは主として其財產に信用を置くが爲めなり。故に債權者保護の爲めには株式會社をして第一其財產狀態を精査し、年々之を世間に公示せし

めざるべからず。第二に其實際資本額を公稱資本よりも小ならしむることを防ぎ、以て會社の公稱資本額に信用を置て之と取引する者を保護せざるべからず、是れ勿論一面に於て株主を保護するが爲めにも必要のことたり。而して會社資本の實額が公稱資本よりも小となることは業務上の失敗に基く場合ありて、此種の減少は法律を以て之を防ぐことは不能なりと雖も、此外か會社の不當なる處置に由りて資本の減少を來たすことあるが故に法律は之を取締らざるべからず。其手段の主なるものは第一會社の設立の際に出資財産を過大に評價し、又は引受株式の拂込を怠り、特に額面以下の價格を以て株式を發行するに在りて、此等は共に嚴禁せざるべからず。第二は株式拂込を了りたる後公然又は秘密に之が減少を行ふことなり。蓋し會社が資本の過大に苦しむ場合、特に其收益小にして相當の配當率を維持するを得ざる場合には、適度に減資を爲すことは會社經營上必要なりと雖も、之が爲め會社財産に信用を置て取引したる債權者に損害危險を與ふることを許さず。故に會社にして減資を爲さんとするときは必らず債權者の承諾を受け、又は之に辨濟を爲し、若くは之に支拂擔保を提供せしむることゝせざるべからず。會社が自己の株式を買入るゝことも亦減資の一方法となるものにして、此方法たる資本の拂戻に由る減資よりも一層有利なること少なからずと雖も、會社が初めより此種の減資方法を行ふことを定め、且つ株主に配當すべき利益金を以て買入を爲す場合の外妄りに之を行ふことを許すべからず。本來會社の財産を以て自己の株式を取引することを許すときは、前に述べたるが如く重役が株式投機を行ふの弊を生じ、特に業務の失態を隱蔽するが爲めに株式相場を釣り上げて世間の耳目を暗ますが如き弊を生ずるを免れず。終りに利益配當を爲すに方りても資本の減少を生ずること少なからず。勿論利益配當なるものは會社總收入の中より一切の費用損失を差引き、特に固定資本の消耗に對する減價償却を行ひたる殘額の中より爲すべきものなり。然るに其收入を計算するに方り、各種の會社財産の時價が之を取得し又は生産する爲めに費せし所よりも騰貴したるときは、其差增を收入に加へ、又會社の損失を見積るに方りて建物、器械、其他の財産の消耗減價を不當に低く計算し、以て配當し得べき純收入を人工的に增加して所謂章魚配當を爲すが如きは屢々行はるゝ弊なり。故に法律は收支の計算に付て嚴重なる規則を設くるを要するのみならず、更に純收入の中より積立つべき準備金の最低限を定めざるべからず。（評價。――改正案二大反對ノ一。）會社と個人とを問はず凡て企業は其純益中より積立を爲し、以て他日損失の起れる場合に之を塡補するの計を爲し、換言すれば企業に伴ふ所の危險に對して保險を爲さゞるべからざるは勿論、此外か謹愼なる企業家は常に時勢の進歩に伴ふて事業を改良す

るの餘力を貯ふることを努むるものとす。改良發明の頻繁に行はるゝ今日に在ては、最新の機械其他の生産的設備も一朝にして時勢に適せざる舊式のものとなること多きが故に、事業改良の餘力を貯ふることは保險的の積立を爲すと殆んど同樣の必要を見るものとす。尙ほ會社企業にして充分の積立を爲さず、年々の收益の增減に伴ふて其配當率を高下するときは、其株式は常に相場の動搖を生じて會社の信用を薄弱ならしむると同時に、其株式は投機取引の好目的となり、從つて株式の多數は會社事業の健全なる發達を圖るよりも其株式相場の高低に由て利せんとする投機者流の手に陷りて、會社の經營上多大の困難を生ずるを免れず。

株式組織は容易に巨額の資本を集合し得ること、に由り、大企業の有利となれる今日盛に行はるゝに至りしは自然の勢なり。然れども株式組織には前述の如く種々の大弊害あるが故に、之を採用するには一般的條件として世間の資本家が株主たる任務を盡し得る能力の發達せることを要し、然らざる場合には成るべく單獨企業若くは合名合資等の人的共同企業を取ることを利益とす。只後に論ずるが如き特別の理由により、事實は合名組織的なる少數者の共同企業を形式上株式組織として保有するの方法は弊害少なし。次に各種の企業に對して株式組織を採用する特別條件としては、勿論事業の性質が特に株式組織を有利とする場合に限られざるべからず。此點は共同企業の長所として述べし所に由て明かなるが如く、個人又は小數者の資力の及ばざる大資本を要する事業、世間の信用を高むる爲めに事業の財政狀態を成るべく公開的と爲すを要する事業、業務の執行に臨機應變の處斷を要することの少なくして規則的に之を行ひ易く、從つて之が主宰者は常に損益を賭して機敏の處斷を爲すよりも、圓滿なる組織的能力を有することを必要とする事業、近き將來に於て若くは永遠に充分の收利の目的なき公益事業又は成功と否との不確實なる新事業は概ね株式組織に由るを適當とす。（機敏應變と重役不正。）之を歷史に徵するに株式組織の初めて盛となりしは和蘭の東印度會社を初め各國の貿易殖民的大企業にして、之に次ぎ鐵道、銀行、保險及鑛業亦此組織を採用するもの多く、輓近工場工業の勃興に由りて工業界にも株式組織普及するに至りしのみならず、百貨商店の如き大規模の商品商業及旅館、飲食店等の大規模のものにも株式組織は採用せられ、一面には博物館、動植物園、劇場、學校、病院、合宿所等の公益事業にも多數の株式組織を見るに至れり。

株式會社組織は現今共同企業の組織方法として最も多く各國に行はるゝ所にして、前に述べたる一般及特別條件の備はらざる場合にも盛に採用せられ、之が爲め往々にして經濟上、社會

上不良の結果を生ずること少なからず。元來株式組織は多くの經營費を要して其行動簡易自由ならざるが故に、相當の大企業にあらざれば之を採用するの不利なること明かなり。然るに我國に於ては企業の組織尙ほ一般に小なるに係はらず、歐米に倣ふて設立せらるゝ新しき企業は主として此組織を採用し、甚だしきに至りては壹貳萬圓と云ふが如き細小の企業にも之を採る場合少なからず。是れ我國に於ては從來新敎育を受けたる者は主として資產者階級ならざる士族にして、舊來の商工業者階級の間には新智識を缺きしが爲めに、新しき事業に付ては資本と企業能力との隔離を見ること多く、從つて兩者を結合する便法として株式組織の多く採用せられたるが爲めなり。然れども株式組織が比較的小企業にも採用せらるゝの傾向は、一般企業の規模の日々膨脹しつゝある歐米諸國に於ても近時著しく現はるゝに至れり。是れ單に此組織が事業經營上利益あるが爲めにあらず、企業者自身に取ても此組織が特に有利なるより、從來の單獨企業又は合名合資等の人的共同企業が益々多く株式組織に轉換せらるゝが爲めなり。然らば「何故に此組織が企業者に便利なるやと云ふに、主なる原因は第一に其の有限責任なることなり。利益には限度なくして責任に限度あることの企業者に取りて便なるは勿論なり。只吾人は之に由て必しも今日の企業者は舊時よりも責任を避けんとするの情盛となれりとは斷言すべからず。企業者にして無限責任を負ふには必ずや自から業務經營の衝に當らざるを得ずと雖も、競爭の激烈となれる今日に在ては舊時の如く單に資本を有し、又は技術上の智識經驗を有するのみに由て企業者たるを得ず、必ずや別に大なる經營的能力を有せざるべからず。故に父祖の事業を相續して企業者となりしも之が經營に適當する能力を有せざる者の如きは勿論、技術上の智識經驗を有するが爲め以前は有爲の工業家たるを得しも、經濟界の變遷の結果企業經營的能力の不充分を感ずるに至りし者の如きは、其企業を株式組織として之が經營を手腕家に一任し、自己は有限責任の地位に立ちて之を監督し、若くは專心技術の方面に力を盡すことを適當とする場合甚だ多きに至りしが爲めなり。第二には共同企業の經營方法として合名會社の如き人的組織は、往々にして各共同者の權利義務の關係を不明ならしめて紛議を生ずることあるのみならず、共同者の一人にして死亡、轉居、退隱等の事情に由り退社を爲すときは、忽ちに事業の上に大變更を生じて其安全永續を害せらるゝを免れず、然るに人事の複雜となり、特に家族的思想の次第に薄弱となれる今日に在ては、共同者の退社を必要とする事情は頻々として起らざるを得ず、此の如き退社員に對して其持分の價格を殘餘の共同者より支拂ふときは必しも事業の上に變更を來たさゞるべしと雖も、之を支拂ふことは通例困難なり、然るに其事業を株

式組織として退社員には其持分に相當する株式を交附するときは、共同企業者は何等の負債を起さずして其企業を繼續することを得るの利あり、卽ち株式組織は企業分割の方法として最も適當のものなりとす。是れ小數者の共同經營方法としても株式の採用せらるゝこと多きに至りし一原因なり。第三に株式組織は個人企業を動產化して之を容易に賣買し得べき目的物と爲すに最も適當の方法なり。今日個人的企業の株式組織に轉換せらるゝ最大原因は卽ち是れなり。蓋し企業界より退隱する場合、又は企業を相續したる者にして自から之が經營を爲すを欲せざるが爲め其企業を賣却せんとする場合に於て、若し之を其儘に賣却せんとせば容易に有利の條件を以て之を買受くる者を見出すを得ず、然るに投資及投機の目的物として株式の需用大なる今日に在ては、其事業を株式として廣く世間に賣出す時は之を高價に賣却すること容易なり。又之を株式組織として其株式の一部分を賣渡し、殘餘を保持する時は、從來の所有者は自から新會社の大株主として會社の重役の地位を占め、依然企業の實權を其手に收むることを得べく、或は個人企業を株式組織とすれば其株式を擔保として容易に資本の融通を得るの便あり。要するに企業を一種の動產として其處分を自由ならしむることは株式組織流行の一大原因なり。而して株式組織の設立が此等種々の原因に由り盛に行はるゝに至る時は、後章に論ずるが如く自から其發起人となり又は企業者と世間資本家との間の媒介者となりて株式會社の設立を業とする者を生ずるに至る。

第三　合資會社

會社の中、合名は純然たる人的團體にして、株式は純然たる財產團體なるが、此兩者の中間に位するものを合資會社とす。此會社に於ては社員の一部は合名會社々員と齊しく業務執行の全權を有すると同時に、會社の債務に付ては連帶無限の責任を有し、社員の他の部分は單に一定の資本を呈出して配當を受くるに止まると同時に、其出資以外に何等の責任を有せざるなり。故に此兩種社員の關係は恰も匿名組合に於ける企業者と資本家との關係の如し。只匿名組合に於ては資本家の出資は一個人たる企業主の財產となるより、組合事業に關係なくして起りたる企業主の個人的負債の爲めに、其債權者より組合財產を差押へらるゝを免れずと雖も、合資會社の場合には有限責任社員の出資は獨立なる會社の財產となるより一層安全なり。而して此會社を合名會社に比するに有限責任社員を募りて資本を集むるの便ありと雖も、世の資本家にして深く無限責任社員に信用を置く者にあらざれば其有限責任社員とならざるが故に、株式會社の如く容易に大資本を集合するを得ず、特に此有限責任社員は株主の如く隨意に其地位を

他人に讓渡して投下資本を回收するの便宜を有せざるが故に、一般資本家は株式會社に對するが如く之に出資することを躊躇せざるを得ざるなり。

第四　株式合資會社

合資會社の中、有限責任社員の出資を株主に分ちたるものを株式合資會社と云ふ。合資會社の有限責任社員は無限責任社員の承諾を得て初めて退社し又は持分を他人に讓渡し得るに反し、此會社の株主は株式會社の株主の如く何時にても自由に其株式を讓渡すことを得べく、從つて合資會社の場合よりも容易に世間より資本を集むるを得べし。只無限責任社員が業務執行の全權を有するが故に、其爲人を信用する者の外は株主とならざるべく、從つて株式會社の如く大資本を集めて事業を經營するを得ず。尙ほ合資會社に在ては有限責任社員は已むを得ざる事由あるときは、退社して其持分の拂戻を請求し得るが故に事業の基礎安固ならざるに反し、株式合資の場合には株主は株式の自由賣買を爲すことを得ると同時に、株金の拂戻を請求することを得ざるが故に事業の基礎安全なり、而して此株主は株主總會を開きて合資會社の有限責任社員と略同樣の監督權を行ひ其利益を保護することを得るものとす。

第五　其他の會社

上に述べたる四種の會社は我商法の認むる所なるが、歐米に於ては此外尙ほ組織の異なるものあり。其最も著しきものは獨逸の有限責任會社 Gesellschaft mit beschränkter Haftung 及之に類する英國の私會社 Private company なり。元來少數者の共同經營に係はる比較的小規模の企業は合名會社の組織を適當とすと雖も、其の無限責任なることは資本家の加入を厭はしむるものあり。又株式會社は有限責任なれども設立の手續煩雜にして業務執行にも種々の機關を要するの不便あり。加ふるに株式の世間に流通し、特に投機取引の目的物とせらるゝことは事業經營上種々の弊なきにあらず。獨逸の有限責任會社は合名及株式に件ふ如上の不便を除かんが爲めに設けられたるものにして、社員の責任を有限とすると同時に、其設立にも煩雜なる手續を設けず、業務の執行にも總會及監査役を設置すると否とは自由とし、又會社の營業成績及財產狀態は株式會社の如く之を公告して營業の秘密を暴露するが如き不利を免れしめたり。株式會社の如く其株式が世間に汎く轉々流通するときは、株主保護の爲め總會及監査役を設け、若くは財產狀態を公告せしむるの要ありと雖も、有限責任會社は其實共同相續人又は親族朋友等の小數者の團體なるが上に、法律は其持分の讓渡に付ては之を公簿に登錄し又は公正證書を作ることを要すとして其讓渡を制限したるが故に、株式の如く其持分が廣く世間に流通するこ

となく、從つて社員を保護するが爲め特に株式會社の如き規定を必要とせず。只だ其有限責任なるが爲め會社の債權者を保護する必要あり。此點は無限責任の合名會社と異なりて特別の規定を必要とする所なり。今其規定の主なるものを擧ぐれば、先づ會社資本を二萬馬克以上に制限して不確實なる小會社の發生を防ぎ、且つ會社財産の安全を保護するが爲めには、社員中其引受けたる持分を拂込むを得ざる者あるときは之を公賣に付し、其代金が額面に達せざるときは殘餘の社員に於て各其持分額に應じ不足額を拂込むの義務ありとし、又社員が配當其他の關係上會社より支拂を受けしが爲め會社財産額減少して會社債權者に對する辨濟不能となりしときは、支拂を受けたる社員は善惡意を問はず之を會社に返還するの義務ありとし、且つ會社は必らず有限責任なる文字を社名に附して之れと取引せんとする世人を警戒せしむることゝせり。此の如き資本額維持の方法あるも其業務執行の公開的ならざることは、之をして株式會社の如く世間の信用を得せしむること難く、從つて事業の輕營上資本缺乏を感ずる場合少なからざるべきを以て、公稱資本金の外尙ほ定欵の規定に由り營業資本に充つる爲め各社員に追拂を爲さしむることを得としたり。英國の Private Company も大體の主意は獨逸の有限責任會社と同じく、社員の數を五十名以内として其持分の自由の讓渡を禁じ、又持分及社債を公衆より募集せざるときは其會社を私會社と爲すことを得とし、此會社に對しては財産狀態を公告するの義務を免除したり。

有限責任會社は持分の移轉を制限して其事業を實際小數者の共同企業たらしむるが故に、其共同者を保護するが爲めに種々の制限を加ふるの必要なきは合名及合資會社の場合と多く異ならざるべし。只合名合資と異なりて其責任の有限なることは債權者の地位を不安ならしむるの缺點あり。此缺點を正だすが爲めには必しも前述の如き資本金維持の規定及有限責任なる文字を社名に附するの規定のみを以て足れりとせず。然し乍ら一方に於ては此會社をして株式會社の如く營業財産の狀態を公示せしむることゝするも、其公示する所が果して正確なるや否やを取締ること、株式會社の場合の如く容易ならざるが故に、其公示は實際に多くの價値を有せざるべし。獨逸に於ては此會社は近來多く設立せられて幸に未だ著しき弊害を生ぜざるが如しと雖も、將來果して常に然るを得るやは疑問なり。株式會社の設立に付き比較的寬大の制度を採る我國に於ては、少數者の共同事業の爲めに株式組織を取るも甚だしき不便なき故に、今日別に獨逸の如き有限責任會社の制度を必要とせざるべし。

第二項　産業組合

産業組合は前に述べしが如く比較的資産の豐かならざる者の生活又は生産上の利益を得せしむるが爲め、且つ汎く同階級者の利益の爲めに設けらるゝ團結にして、其實際の作用は各組合員が獨立に營む所の生活又は産業に對して種々の利益を與ふることを目的とし、組合自身が組合員の企業全部を引受けて自から其主體となることは稀有の例外に屬す。只此組合は工業政策上重要の意義を有するのみならず、一派の社會改良論者は組合員の企業全部を組合の企業とするの方法を主張するが故に茲に之を説明すべし。

産業組合は之を組合の債務に對する各組合員の責任の程度に由て分つときは三種あり、第一は有限責任、第二は連帶無限責任、第三は保證責任なり。保證責任とは各組合員が其引受けたる持分の拂込の外尚ほ其持分高の幾倍迄は組合の債務に付て責任を有すと云ふが如く、持分拂込以上に一定限度の責任を負擔する制度なり。而して何れの責任制度が組合に適するやは各組合の事業の性質に由て同じからず。本來産業組合は薄資者より成立するが故に各組合員の持分高は大なることを得ず。從つて會社と異なりて組合は其財産の信用に由て世間に活動することを得ず。是れ組合は概して無限責任に由るを適當とし、特に世間より多く信用を受くることを要する組合は無限責任にあらざれば其目的を達し難き所以なりと雖も、一方には共同一致の能力乏しき下級民の間には容易に無限責任は成立するを得ず。加ふるに産業組合には特志の富者が同情的に加入して組合の信用を高め、且つ共同一致の能力乏しき下級者を團結指導するを要すること多しと雖も、無限責任なるときは富者は之に加入することを躊躇せざるを得ず。此の如き場合には保證責任の制度は特に有利なり。何れの責任制度を採るも組合は會社の如く巨大の財産の團體にあらずして人の團體なり。其成立には組合員の團結一致の精神を缺くことを得ず。故に各組合員は持分高の多少に係はらず、業務執行上凡て同一の權利を有せざるべからず。又各組合員の持分を全然平等とするの必要なしと雖も、一人の有し得る持分高には制限を付して他の組合員との間に甚だしき差等を生ずるを防がざるべからず。然らざれば組合は汎く組合員の生活又は産業を利益する代りに組合自身の收益を增大し、以て組合員の持分に對する配當を大にせんとするの弊を生ずればなり。

産業組合は其目的とする事業の種類より分てば左の三種となる。

第一、組合員の生活上の利益則ち廉價消費の利益を得しむる爲めの組合。此種の組合には組合員の消費する日用品を廉價に取得せしめんとする消費組合、及組合員をして廉價に住家を得しめ、若くは其家賃を低廉ならしむる爲めに設くる建築組合の二種ありて、消費組合最も汎く

行はる。其理由は第一地位職業の如何を問はず人々汎く此組合に加入して利益を受くることを得べく、第二に此組合の經營は比較的簡易にして又必しも各組合員の大なる共同自治の能力を必要とせず、從つて其設立は最も容易なればなり。

第二、組合員の獨立に經營せる企業に對し大企業の有する所に類する利益を與ふることを目的とする組合。此種の組合は大別四種あり。第一は組合員の企業の經營に必要とする資本を低利にて得しむることを目的とする信用組合にして、此組合は消費組合と齊しく汎く行はる。是れ人々の事業の性質の異同を問はず汎く此組合に加入して資本供給の利を受くることを得ればなり。此組合は世間より低利の資本を得んとするものなるが故に、其責任制度は無限責任とするを適當とす。第二は組合員が生産上必要とする原料補助品等を共同に購買して廉價仕入れの利を行はんとする購買組合にして、我産業組合法は前に述べたる消費組合をも此中に包含せしむ。第三は組合員の生産したる物を其儘又は多少の加工を施して共同に販賣する所の販賣組合なり。共同に販賣機關を設くることは各組合員獨立して爲す能はざる有利の販賣を爲さしむることを得るものとす。第四は各組合員に高價なる機械其他の生産的設備を利用することを得しむる生産組合にして、其共同利用の方法は各組合員が或機械を順番に使用するが如く單獨に使用するあり、或は農民が共同して製乳所を設け、別に管理者を置て各自の生産に係はる牛乳を牛酪、乾酪等に製造せしむるが如く、全く生産作業の一部を各組合員の手より取つて共同機關に由り之を行はしむることあり。後の方法は農民が其生産したる生乳を其儘獨立の製乳業者に賣渡すに比して一層有利なるや否やは一概に斷定するを得ず。若し製乳の企業が大に發達するときは其生産費は農民の共同經營に成る所の製乳所よりも小なる場合を生ずべければなり。

第三、或生産業の全部を共同して經營する組合。此組合こそ眞に組合員に代つて企業主體となる者にして、學者は之を生産組合と稱し、會社と相並べ共同企業の一形式として研究するを得る者とす。通例獨立に企業を爲す者は其獨立の地位を拋ちて組合の規律の下に勞働を執ることを欲せず、此の如き者は第二種の組合を選ぶべきが故に、實際此生産組合を組織する者は勞働者に外ならず。一部の社會改良論者は一般勞働者をして資本の壓制より免れ自から企業者たるの地位に立たしむるものとして此組合に大なる望を囑すと雖も、實際此組合は成功することは難し。其理由は他なし、第一組合員は企業の成功に最も重要なる企業能力を缺くを常とす。社會主義者は往々企業の經營を以て極めて輕易の業とし、企業家は手を拱して勞働者の膏血を絞るものと見做すと雖も之れ大なる誤なり。競爭激烈なる今日の經濟界に於ては如何に豐富なる

資本を有する者も、特に企業能力を有するにあらざれば多く失敗を免れず。此の如き困難なる企業經營の任務は固より一般勞働者の能く行ひ得る所にあらず。又假令へ勞働者中に此の如き能力を有する者ありとするも、他の同僚が一々其命令に服從して手足の如く働き、以て企業の經營に必要なる統一及規律を保ち得ることは到底望むべからず、第二に勞働者の團體は企業の經營に必要なる資本を有せず。假令へ幾分の資本を集めて企業の成立を見るに至りし場合と雖も、資本の不充分なるが爲めに他の大企業と競爭すること難く、從つて組合を組織する勞働者は往々他の大企業に雇用せらるゝ勞働者の如く充分の給料を得ること能はず、而かも一朝事業の不景氣に際會すれば資本力の微弱なるより忽ちにして事業の失敗を招き、勞働者は多年の貯蓄を失ふと同時に業を失ふて糊口に窮するに至るべし。第三に以上の不利益に係はらず幸にして生産組合が大に發達し、組合員は普通勞働者よりも遙かに大なる利益を得るに至れば、彼等は無産なる他の勞働者の新たに加入し來ることを拒むに至るを常とす。是れ彼等の同階級者に對する同情の大ならざるに由るのみならず、無産の勞働者の自由加入を許すときは、加入を希望する者大に增加すべく、從つて其事業は過大の膨脹を爲し若くは組合員の間の共同一致の精神緩みて失敗するに至るべければなり、而して組合が此の如く一定の人員に限られて汎く新加入者を收容せざるに至れば、是れ其組合は普通の會社と同じく一種の資本的企業となれるものにして、彼の汎く同階級者の利益を目的とする生産組合の性質を失ふものなり、則ち生産組合は萬一成功すれば其性質一變して資本的企業となるを免れず。故に一部の社會改良論者の信ずるが如く此組合の制度に由て一般勞働者を資本の壓制より脫せしむる事は不能なり、從て我産業組合法が此種の組合を認めざることを以て重大の缺點と爲すは誤れり。

第四章　合同

第一節　合同の性質

第一款　合同の起因

輓近先進國に於ける一般文物就中經濟界の未曾有の大進歩は、約言すれば國民の勢力の旺盛と成れる結果なり。而して此勢力の發展を可能ならしめたるものは交通の進歩なるが、之に刺戟を加へて益々盛に發達せしめたるものは自由競爭の制度なり。若し夫れ元氣の内に鬱勃たるものなくんば、自由競爭の制度は必要なく又効力なく、且つ之を實施することを得ざりしならんも、既に進取的勢力の存在する以上は、之を活動發展せしむる爲め自由競爭の制度は必要にして缺くべからざるものなり。故に學者が近世の大進歩を以て之を自由競爭の賜なりと曰へるは必しも謬れるに非ず。乍併此制度は決して完全無缺のものにあらずして、一面には非常の弊害之れに伴へり。其の生存競爭を激烈ならしめて企業の集中財産の兼併を生ずることは此に說明を要せざる可しと雖も、此外第一に此制度は經濟界の進行を平穩着實ならしめずして常に大波瀾を惹起するの弊あり。抑も今日の資本的企業は無限に膨脹せんとして激烈なる競爭を爲すと同時に、市場廣大となりて正確に需要供給の觀測を爲すこと難く、加ふるに技術は日々に進むが故に、人々最も新なる技術を應用し、且つ最も巧みに商機を利用せざれば忽ち人後に落つるの危險あり。其結果今日の企業は非常に投機的分子を含み、少しく需要增加の徵候起れば人々先を爭ひ迅速に生產を增加して販路を擴張せんと懋め、之が爲め生產の過剩を生じ物價の暴落を來して遂に恐慌を惹起し、此恐慌の與ふる物質的破壞と精神的打擊とは企業心の銷沈と不景氣とを招き、而も一定の期間を經過して經濟界の健康體に恢復するに至れば忽ち又投機的膨脹、生產過剩及恐慌と云ふが如き進行を繰返すことゝなり、信用制度の大發達は益々此弊を增加せしむるに至れり。而して此弊害たる生產界に何等の統一なく、多數企業の割據競爭を爲す所の現今制度の下に在りては免るべからざる所なり、世間或は供給をして需要に適合せしむるの統一組織を缺ける現今の競爭的生產制度を稱して虛無的又は無政府的生產なりと稱するは必しも酷評と云ふを得ず。而して此制度の結果として屢々起る所の恐慌及不景氣の弊たるや、多年蓄積せられたる巨額の資本を一朝にして水泡に歸せしめ、急激なる困難に抵抗するの力乏しき中小企業を仆して大企業集中の勢を助長し、且つ人口の多數を占むる無產の勞働者をして饑餓に

陷らしむるものなり、故に生産上より見るも社會上より見るも其弊害の大なるは言を待たず。

第二に今日の競爭制度は事業の改良進歩を促して其の最も經濟的なるものをして勝利を得しむるの方法なりとは云へ、一面には非常に不經濟にして獨り當業者に苦痛を與ふるの大なるのみならず、社會の利益を害すること甚だしき缺點あり。抑も現今の如く無數の事業が分立割據して生産に從事することは、之を一團に結合して生産する場合に比し生産費の大なること多きは勿論、各企業者は此競爭の爲めに不必要なる巨額の經費を投ぜざるべからず。例へば市場好景氣の徵候を呈するときは人々先を爭ふて生産を增加するの必要あるより、各企業者は平素不必要なる巨額の固定資本を準備し置かざるべからず、又販路擴張の爲めに壯大なる店舗を構へ、多數の事務員を置き、廣告の爲めに巨費を投ぜざるべからず。此等の經費の中一般消費者には何等の利益を生ぜざる部分の頗る大なるは明らかなるが、而も此の如き競爭の結果は前述の如く生産の過剩及び恐慌を惹起して更に巨額の資本を消滅せしむるの原因と爲るものとす。競爭は進歩の母なりとの諺はあれども、過度の自殺的競爭は各企業の收益を減じて其維持改良の力を奪ふが故に、斯の如き競爭にして若し久しく繼續するときは遂に一般生産界の疲弊衰頽を來さゞるを得ず、又各企業にして堪へ難き苦境に陷るときは品質の粗惡分量の減少其他有ゆる不正競爭を惹起して、經濟上には勿論道德上にも大なる弊害を生ずること多きを免れず、殊に今日の如く各企業が器械、建物等巨額の固定資本を使用する時代に在りては、假令へ需用の減少、價格の下落あるも、直ちに事業の規模を收縮して其資本を他業に轉用すること能はず、而かも其固定資本の運用を休止すれば獨り其間の利息を失ふのみならず、相當の手入れ修繕は休止中と雖も之を爲さゞるべからず、加ふるに今日は技術の改良發明急激に行はるゝが故に、現在の固定資本の時代後れとならざる前に成るべく多く之を利用せざるべからず、斯の如く固定資本の運用の休止は損失大なるより企業者は寧ろ小なる損失を撰び、其固定資本の運用に必要なる流動資本に對し相當の收利を得る以上は、依然生産を繼續し若くは多量生産に由る生産費節約の利益を得るが爲め一層生産を增加し以て其困難に抵抗せざるを得ず。是れ實に今日の競爭制度が一般企業者に堪へ難き苦痛を與ふる大原因なり。

如斯自由競爭の制度は一般企業者に苦痛を與ふること大なる以上は、其間に競爭防止の方法を生ずるに至るは自然の勢なり、而して種々の方法は夙に攻究せられたりと雖も、其最も有效なるものは最近に發達したる企業合同の方法是れなり。故に合同を以て單に一時的の流行現象と見做し、或は法律の力を以て能く之を禁遏し得ると信ずるは根本的誤解なり。合同の發生の

時期を見るに初めは恐慌の後に於ける善後策の一として起り、從つて景氣の回復と共に解散せらるゝを常としたれども、今日は好景氣の際にも發生して豫防策と爲り、從つて其成立期限の一時的なりし者が次第に永續的のものとなり、其組織も初めは極めて散漫なりしが近時は次第に强固となり、其目的も初めは單に競爭の弊を防止せんとする者多かりしが、輓近に至りては更に企業の集中に由る生產上の利益を得んとする者增加し來り、之が爲め合同は將來の經濟界には動すべからざる大現象と爲ること益々明白と爲るに至れり、蓋し從前生產が主として家內工業の形式に依り流動資本を以て營まれし時代には、或事業にして過度の膨脹を爲せば容易に其資本を回收して之を他の有利の事業に移し、以て需用供給の均衡を回復することを得しのみならず、當時は尙ほ企業の規模一般に小にして企業者の數甚だ多かりしが故に、或事業に於て過度膨脹の結果競爭激烈となるときは先づ其中の劣者仆れて優者に生存の餘地を與へ、更に其間に新なる優者現はれて過去の競爭に殘存し得たる優勝者も今は劣敗者となり、以て漸々企業の發達を爲すことを得たり。故に此の如き時代には實に競爭は進步の最大刺戟たりしこと明なり。然るに其後交通の發達と人口の增加と生活程度の進步とは諸般の貨物に對する市場を大ならしめ、此大市場に對する供給を完ふするが爲めには生產の規模を大にすることを必要ならしめ、一方には技術の進步と資本の增加とは此の如き大規模の生產を可能ならしめたるが爲め、一般に生產の規模は年を追ふて擴大し、特に工業に於ては工場工業が家內工業に代はるに及びて企業集中の傾向益々大となり、爲に多くの生產業は少數の大企業の手に集められ、其の各企業の間に於ける生產能力の優劣の差は次第に減少して殆んど對等の勢力を有するに至れり。此の如き勢力の略〻相等しき大企業の間に於て從前の如き激烈なる競爭行はるゝときは、其の何れの一も他を倒すこと能はずして全體の疲弊を來たし、其競爭は所謂自殺的競爭となりて一般生產業の改良進步の餘力を失はしむるに至るを免れず。歐洲の經濟界は十八世紀末より十九世紀の半葉に至る迄は所謂產業革命の時代に在りて、新なる貨物は舊貨物と爭ひ、新なる生產の技術及經營方法は舊時代の夫れと爭ひて勝利を得たる時代なり。此の如き時代には成るべく個人主義に由り自由競爭政策を採りて、新舊兩者の競爭を完全に行はしむることを社會進步の要件としたるや明かなり。然るに產業革命が終りを告げて資本的生產時代に入り、企業集中の結果勢力の略〻相等しき少數の大企業が對立するに至れば、無制限の競爭は必ずしも社會全體の利益に非ざると同時に、各企業者に取りては勝利の見込は甚少にして其苦痛は前述の如く甚大のものとならざるを得ず。況んや一面に於ては輓近勞働者階級の自覺大に高まり、其團結運動

は益々盛となりて、分立競爭せる企業者は往々其勢力に壓せらるゝに至りしをや。此の如き情勢の下に於て競爭防止の運動の企業者間に起るは怪むを要せざるなり。

第二款　合同の意義

抑も合同なるものは競爭防止を唯一の又は最要の目的とせる多數の同種企業の私的結合なり。第一に合同は多數の同種企業の私的結合なり。故に其性質は普通の組合會社の組織又は多數者の規約申合はせと異る所なく、從つて中世手工業者の間に一般に成立せし特權的同業組合(Guild. Zunft) 又は今日の小企業の間に成立するを常とする同業組合の如き公法的團體と同じからず。Guild の如きは同業者間の競爭を制限することを重要の任務としたるが故に、合同の一種たる企業者聯合 (Kartell. Cartel) と頗る類似せる點多きも、其法律上の性實全く異れり。蓋し合同の目的が同業者間の競爭防止に在る以上は、同業者の全部若くは大部分が之に加入するに非れば效力なきこと明かなり、然るに古へは企業の規模極めて小にして同業者の數は甚だ大なりし故、各企業者の自由意思に因りて如斯團結を組織すること能はず、又一般に資本乏しかりしより同業者中の有力の者が同種企業の全部又は大部分を買收するが如きは固より不能なりき。之に反し輓近多數の生産業は少數の大企業の手に集中せられ、從つて其間に競爭防止の協議を成立せしむること容易となり、又資本の蓄積非常に增加し且つ其融通方法は非常に發達したるが爲め、時として有力の企業者は同種企業の大なる部分を買收して之を結合することを得るに至れり。此れ今日競爭防止を目的とする有力の團結が能く公法的性質を帶びずして起り得る所以なり。

合同に由て多數の企業を結合するの方法は種々あるも之を大別すれば、各企業者の獨立存在を認めて其自由競爭を或る程度迄制限するものと、事業上其獨立を滅して全然之を單一企業とするものとの二つに分つを得べし。前者は企業合同又は企業者聯合にして (Kartell, Gartel, Pool, Ring, Corner.) 後者は合同企業 (Trust) なり。本書に於ては混雜を防ぐが爲め原語に依り前者をカーテル後者をトラストと稱すべし。只だ此に注意すべきはカーテルは常に多數企業者の契約關係以外に何等の設備なく、トラストは之に反して常に單一なる大法人の形式を採る者と云ふを得ず。カーテルの場合に於ても各企業者間に最も競爭を生じ易き行爲卽ち其販賣事務を共同機關に由て執行し、此共同機關は各企業者の出資に由て株式會社其他の法人組織と爲し、各企業者は此法人に一切の生産品を賣渡すの形式を採ることあり、又トラストに於ても各企業は獨立の法人として表面の存在を有し、其經營の實權を一個の協同委員團體に委托するあ

り、或は後に説明するが如き一種の財政的會社（Finance Company）が各企業の株式の全部又は過半數を買收し、爲めに各企業は表面上獨立するも其經營は單一なる財政會社により左右せらるゝことあり。而してカーテルの最も盛なるは獨逸にして、トラストの最も盛なるは米國なり。

第二に合同は競爭の關係ある同種企業の組織する所ならざる可からず。尤も此合同の成立には種々の異りたる事業の合併兼營の現象を生ずるに至ること多しと雖も、是れ合同の要素に非ず。而して各企業者が互に競爭を爲すは其生產物を同一市場に供給する場合と、生產に必要なる貨物又は勞働を同一市場に於て需用する場合との二種ありと雖も、後に論ずるが如く主たる競爭は生產物の供給に付て起るものとす。而して此供給上の競爭は更に之を二種に分つ、一は各自同一の貨物を生產し又は勤勞を爲して同一市場に供給する場合なり、他の一は各自の生產する所多少相異なり、特に其生產物が各特別の商標を付して販賣せらるゝも尙ほ、同一市場に於て同一の目的の爲め交互に代用せらるゝ場合なり。後の場合にも各企業者の競爭手段は價格の引下げに出づること少なからずと雖も、今日行はるゝ主たる競爭手段は價格の引下げよりも寧ろ盛に廣告を爲して公衆の注目を惹くに在り。故に各企業者は此廣告的競爭費の爲に苦痛を蒙むること少なからずと雖も、尙ほ此方法によれば能く世の嗜好に投じて大なる利益を得るの機會に乏しからず。然るに前の場合には競爭手段は主として價格の引下げに在るが故に、各企業者の苦痛は甚だ大ならざるを得ず。是れ品質の略ぼ整一なる原料品、粗製品、化學工業品等に付て合同の必要を感ずること特に大なる一大原因なり。

合同が競爭防止の目的を達するの手段たるや甚だ多し。或は單に同業者の申合せに止まるあり、或は企業の種々の過程の中最も競爭を生ずる性質ある部分を共同にて經營するあり、或は企業の全部を合一經營するありて、共に合同たるを妨げず。只だ合同の目的とする競爭防止は畢竟競爭によりて生ずる價格下落の不利を免れ、若くは更に進んで價格騰貴の利益を收めんとするに在り。然るに此終局の目的を完全に達せんとすれば必ずや生產の制限を行はざる可からず。是れ堅固なる合同が技術的生產をなす所の企業及び交通業の間に成立し得るも、純然たる商業の間には永續的合同の成立不能なる所以なり。只生產業の合同既に成立するか、又は生產業者若くは生產品が本來獨占的性質を有するときは、商業は之に依賴して自己の合同を組織し得べしと雖も、決して獨立に合同を組織すること能はざるなり。

尙ほ此に注意すべきは少數者が同盟して買占を行ひ、價格を騰貴せしめて一時的利益を得ん